

一代の運命寶典

特 258

292



始



32
31

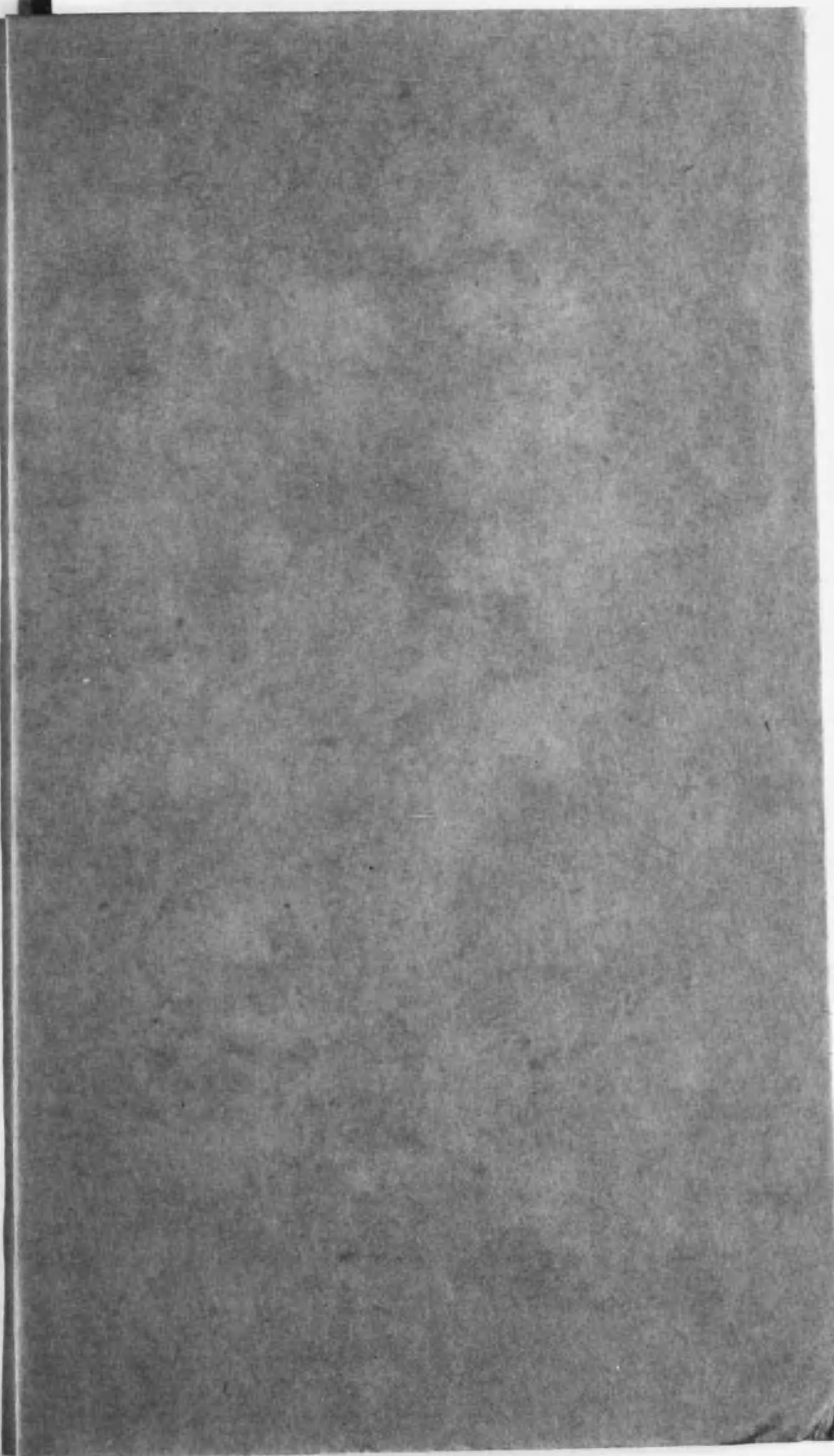
時 258
292

高島易断所本部編纂

一代の運命寶典



神靈館發行



秘開運 一代の運勢寶典目次

○八門死線及紫白の吉凶	一
○毎年の九星要覽	二
○方位吉凶表	三
○月の九星繰り方	四
○凶い方角	五
○養蠶家毎年の方位と吉日	六
○本命的殺の繰方	七
○一代の運勢	一〇
○毎年の月の九星繰方	一一
○一白の人毎月の運勢	一二
○二黒の人毎月の運勢	一三
○三碧の人毎月の運勢	一四
○四緑の人毎月の運勢	一五
○五黄の人毎月の運勢	一六
○六白の人毎月の運勢	一七
○七赤の人毎月の運勢	一八
○八白の人毎月の運勢	一九
○九紫の人毎月の運勢	二〇
○九星の運命性質と相性	二一

○一白水星	三
○二黒土星	二七
○三碧木星	三一
○四緑木星	三六
○五黄土星	四一
○六白金星	四六
○七赤金星	五〇
○八白土星	五五
○九紫火星	五九
○手相鑑識法	六四
○男の手相吉凶	六五
○女の手相吉凶	六六
○人相の大意	六七
○男子人相の善悪	七〇
○女子人相の善悪	七一
○男子面痣の吉凶	七二
○女子面痣の吉凶	七三
○女子の人相	七七
○子のある人の相	八六

八門死線及紫白吉凶



開運 秘傳

一代之運勢寶典

上圖の如く丑寅未申の線を死線と云ふなり各人一代の中に
 災害に罹りたる時は此死線の内何れか我本命星の入りたる年
 月日に限るものなれば何事も慎むべし、若し景門、休門、開門
 即ち紫白の線に入りたる時の年月日時何れもよろし、然れ
 ども生門は紫白宮なれば此場合はよろしとせず、此外一白開
 門又は驚門に巡り又は二黒、五黄、八白景門に入り三碧、四
 緑、休門に入り、六白、七赤生門又は死門に入り九紫傷門か
 人門に至りたる時は是を旺線に入ると云ふて其年に生る、人
 は幸運に向ふなり、又一白休門に入り六白開門に至り八白生
 門に入り九紫景門に入りたる時は其本命に當りたる人は何事
 も宜し、一白、二黒五黄、八白は辰の年月日時の中、何れに
 ても辰に會ふ時又三碧、四緑は未に六白、七赤は丑に九紫は
 戌にあふ時は墓に入る云ふて運弱し。
 次に一白は六白、七赤に當る年月日時の中何れにても旺氣にな
 る二黒五黄八白は九紫に會ふ時三碧、四緑は一白に六白七
 赤は二黒か五黄か八白にあふとき九紫は三碧又は四緑に會ふ
 時は旺氣となる故に何事も大吉也此理を熟慮して吉凶を知可

- 子なき人の相……………一〇七
- 家相の吉凶……………一〇四
- 一代謹慎すべき方位……………一〇〇
- 吉き月日……………一〇〇
- 方除けの法……………一〇〇
- 門構の吉凶……………一〇〇
- 倉庫の方位は……………一〇〇
- 竈の向け方吉凶……………一〇〇
- 井戸の場所吉凶……………一〇〇
- 台所流場の吉凶……………一〇〇
- 廁の位置……………一〇〇
- 浴室の場所……………一〇〇
- 納屋構所の吉凶……………一〇〇
- 牛馬小屋構の吉凶……………一〇〇
- 池、泉水、築山の位置……………一〇〇
- 物干場の吉凶……………一〇〇
- 神棚の位置吉凶……………一〇〇
- 佛壇の配置の吉凶……………一〇〇
- 階子段の位置吉凶……………一〇〇
- 床敷の吉凶……………一〇〇
- 棟木の吉凶……………一〇〇

- 逆木の吉凶……………一〇六
- 姓名判断……………一〇六
- 米相場の鑑定表……………一〇三
- 日歩を年利に換算表……………一〇三
- 年利を日歩に換算表……………一〇三
- 食物の喰合せ……………一〇七
- 魚の中毒に罹りたる時……………一〇八
- 菌の中毒を受けた時は……………一〇八
- 日射の手當は……………一〇八
- 食物消化の時間……………一〇八
- 應急手當……………一〇九
- 産前産後の心得……………一〇九
- 災難を豫知する法……………一〇九
- 服忌命……………一〇九
- 生れ月による男女の性格……………一〇九
- 生れ月と男女の相性……………一〇九
- 商賣始めを忌む日……………一〇九
- 種蒔の吉凶……………一〇九
- 旅行の方位と吉凶日……………一〇九
- 旅立の吉日……………一〇九
- 遠方に行くを忌む日……………一〇九

毎年の九星要覽



昭和十三年 戊寅年 八白土星



昭和十四年 己卯年 九黑土星



昭和十五年 庚辰年 七赤金星



昭和十六年 辛巳年 六白水星



昭和十七年 壬午年 五白金星



昭和十八年 癸未年 四紫火星

毎年の九星要覽



昭和十九年 甲申年 八白土星



昭和二十年 乙酉年 九黑土星



昭和二十一年 丙戌年 七赤金星



昭和二十二年 丁亥年 六白水星



昭和二十三年 戊子年 五白金星



昭和二十四年 己丑年 四紫火星

を改造して蠶種養桑を求むれば好果を收め利益を得らるべし。又蠶を掃立つるに

戊辰日、己巳日、丁巳日、甲寅日、戊午日、天徳日、月徳日に行へば大吉日である、若し庚申日、庚戌日に掃き立れば蠶兒の發育悪と云ふ

◎本命的殺の線方

○本命的殺は大凶方である若し過つて之を犯せば災害忽ち来るのである殊に恐るべきものは普請、婚姻、開店、旅行、移轉等で絶對に犯してはならぬ本命的殺の線り方は上圖の自分の年齢のある方が本命で其向ふ所の殺である例へば六才十五才の如きは本命北にあつての殺は南になるのである又一才十才等の如きは本命中央にある時は的殺は無い若し本命的殺を犯せば生命に拘はる事がある又此本命が死門生門中央へ這入た年は運勢甚だ宜しくないから注意を爲さるがよい。



◎一代の運勢

●羅喉星 中央 運 一才 十九才 三十七才 五十五才 七十二才
 乾室 運 十一才 二十九才 四十七才 六十五才 八十三才

○此の年に當る人の運勢は池中の龍の如く又地下の草木が萌芽する如く心は上へ進んでも身体が思う様にならぬと同じで兎角意の如くなりません、夫故何事も進んでやる事は止まる方がよい、兎角自己の分を忘れ實力を省すして僥倖を望み輕卒に事を爲さぬやうに現狀を維持するが肝要である、其他家内に口舌事が出來易く病氣盜難又は損失なども生じ易い、普請や移轉などは絶對にいけません、萬事守るに吉にして進むに不利な年であるから辛抱して時を待つのが大切である。

●土星曜 乾室 運 十一才 二十九才 四十七才 六十五才 八十三才

○此の年に當る人の運勢は丁度草木が芽を出して二葉が開けて枝の出やうとする時で一時躊躇するが追々暖氣が進めば枝葉も延て花も咲くと同じで爲事を根よく忍耐すれば失敗する事がない餘り急いで事を爲さんとすれば忽ち行止りになつて後戻をせねばならぬ様な事になりますから御注意なさい何でも上半年は餘り進まず下半年は先輩の引立で進やうになさらば必ず成功する様になりますから御安心なさい。

○水曜星 兌宮 運 十二才 三十才 四十八才 六十六才 八十四才

○此年に當る人は誠に結構な御運で何事も先輩の意見に従ひて物事を始むれば必ず成功するやうになります、唯此年は家庭の不和又は身内に就て心を悩す事とか心の緩みから誘惑に陥つたり又若き男女は色

情の爲めに失敗する事があるから好くお氣を付けなさい、兎に角此年は何日も莞爾々々してゑびす顔のやうな氣持で居れば福壽長久の基を開く様になります、金談もやりやうで調ひます。

● 金曜星 生 運 四十三才 三十一才 四十九才 五十八才 七十六才 八十五才

○此年に當る人の運勢は月の光りが雲間を漏るゝと云ふ象で吉運勢も時々黒き雲の爲に覆はれて清き月の光を遮る如く兎角に故障があつて思ひの儘にならぬ年である、併し其の障りさへ除れば元來よい運勢の年であるから万事に注意して謙遜にさへすれば成功します、併し今迄吉運の人は衰へ凶運の人は榮ゆる所謂極端から極端へと變動しますから先輩の意見を用ゆるが安全である。

○ 日曜星 盛 運 十四才 三十三才 四十一才 五十九才 七十七才

○此年に當る人は春季の節に花が咲き揃つた様な象である花は其中に追々散り初めて後の淋しさ思ひ染み渡るやうなものですから盛運だと云つて無暗に進んだり華美な事を爲てはならぬ、先輩に相談して事を爲さば失敗はなく順風に帆を揚げると云ふやうになります、併し離別散財事の出来る年だから御用心なさい、尙ほ冬の三月は諸事控目になさねば後日に悔る事があるから時期を待つがよい。

● 火曜星 休 運 十六才 廿四才 四十二才 六十才 七十八才

○此年に當る人は餘り盛んど云ふ運勢でもなければ又衰運と云ふ程でもありません、唯何事も休息して居る様なもので一生懸命に努力するなれば丁度妊娠したと同じで少々苦しいけれども臨月が来て安産して仕舞へば何事も嬉しく安心するやうなもので一時は中々苦しい様でも後には心配もなくなり安心が出来

來ます故に辛抱して時の來るのをお待ちなさい。

● 計都星 死 運 七才 廿五才 四十三才 六十一才 七十九才

○此年に當る人の運勢は衰微の極で甚だ宜しくない、恰も秋が来て草木が枯れ萎める時と同じである故に何をしても意の如くならず又自分も彼是々氣迷ひ多く人の意見も用ひかね信用もだん／＼失ひ、立つ事の出来なくなるものですから自己の非を悟つて先輩の人の意見に従ひ方針を改めて一心不乱に勉強すれば追々宜しくなり衰運も變じて福運となる事が出来る、但し本年は病氣に罹り易し。

● 月曜星 進 運 十八才 廿六才 四十四才 六十二才 八十才

○此年に當る人の運勢は猛虎千里を馳るの象と云えて盛大の吉運である去れば何事も進んで成功する時ですが無暗に進む方は陥落しまゝから能く基礎を定めて進むかよい去すれば發展の道が開け人の羨む程の成功が得られる、唯自力で出来ぬ希望を遣り繰り算段して無理から達せしめんとすれば他日大失敗の原因となり、萬事將來の基礎とすべき事を考へて目上の引立に縫ひなさい必ず成功します。

○ 木曜星 吉 運 十九才 廿七才 四十五才 六十三才 八十一才

○此年に當る人の運勢は渡りに舟を得ると云ふので川岸に行くやと折よく渡舟があるやの誠心万事好都合に運ぶ時である、故に何事をしてもし失敗は必ず成功しますが餘り焦つて細心の注意を怠たり又は新規の事業に着手するに余程注意して掛らねば意外の損失を招くのである、故に自分一存にて事を取り計らはず目上の人の意見を聞き徐々に爲さば必ず成功するのである。

◎ 毎年の月の九星線方

此表は月の九星を示したもので、仮令ば子年の一月は九紫の月で二月は八白の月で又丑年の一月は六白の月で寅年の一月は三碧の月である以下之に倣ふべし。

十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
七赤	八白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫
四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白
一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧

◎ 一白の人毎月の運勢

九紫の月 は掛合事とか争ひ事とか又商業にしても自分の方から仕向る事は皆好結果を得る月であるが嫁取娶取を始め萬事受身の事はよくない普請移轉は嚴禁である、南北乾巽の方は凶方です。

八白の月 は従來の業務を守るに利あり病氣にかゝることも全快すべし思ふ事一も叶はず何事も遅る、程災多し、只何事も口舌事を慎むべきである争ひ事は負となる相場は賣に利あり、東西凶。

七赤の月 は自分の進退に迷ふ事生せん或は思はぬ人の引立を得る事や意外の利益ある月なりサレドモ旅行先にて災難あり、普請造作差控てよし、子供の病氣を注意すべし、凶方は東西良である。

六白の月

は病難や婦人の爲めに散財がある住所職業の心配あり、虚榮の爲めに無益な散財苦勞を生ずる事あり先輩に相談して意見を

五黄の月

は何事も思ひ付いた事があれば他人を中に入れて話しすべし、自分勝手に行れば爲す事は必ず失敗に了るべく万事故障多くして後悔する月である、南北 坤 艮の方は凶方である。

四緑の月

は住所に迷ひ又他行して損失多き月なり、何を爲すにも力一ツ杯やらぬがよい、又病難に注意し家内の平和を破らんやうに

三碧の月

は大きな希望の起る月であるが多くは空中樓閣で實現されない共同事業などは成立つも行末の利益は覺束なし、其れから夫

れへと順々に心配事の生じ易き月である、東西は凶方です。

二黒の月

は望み事は叶ふ事あるも末には夫れが爲めに難儀する事あるべし、争ひ事は必ず負ける、住所職業の不安去らず且つ病氣に罹り易し醫師は南北の方位に限るべく凶方は戌亥辰巳である。

一白の月

は勞して功なき無駄骨の折れる月である、金銭上の利益は有らんも支出が多いから勘定合つて錢足らずに終るならん、病氣を注意して家内喧嘩を戒めなさい、凶方は南北巽です。

◎ 二黒の人毎月の運勢

九紫の月 は目上の人の引立を受くる事あり願ひ事も叶ふべし、然れども争ひ事生

じ易く他人の爲めに心配事生じ又漫りに人の言葉を借して損害あり紛失物をする事がある、東西南北良は凶方です。

八白の月

は家内不和合盜難又は紛失物等を注意すべし、又自ら招く心配事の生ずる月なり、今月始める事は行末を完ふするもの少なし、投機的の事は一層いけません、坤艮南北の方角は凶である。

七赤の月

は婦人の助けを得る事あり又女の來客あるか女子を出産する事あらん、縁談其他何事も速に爲す事は吉なれども遅れば凶なり、金銭の支出多く家族に就て苦勞多し、巽に金儲あり乾に旅行して幸あり。

六白の月

は他出して損あり金銭の利はありと雖も住所職業に迷ひあり、他人の言葉信じて後悔する事生ず、物事凡て焦るべからず追々吉運に向ふ時なれば夫れを楽しみに勵むべし、

い、東に向つて職業を求めて出世すべく南北に移轉して發展すべし、豫期せざる幸福に接する事あるべし、坤艮が凶。

一白の月

は運氣段々と吉くなり金銭上の利益多し、争事は和解となり婚姻は調ひ又婦人は妊娠する事あり、物を始めて將來幸福を得る萬事圓滿に行ふべし凶方は南北巽の方である。

◎三碧の人毎月の運勢

九紫の月

は餘程の決心と勇氣がなければ目的は達せられない万事障りあり前後に氣を配つて過ちなき様になさい一身上に係る事は乾の方の人に相談して吉、南北艮は凶方ゆへ御注意

八白の月

は離縁若くは病氣散財口舌等の起る事あらん、西方に助ける人があつて乾の方に移轉せんとする事生ずべし大きな石を抱か

乾巽南は凶方。

五黄の月

は親船に乗つた氣で万事新しい事業だの職業替へなどは猥りに爲すべきてない、移轉普請旅行皆凶なり、他人の意見に従ひ我意を張り慾張る時は運氣破れて失敗すべし、北坤の方は凶。

四緑の月

は他人の爲めに損失を受くる事あり又金銭の失費多し住所職業の不安と親戚又は骨肉との争あり眼病を注意すべし、縁談などは此月は駄目である、北の方に移轉して利益あり

三碧の月

は迷ひ心が出る月で新規の事や利慾の心が出たがりますが御注意せぬと人の爲めに損害又は詐偽される事があります、移轉旅行は凶です共同でやる事は途中で挫折する、凶方は東西乾なり。

二黒の月

は身分不相應の事さへ爲さねば先づ平穩であるが第一病氣を御注意なさ

された様な苦痛生じ易き月なり、艮坤の方は大凶である。

七赤の月

は伸んとする草が石の爲めに壓へつけられた様な意地にも我慢にも自分意の叶はざる月である、住居に迷ひ争ひ事生じ易し、婦人は言葉を慎まざれば禍を招くべし、東西巽の方角は凶い。

六白の月

は金談は手に取つた如くで不調となる、凡て心の反對に出る月で商ひは賣れば上り買へば下る家内喧嘩及び病難を豫防すべし、待つて居る事は月が替はればよい、巽乾坤の方は凶である。

五黄の月

は職業を變る住所を移す新らしき事を企つる皆失敗ならん、大に浪費を戒め己れの本業の爲めに心血を注ぐべし、我慢と剛情の爲めに人の信用を害し出世の機會を失ふ、東西は凶。

從へば利益を得べし、相談事は調ふ住所は變るも差支なし思はぬ人より金錢を得る事あらん凶方は南北良である。

八白の月

は人を妬み人の事に邪慮する悪念を戒めなければ大害を起さん病難盜難失物等を注意なさい物を賣るに損あり買ふに利あり婚姻金談不調なり普請造作移轉旅行は見合すがよい

七赤の月

は名譽を揚ぐるか人に引立てらる、か又家内に人増しするか財物の増加する事あり、去れど人先きに立つ事皆損となる、病氣に罹らば長引くべし、凶方は東西坤北の方が凶である。

六白の月

は諸事舊を守りて忍耐せば運勢日に増し盛んとなり、夫婦喧嘩と病難に注意なさい、縁談金談は始め六ヶ敷も末には纏まるべし、凡ての事早ければ調ふも遅るれば駄目である。

一白の月

は大なる希望とか遠方の事にて人を頼んで爲す事は皆不調に終るのである、義理ある人の爲めに煩悶する事あり何事も深く立入は損である心を焦らす時を待べし、凶方南北

◎六白の人毎月の運勢

九紫の月

は心の動き迷ひやら住居の移動等兎角豫期せざる損失がある爲めに何事も進むに凶退くに吉である、婦人に事を托して後悔する事あり安心の出来ない月である、氣を付けなさい。

八白の月

は目上の人に最負せらる、か給料上がるか商業は繁昌するか何か吉事あるべし、然れども短氣と粗漏の心を慎まざれば失敗を招く事あり、又住所と希望とには悩みがある、凶方良坤の方。

五黄の月

は他人の事について意外の苦勞を生ずる月である、相談事は急がざれば調ふべし、金錢の出入はあれど散じ易ければ財布の口を締めて迂濶に開くべからず北と東の方御用心

四緑の月

は喜び事の多い月です、先づ商賣は繁昌し人の信用も出来すが金談に繁昌し人の信用も出来すが金談に繁昌し人の信用も出来すが金談に繁昌し人の信用も出来すが金談に

三碧の月

は短兵急に爲さんとする事は皆外れ口と女の爲めに失敗する事多し、住居の苦勞や金錢の損失やら又親戚朋友に別る、事が出来る、物を始める事や普請などは慎んだ方がよい

二黒の月

は身分不相應の事に手を出して一生取返しつかぬ憂目に遇ふべく何事も差控へた方がよい、取り別け婦人は口を慎まざれば一家の不和合を招かん、短氣と虚榮を戒めなさい

七赤の月

は智養子縁組の話が出ますが思ひ立つ日が吉日であるから決斷實行せば案外の幸福を得ん、何事も急いで爲る事は成就しませんが遅いと駄目になります人と争事は御無用です。

六白の月

は万事に就て怒りを慎み忍耐して大に幸福を得、今月は氣忙しくて物事の抄取らず散財多く又病氣の起る時なり短氣強慢なる事を慎まざれば後悔する事あるべし凶方は乾良

五黄の月

は恰も暗夜の如き運勢である、靜に心を定めて夜の明るを待つべし、不平不足の起る事あるも隠忍自重して月の變るを待たば金錢手に入るか又人の引立を受け立身せらるべし

四緑の月

は金錢手に入るか月給上るか縁談あるか商賣繁昌するか誠に面白いよ

三碧の月

は退いて守るには利益がある進んで攻るには不利である故に勢に任せ

二黒の月

は住所安寧ならず心配事多からん血族の身の上に異動あるべし、出産無

一白の月

は十中八九懐ろへ這入つたと思つた品が終に他人の手に渡つて自分の身

七赤の人毎月の運勢

九紫の月

は學事に關する事を除く外は万事凶なり、争事生じ易く金銭上の損失

八白の月

は彼れや此れやと氣迷ひが多くて何事も纏まつた事が出来ぬ、人の世話

七赤の月

は恰も午後となりて日輪次第々々に傾く如き物の衰ふ月なれば新事業な

六白の月

は段々よき運に向へば決して不平や不満を起さぬがよい、万事質素儉約

二黒の月

は望事願事二ツあれば一ツは叶ふべし、故郷を去つて末に利益あり、

一白の月

は日輪西山に傾く如くジリ／＼貧乏で面白からぬ事多し、仮初にも不正

八白の人毎月の運勢

九紫の月

は心定まらずして心配事生じ易し、頼りに思ふ人は當にならず自分の外

ども損をする様な事はない安心して可なりだ、凶方は乾巽艮

五黄の月

は怒りを出さず柔和なれば吉です、人より引立られるか得物あるか商賣

四緑の月

は相談事は調ふも望み事について故障多く移轉して損あり、婦人は邪姪

三碧の月

は夫婦の間に争ひ生じ易く色慾利慾の難あり、不慮の間違生じ又不義の

八白の月

は止まるに利あり進む事損多し、望事は半分叶ふ、心配事生じ心安泰ならず、金談調はず、意外の散財事生ず、家督相續分家等する事あらん、家内の争ひを慎み馴れし業を守るがよい、凶方 艮 坤

七赤の月

は豫期せざる喜び事の生ずる事あり移轉旅行妨げなし、金談は他人を中に入れて調ふ、婚姻大吉万事人の助けを得て出世すべし、短氣を慎まざれば一家の平和を破る、凶方は 乾 巽 東西

六白の月

は望事願事は邪魔者ありて一ツは叶ふ、金談に婦人を用ゆれば吉、住所職業に迷ひ借財増加の傾きあり隠居するがよい、凡て此月は女と酒と口とを慎むべきである、凶方は 乾 東西

五黄の月

は殆ど半身不隨の病者の如く万事自分の思ふ事叶はず、人に従ひ物事控なり

一白の月

は多少金銭上の損失はあるけれども其の損失が却つて後日の幸福ともなるべく運勢としては先づよい方である、今月は勇氣と誠實を以つて爲す事は何でも貫徹します、凶方は 北 西 東

◎九紫の人毎月の運勢

九紫の月

は人と共に爲す事は調ふも己れの一存で爲す事は末に後悔多し、物質的の損害多く思ひも寄らぬ心配事生ず、住所に迷ふ事あり、短氣を慎み慾に放れて幸あり言語を慎むべし、凶方 南 北

八白の月

は運勢は悪き月にあらざるも進むには川を涉り退くには山を越す程の苦勞困難あり、非常なる勇氣と決心が無ければ圍を出

目にして吉、色情の爲に溺る、事あり、物事不自由を忍べば末には幸福となるべし、凶い方位は 東 巽 艮 坤 の方なり

四緑の月

は何時迄経つても吉運が来ないからと云つて糞焼を起してはならない、先月よりはズツとよい、人に嫌はる、渡世を爲ると却て成功するものである、今少し我慢しなさい、凶方は 南 北 巽

三碧の月

は目に見て手に取れざる如き月なり万事苦勞多くして己の心に任せず旅行すれば災難あり、僅かの感情よりして親しき人と不和になる事もある、金談思はしからず、凶方は 東 西南 北

二黒の月

は本月は悪い月と云ふ程ではないが暗剣殺の爲め望事願事一切に障害ありて目的は達せられない、月給取りは首になる事あり、女の爲めに面目を失ふ事もある、住所不安

難き程の月と思つて大に業務を勵むべし、東西 乾 巽は凶方なり

七赤の月

は物事を八九分迄もやつて来たが其の末の僅かな事に力ら足らずして困難する月である、日頃の心掛けと同情心の薄き爲め補助を得難くして煩悶する事あらん、東西 艮 の方位は凶い

六白の月

は自分さへ善ければ他人は何と成つても構はぬと云ふ了簡でやる事は皆不首尾である、自分勝手や不義の淫樂を戒めざれば末には零落して人の笑ひを招かん、艮 坤 乾 巽 は凶方なり

五黄の月

は萬事今迄の業を固く守りて急すに時を待つべし、人に欺かれざれば人を欺く事あらん、火災盗難に注意すべし、職業を求めて成らず、相談事に妨げあり、住居に辛勞あり、凶方は 南 北 である

四・緑の月

は愛慾の爲に溺る、事を戒むべし。女の云ふ言を用ひて利益あり、誤解又は嫉妬の爲めに一家の不和を生ずる事あるべし、又人を羨み人の業に惚れずして我業務を勤むべし。凶方南北乾巽。

三・碧の月

は手の中に入つた積りの金が何處へか紛失したと同じである、儲かつた様の氣がして儲からず調つた様の氣がしても相談事が抄取らず、萬事が斯んな調子で宜さそうで悪い月だ。

二・黒の月

は順風に帆を揚ると云ふよい運が向いて来た相談事は調ひ商業は發展し共同事業は成功すべく、又住居を今迄よりも賑かな場所へ移して大によく又金運もあらん、凶方東西艮坤。

一・白の月

は善いと思つて爲た事が却つて仇となり金談縁談皆調はず、家内和合せず、長女の身に危害のある月である、普請開業移轉等は害あつて益なし、凡て油断せず用心が專一である、凶方南北。

▲九星の運命性質と相性

◎一白水星

一白 は水星で易では坎と云つて北の方位にあつて其性は水である而して其水は陽水で賑かな事を云

丁度川の水が流れて海へ出るまでには木の葉の下を潜つたり其所の岸や彼所の岩角に衝突したりして思ふやうに流れて行けぬと同じ事で苦勞の絶ぬ性である。

此年の人は小才の利く者が多く何事も如才がなく愛敬があつて表面は優しく穏かなやうに見えて内心は案外に豪膽で誠に片意地で何事も秘密にする質である、其上此星の人は慾心が深く出て出す事が嫌ひだ云ふ風であるから俗に云ふ吝嗇である、故に自分勝手な節儉を爲してゆくの身上持は極めてよい併れども其心持が吝だから大した事をしたくも、所詮する事が出来ぬ、夫れゆへ自分一人の力で働いては大した者に爲られない。

併しながら一白星の人は男女共に凡て器用の質で何事を爲せても辛抱強く物に飽きずに勉強するから大概の事は仕遂て仕舞ふ、故に一生の内に困ると云ふ事は少なひ、クレゾ片意地の質ゆへ自然偏窟であ

ふ、水の賑かなと云ふのは川の水とか海の水とか云ふ動く水で即ち流れて止まつてゐないと云ふ事であるから、此の性の人は常に苦勞が多く善いかと思へば悪く、悪いかと思へば又善いと云つた様な工合で

る、其れ故に氣忙しくて迷ふ様子があるから進んで事を仕様と云ふ心は十分あるも兎角に埒があかないので進ませやうと氣を焦る割合には凡てが進まないのである、是れ即ち川の水が彼處へ當つたり此處へ當つたりして流れてゆくのと同じく進もふと氣を焦つても思ひ通りには埒があかないのである、此星の人は表面は人の云ふ事に従つても内心では従つて居ないので自分の思ふた事を何處までも押し通さふとする、夫故に折々事を仕損じて難義をする、併し剛情なだけに無理な事をも能く忍耐する爲めに思ひも寄らぬ出世をする事もあるが是れ等は稀で十中七八迄は剛情の爲めに失敗をする、又自惚の心があつて人を見下る様子があるゆへ他人から嫌はる、事あり是れ等は此星の人の瑾であるから常々注意して剛慢を直す様にせねば万事に附けて損である、以上の如く慢心の爲めに人より憎を受けて爲す事の邪魔をされたり又は親戚朋友なぞに見離されて困難し又は損

失を爲して住居を失ふ程の困難を招く事あり、尙ほ此性の人は思ひがけなき災難に遇ふ事ありと知るべし。

次に慾深き性なれば其慾心の爲めに人の話に乗せられて仕馴れぬ事に迂濶と手を出し非常な損害を求むる事あり、兎角我が思う事が隔離く反復へり易くして思ふ様にならず生涯心配苦勞の絶へ間なき性と知るべし、又幸ひにして富豪の家に生れ何不足なく暮すも雖も常に憂き事多くして喜びの少ないのは是れ飽ことを知らずして物事に迷ふからである。

此星の人は自分の力では充分の發達が出来ない、先づ九分までは人の上に立つ事が出来ず人の下に順ふてゆかねば爲らない、若し幸ひにして人の上に立つ事あるも終には自然と人の下に就ねばならぬこと、なる、凡て何事に依らず我意を押し通さふとさへ爲ねば先づ生涯安泰で暮されず、此性の人の中にも修養の積んだ正實の人は温順を以て人に謙遜り誠

意を以て交際し危を知つて自ら身を謹み志を屈して今日を安くする人もあり、又不正の人は慾に迷ひ博奕などに耽り又は人の難義を以て自分の利を得んと物に深入し、安りに進みて事をなし終に家も身も亡すに至る、古語に水は方圓の器に隨ふと云へり故に堅意地を捨て柔順くしてゆけば終に人に取立て立身出世をすべし、譬へば茲に一つの流水あり人器を以て汲んとすれば水は其人の意に従はず我意を立て、其器に入らず外に溢れ出る時は泥土に混合して濁水となり次第に低下し末は泥溝の中へ流れ込み世の捨り物となる、易學の方から云へば一白は坎の卦である、坎は陷なり下るなり勞するなり、正北の方位にあつて萬物の歸する所なれば男女共一生の運勢は艱難の性なり、故に此性の人は總て皆艱難となり難義困窮す、依て此困難を急に免れんとし商賈又は山師的の仕事に手を出せば益々加へ終には家も身も滅すに至るべし、一

ば茲に人あり誤つて嶮岨の地に陥り無理に逃んどして路なき所を駆け廻り物に爪付き倒れて深き谷底へ落ち入るが如し、是即ち俗に云ふモガキ貧乏とは此星の人の事なり、故に兎角人と交に誠意を以てし其身を慎み時節の至るを待ときは自然と右嶮岨の地を免れ出る期に逢ふ事あるべし、故に心を苛て焦る程艱難いや増すと思つて己を顧み深く慎むべし。

此星の人は、金に因縁ある類又は木類を扱ふ業をなさば相生して吉、土や火の類に因みたる業を爲さば決して發達する事なし。

此星の人は二黒五黄八白九紫星の人と何事によらず同心協力して事を爲すべからず、自分の爲損多く又六白七赤三碧四綠星の人と縁組は勿論其他何事を爲しても吉。

以上は一白星の人の性質であるゆへ此の中にて慎むべき点に心を注ぎ常に能く之を守らば自己の利益となるのみならず一生我身を安樂に暮させる基礎と

なるのであるから深慮注意をなさるがよい。今迄は一白水星の人の全体に就いての傳説であるが之を生れ年に就て見ると、同じ一白でも子と卯、午と酉と皆其の性質が餘程違つた所があるから各生れ年に分けて見れば、

(子年の一白)此の年の一白は小才があつて仁義を守り他人の爲めに骨身を惜しまず盡さんとするの親切心がある、併し事に當つて愈込み入つて來ると躊躇する欠点がある、又人から物を依頼せらるると之を斷ると云ふ勇氣が少ないがため思はぬ損失を招く事がある、換言すれば輕卒に事を行ふ爲めである、又此年生れの人には細かな事に氣が付いて金錢の爲には義理人情を欠きて吝嗇と云はれ又猜疑心深くして他人の同情を失ふ事あり、色情の爲に損失するも三十歳までに好運の來る事がある、此期を取外すと榮枯盛衰の多い生涯を送らねばならぬ、されど晩年は案外幸福で暮されます。

(卯年の一白) 此の年の人も至極柔順で所謂温厚篤實と云ふ風がある、ケレ共聊か怠惰の氣があつて業務に不熱心の所がある、其の爲め多大の損失を受け失敗を招く事がある、酒と色情とを大に慎まねばならぬ。

又此の年の人も他人から頼まれる事を拒絶し兼ねて知らず／＼深淵に入りて損失を受ける事があるから常に慎まねばならぬ、其の代り他人に親しみ愛される徳がある、之れは平常人の面倒を見て遣る爲めであるが併し其の割合に其人から恩に報わられる事が少ない、云は、骨折損の疲勞儲が多い性分である又色情の關係に就ては成立が早い、けれども男は一人の女に満足せず女は男に對して常に不満がある此年の人は氣迷ひする事が多く従つて同じ仕事に永く熱心するのを好まぬ性質がある、兎角氣儘勝にて思慮決斷の鈍き爲に失敗することあれば注意するがよい。

(午年の一白) 此年の人は心陽氣にして物事に熱心なるも口數多き爲め度々失敗する事がある、そして世話好きで自己の利害に拘はらず盡力するも我意に合はぬ事あれば之を打捨て、顧みぬと云ふ氣風がある、併し性質は俠氣に富み、他人の爲めに骨折りを厭はず又奮闘努力もするが其割合に成功し難い事が多い、之れは偏癖の性分であるから改めなければ成功することが遅い。

(酉年の一白) 此年の人は凡て決斷力があつて決心が早い爲めに快々失敗する事がある、故に後には輕卒となり前後の思慮分別なく安受合をして損失する事が多いから此点を注意せねばならぬ。

元來此年の人は世話好きで他人が頼みもせぬ事を自ら進んで引受け利害得失を省みず奔走する、其が爲め迷惑する事も多い、之等の点も能く考へて何事にも慎重の態度を採るがよい、而して此人は幸と不幸とが恰も天候の様降つたり晴れたりする、例へ

ば一面に於て両親を失ふたが善良の妻を求めたとか商賣には失敗したが信用は高まつたとか云ふやうに不幸の一面には又幸福を受くる事が多い、又不幸を幸福に轉換するの才を有して居る爲め晩年に成功するのである。

次に此人に適當する相性は三碧、四綠、六白、七赤が吉で二黒、五黃、八白、九紫の人は凶である。

◎一黒土星

一黒 は土星である、而して此の土星の土は平地の土で物を育て養ふどころの物で易に於ては坤となし未申に位し人より貴び用ひらる性である、而して福徳の運氣を享有して居るけれ共、其福徳も他へ禿々と吸ひ取らるので果報者の割合には樂でなく、常に苦勞する事がある、此の性の人は自分の爲めよ

りは人の爲めに苦勞難義する事多し、又此人は頓才があつて所謂目先が敏く人の顔色を見て能く其人の心を察すると云ふ方で、而して口先が軽く見た事や聞いた事を腹に藏めて置く事が出来ない性分である事などは話されないものである、併し心は正直であるが慾心は可なり深く且つ何に限らず疑ふによつて自然と迷ふ心が生じて来る、其上他人の善き事あるを妬み嫉むと云ふ容子があるから無駄らぬ事よりして人を恨む氣になつてならぬ、是等は尤も慎むべき事である。

此の性の人は一寸見ると優しく物事が静かである、ケレども内心は左様でない、見掛けによらぬ意地悪く且つ高慢振質で人を馬鹿にしてならぬ、夫故人より憎まる、事があるから時に思はぬ災難に遇ふ事あり、故に此性の人は片意地の心を直して成るべく遷り能く人に従ひて事を行は、間違はない、兎角我儘勝手の舉動多く人の云ふ事を用ひず自分の

思ふ通りに行ふので仕損する事が多く又人より愛想を盡さる、事あつて立身出世を妨げるものと知べし次に此性の人は子供の時分よりして何事もキチンと定りを付けて置く質で恰も老人のやうな有様がある又常に迂闊くとして居るから中年過ぎ迄に身代を持ち崩して終るか、左なくば中年過ぎまで我家を離れて旅他國を駆け廻りて苦勞辛苦する事あるべし、若し然らずして我家に居ると雖も心は浮々として宛然旅の空にあるが如く彼處へ行つて見たり此處へ来て見たりして落付かない、それから常々新らしき物を好んで身の廻りを飾つたり又は道具に身分不相應な物を用ひたり又住居などを立派にしたり兎角派出を好んで嬌つてならぬ、其れが爲め身代が持てぬ事がある、故に我儘で通さふとせず能く分限を守り奢侈を慎み人の意見を用ひ人を愛し、而して人と共に事を行へば万事に失敗なくして穩かに豊かに一生を送られるのみならず人先に立ふとせず人に従ふやう

にして順和にして行きさへすれば立身出世は間違ないものであるから篤と考へて一身の幸福を圖るがよい万一不正の心を起して陰に悪事を企み表面を實直の体に見せかけて人に取り入り又は人を瞞着せんとすれば忽ち災を得て一身を再び救ふべからざるの位置に陥る、事あれば大に憤み夢にも悪心を起してはならぬ。

又た中年までは身内の爲めに苦勞する事が多く且つ自身も亦た吉き事の少ないのであるが中年後よりは運が開けて来て目的が成就する、又誠意を以て人に盡さば敵となりし人も後には自分の力となつて望み事が達せらるゝのである。

此性の人は男女共に心の多き質なるを以て若き時は勿論の事、年を老ても色情の事に就いて苦勞あり女は取り分け嫉妬心が深く故に之を慎まぬと思ひがけなき災難に遇ふことあり。

又此の星の人は存外器用な質であるから手工は上

手である、故に職を持つて家業と爲さば生涯家庭の安定を得らるべし、次に此性の人は九紫火星の人と縁組其他何事にも共同して事を爲せば大に利益あり、又六白七赤金星の人と凡て組合て事を爲せば仕合吉、三碧四緑木星の人と一白水星の人と縁組は勿論其他利害を共に爲すべからず、害あつて益なし慎むべし、以上は二黒土星の人の性質であるから其の中の慎むべき所を慎んで立身出世をするやうに御注意をなさい、而して同じ二黒土星の生れの人でも生れ月日に依つて多少の相違があるから之れも矢張り各生れ年に就て説明して見ませう。

(寅年の二黒) 此の年の人は一方の頭領たるべき運勢を有する人である、仮令學力は無くとも氣質が勝つて居るために何職でも人の頭株になるのである、而已ならず長者の引立を受ける性ゆへ目的を達するも他の星の人よりも速かである、若し目的を達する事が出来ない時は一方ならぬ不平を起し遂に其位置

を去る程忍耐が出来なくなる、要するに是が非でも自分の目的を貫かぬと満足せぬ勝氣がある、而して思ひを遂げて一方の頭となれば利害の關係は敢て意とせず其の部下を愛し又憐み義侠を以て自ら満足して居る、即ち一の名譽に満足するのが寅年の二黒本来の性質である。

次に此年の人は物事に對して猛進する傾きがある表面は淡泊のやうであつても内心は猛烈で深い決心を以て進むので時に大なる禍を惹起す事がある、故に冷静に考へて遣らねばならぬ、事あらば退いて靜かに之を考慮するのが此人の忘るべからざる戒告である。

(己年の二黒) 此年の生れの人は性質柔順温厚にして正直にして物優しく故に目上の引立を受け立身出世を爲る事が出来る、又人情深く友情に厚く弱者を救はんとする義侠心がある、即ち兄弟や朋友に對する情は濃厚で一椀の飯を半分割いても與へんとす

る情がある、其の代り先方が友情を無視する行爲を爲せば容易に和合しなくなる、即ち感情に走り易く寛大の雅量がないのである、併し此人は優柔不剛の性質で決心に乏しい所がある、換言すれば因循姑息である爲め機会を失ひ損失を受け又は立身出世の端緒を取り逃がす場合がある、故に平常心得おくべき事は一度事を考へて善と思つたら斷然意を決して一直線に進むが利益である、而して此年の人は青年時代に苦勞多いが中年以後には幸福に成つて来る。此人の運氣は至極よろしい方で一生衣食に困難する事は少ない、福祿兼備はつて居るから勤勉すれば忽ち其効果が現はれる、幼年贅澤した人は中年に苦勞する、又幼年苦勞した人は中年より安樂となる、何にしても晩年は心配がない、只虚榮心を起さぬやうに爲さい、而して嫉妬心が深く人の瑕疵を探すので感作を害し易い故に猜疑心を捨て、交際を爲がよい。

申年の二黒 此年の生れの人には才智は富んで微細の事にも氣が付く、而して物事の整理力を有するが故に是等の長所に基いて目上の引立により立身出世をする運勢を持つて居る、ケレ共運氣は幼年から中年へかけて苦勞が多く安樂と云ふ事が更になく、併し晩年に到つて安心する様になる、衣食には不自由なくも住居には心配がある、兎角榮枯衰盛があるから浮沈が多い、常に女難があるから注意せぬと一生の不幸となる。此人世才に長て交際上手で部下を統御し後進を慈しむ能力が秀てる爲めに部下や後輩から信頼さる、事が多い、斯る慈愛もあるが先方の出様が悪いと忽ち捨て、顧みぬ短慮の所もある。又此の人は世話好きで他人から依頼せらるると忽ち之れを引受けるので思はぬ失敗や損失を受くる事がある。此のやうに人の世話を爲すに拘はらず其割合に酬

が少く幸福薄き傾きがあるから自己を顧み何事も先輩と相談をして慎重に事を爲し確實に老後の計畫を立てる事が大切である、即ち晩年の安樂を壯年時代に確立して置く方法を講じねばならぬ、斯くして人に恩恵を與へても其報を頼まず飽迄も獨立が必要である、又此人の全盛時代は四十五才であるから此の時心を締めねばならぬ。亥年の二黒 此年の人は正直で且つ淡泊で其上に獨立心が強く飽まで人の世話にならぬと云ふ氣概がある、故に剛情で他人には一歩も譲らぬと云ふ負け嫌ひの氣象がある、爲めに自分の意志は是が非でも貫徹せんと欲するが爲め、時に過失損害を招きて自ら苦しむ事があるのである、又少しく都合が悪いと直に職業や住居なども轉じて見たい氣がある、それ此の人の氣風としては自分から觀れば何事も成就する様に思はれるが之れは其の性質から斯くなるのであるから時々誤解を招く事がある、此点に充分

留意するがよい。又正直なる性質の爲め他人の巧言に乗せられて失敗を來す事がある、此年の人は晩年に幸福少ないから青年の時代から考慮して置かねばならぬ、此不幸と云ふのは親兄弟の如き近親の者に不幸を生ずるか或は自己の位置名譽を失脚するとか其結果多大の困難に陥るやうになる故深く注意せねばならぬ、是等の点に氣を付けて進めば意外の大幸福を受ける事が出来るのである。又婦人は嫉妬心が深いので家庭の圓滿を欠く恐れがある、誠實に進まねばならぬ。次に此人に適する相性は九紫、六白、七赤が吉で他は皆凶である。◎三碧木星 三碧 は木星で易では震と云つて東の方位にあつ

て其性は木である、此木は喬木であつて松とか杉とか檜の如くズンズンと上へ立ち登る木である、因て此の性の人は上へ上へと立ち登らうとする心が絶えずある、故に随分人の頭と爲る事がある、其は松や檜が生育して大きくなると柱や棟木に用ひられて家の基礎を爲す事があるからである、併し一得一失は數の免がれぬ所で、此性の人は何んでも立ち延びむとする心があつて一口に云へば中々素晴らしい勢であるのだから何うも短氣を起したがつて困る、所謂一足飛に出世を仕様として只々向ふへへ〜と進まんとする風があつて其れが爲め物事凡て仕損じ多く、時に非常な損毛をして家を潰す位の不運に陥る事がまゝあるのであるから、此星の人は短氣を慎み万事を落ち付いて無茶な事をせずによければ随分人より優れた出世をする事が出来ると云ふ實に徳な性なのである、常人は兎角に短氣を慎む事が出来ずして爲めに大なる損失を爲し苦勞困難する事がある。

此星の人は誠に短氣で少しも辛抱すると云ふ事が出来ぬ、仮へば一ツの事を始めて其事が思う通りにならぬと直に疝癪を起してモウ斯様事は止めだど云つて打ち棄て、仕舞ひ、又他の事に手を出すと云つたやうな案排式であるから物事に飽性で而して自分の勝手の事が多い、而して疑惑の念が深くつて且つ得て勝手に其上に物事に不性で掃事が嫌ひで自落なんである、故に此の性の人は大切の事や又永い間か、つて遂げる事などはせぬがよいと云ふのは途中で飽が来て打ツ棄つて了うか或は自分の思う通りに爲らぬと云うと我儘を起して關係せぬ様に爲つたり乃至は苦情を云ひ出す様な事があるからである。

夫れから此性の人は中々強いやうであるけれど其内心は弱くして物に怖れる質にて所謂臆病者である、因て自分より目上の者か又は勢の強い人に逢へば直に言葉を低ふし禮を厚うして媚び諂ふ風がある、又自分より目下の者か或は勢の弱い者を見ると大

に力みて馬鹿にするのみならず万事に就て負惜みが強く且ツ高慢ぶる癖があるから、それが爲に長上の人には踐まれて愛想を盡され目下の者には忌み憎まられると云ふ容子があるから大に發達の途を妨ぐるのであるゆへ此事を特に遵守しなければ立身出世が出来なくなるのであると考へねばならぬ。

又何事に拘はらず最初の中はハキ〜として男らしい所があるけれども其實は直と飽が来て更に男らしくないのである、其の代り何か事を起す時には人より先へ立つて勇み進んでやるから一寸した事には調法である、ケレ共唯だ一時調子に乗つて騒ぎ立つるのみで所謂ヤリツ放して反つて人に恨まれたり憎まれたりする事がある。

次に此星の人は智慧がある、ケレども其智慧を工合よく用ゆれば出世をするのだが悲しい哉深く考へると云ふ事を爲ぬので物事を仕損する事が多い、元來負惜みの強い性質だから人の悪いと云ふ事に従が

わぬ風で自分の思うた事に手を出して思ひがけなき失敗をすることがある、其處が夫れ負惜が強いからして心の中で悪かつたと後悔しても顔色に現はさず獨りで心を痛めて居ると云ふ風である。

其れから此星の人は動き易く怒り易いもので一寸した事を非常に怒り其の怒りの爲めに其身を忘れ大なる過を起し又少しの事にも大聲を發し怒り罵り物事破に至る事度々ありて夫れが爲難義困却する事あれば喧嘩口論公事訴訟等を慎み、下人を遣うにも能備みを加へざれば下より事を起し吾身の害となるゆへ成だけ人を使ふには備みを加ふべし、若し我威に任して人を輕蔑し人を憐まざれば君臣父子兄弟は勿論朋友等に至るまで中惡くなり人に見捨られるに至る故に短氣を慎み柔和にして人を憐み家業を勵まば一家繁昌し其名雷の如く四方に名聲響き渉り大に立身發達すべし、又此星の人は口と心と違ふ質にて譬ば迅雷の如く聲あつて形なし、夫れ故口約束をした事

優婉にならぬ人である、中にも誠實の人は慇懃丁寧の行を以て人と交はり妄りに粗漏の言を出さず万事温順を以て主とする人もあり、又不正の人は心騒がしく少しの事にも聲を高くし無益の事に人と争ひ又は人に荷擔し或は人を切し輕卒を以て身を過ち人の謗を受け或は無實の難に遇て遠方へ高飛びする人もあり、常に身を省み慎むべし、易の説卦に震は出なりとある故に平生靜かに氣を落ち付けて吾家に居がたき性質なり、夫ゆへ吾家を出て他家を相續するか又は別家するか、仮令吾家に居ても何となく心落付かざる故只外へ出歩行たき性なり、又此人は凡て何事も自分が見た事聞た事を胸に包み藏す事の出来ない性分ゆへ密談は餘り語りがたし、直に人に漏らし易く又激發心があるから些細の事にも聲を發して大層に怒る事速く、去れど云つた後は直に心和らぎ怒の解る事も又人より速く譬ば夕立の雷鳴の如く一時は裂しけれ共空晴れ雨止めば本の天氣に復

ると同じ職業は火と水を扱ふ業は適當するも金物類の業は悪きと心得べし、凡て何事を爲すにも一白星と九紫星の人と同意して事を爲さば發達するも六白七赤金星の人と縁組は勿論其他何事をも共に爲すべからず、損あつて益なきものなり、以上は三碧星の人の性質であるが充分發達されるのであるから説き示せし性質の中に於て慎むべき事を能く注意すれば立身出世は疑はないのである、尤も同じ三碧木星でも其出世の年や月に依つて異なること前例と同様であるから左に之を分別して述べて見やう。

(丑年の三碧) 敢て動物の牛に譬へる譯ではないが此年の人は表面頑固のやうであるが内心柔和である而して忍耐力と自信力とを持ち容易に人に屈せず又物事に落付きがあつて頗る辛棒強い性質である、加之胸中更に邪氣邪心なく誠實正直を好む、夫れ故先輩の愛顧を受け立身する機会が多い、去れども誠に辛棒強く柔和なるに拘はらず常に現在の地位や境遇

に甘んずる事が出来ず不平不満を懷いて居る、畢竟之れは自己が飽まで立身出世をせんとするからであるが他人ならば敢へて不満のない所まで不満を持つて居る、此人青年時代は幸運が薄いが晩年には子孫多く幸福に暮す事が出来るのである。

(辰年の三碧) 此の年生れの人には表面柔和の様であるが内心は我意が強く或時は程度を超えて他人の難問題を引き受けて解決をして見やうと云ふ風がある之れは此人に義侠心があるからで誠によい性格ではあるが或は程度を越して他人の疝氣を頭痛に病むと云ふやうな事になる場合もある、其の爲めに思ひ設けぬ失敗をしたり損失を招いたりする事が多い故に程度を考へてやらねばならぬ、それに此人は誠に氣が強くして負けず嫌ひと云ふ点がある、即ち敵愾心が多いので、強者を倒して大なる満足を得るのである、此の間利害得失を更に顧みぬと云ふ質だから餘程慎重の態度を採らねばならぬ。

又此年の人は凡て短刀直入に進まんとして己の言を容れず自分一人の決断によつて爲すが爲めに之れが大なる失敗の基となりて困窮する事もあるから此の点を改めねばならぬ。

女子も亦男子と同様にて弱い男と見れば之れを助けんとする義侠心がある、俗に云ふ男勝りと稱する女は此年生れの婦人に多い、故に夫婦となるにも相手形の強情の強い人よりは柔和温順の男と和合するのである。

(未年の三碧) 此年の生れの人には人情深きが故に能く他人の世話をする事を好み弱い者を助けると云ふ慈愛心があるに拘はらず餘り幸運に向はぬのである仲には富貴の人も稀にはあるが大概中年の頃に至るまで此の薄幸が續くので心勞する事が多い、併し性質は柔和温厚で且つ正直なるが故に人からは愛せられ、目上の人の引立を受ける事が多い、斯くして愈幸福の位置に向はんとする時に突然事故が出来て再

び不幸に陥る事が多い、故に壯年の時代より此点に注意して其時の事を考へ置き前後策を講じて置かねばならぬのである、斯くすれば生涯幸福の身として安樂に暮す事が出来る。

(成年の三碧) 此の年の生れの人には氣風概して温良従順であるが又聊か偏窟の所もある、俗に云ふ變り者と云ふのは此年の人を云ふ、又物事の成功を急ぎ一時に完成せしめんとする氣風がある、且つ突發事件の出来た場合には之れに狼狽する傾きがある。又人情に厚く友誼に富み感情に脆い爲めに思はぬ迷惑を受ける事が多い、此人の運の悪い時は青年時代であつて而も酒色の難を受け易い、けれ共中年頃よりは運勢挽回して幸運に向ひ漸々よくなり五十歳以上に於ては諸事思ふ様に成功して幸福が来る事が多い、唯だ此人の欠点は偏窟の点と性急短慮の点と物に飽き易い所が玉に疵である。終りに一言するが此年の男女は多く飽福者であつ

て不器量の男でも美人と結婚したり醜婦でも美男と縁が結ばれたりする事が多い、そして此年の人は老年には子孫繁榮して幸福に送る事となる。

◎四緑木星

四緑 は木星で易に於ては巽となし辰己の方に位し其性は木である、此木は地上を匍匐やうに擴がつて居る木を指したので、即ち茶の木又は躑躅の如きを云ふ、左れば此性の人は人並外れた出世を爲る事は極めて稀である、然しながら何事でも手廣く爲す事を好むゆへに商賣などをさせると随分盛んに手廣くやらかして人を驚かせる事なぞあるが又其れが爲の大に損をする事もある、而して氣が不活潑であつて爲すべき事を承知しながら優々寛々として爲さずイザと云ふ時に爲つて俄かに驚き騒ぐと云ふ癖があ

る、夫れが爲めに人と約束を違わたり又は俄かに事をやるから仕損じをして人の信用を失ふたりする事が屢々ある、因て何事も具體的に爲る様にせねば生涯の中に何程の損があるか知れない、且つ此性の人は慾の強き方にて其上に物事に是れは斯う彼れは斯ふと整然と決断をつける事が出来難いのであるから常々に物思ひが絶えないのである、而して何事に限らず進んで仕て見たい心は充分にあるが乃がそれ決断力に乏しいので何の斯のと考へてる中に時機を失なふて終ふて仕遂げる事が出来ない云つた様な事になる、そこで利益な事もみす／＼見逃して了ふと云ふ様に爲つたり、或は商賣を始めて調子よく儲かつて來ると深き慾心の爲めにまだ儲かるだらうと思つて一層手廣くする、其中に大失敗を來して家産を傾くるやうな非運に陥る事なぞがあるものなれば一時の利益に心を迷はせて調子に乗るやうな事を爲てはならない。

次に此の星の人は物事を隠す癖があつて一寸した事でも打明けて人に語ることを爲さない、夫故に相談すると云ふ事が出来ない、若し相談に乗つてくれても十分調はない、又金談縁談等にも同じ事に向ふも腹藏なく話しを爲さないから後に至つて苦情の起りたがるものである、故に人に相談を爲やうとか又は頼もふとか思ふ事は隠さず何處までも誠の事を打明けて相談をせねば自分の損となる。又此性の人は氣の變り轉する事の存外早い方の質で立つても座つても居耐れぬ様な心配事があつて苦勞を仕てゐるかと思へば間もなく其事を忘れて了つて他の事に手を出すと曩の心配を全然忘れて了ふと云ふ呑氣な方で物事に懲ると云ふ事がない、左れば心配苦勞する割合には心を痛め損じないのである、それから此星の人は年頃より四十才位までの中に福運のある方なれば中年までは大概困らないから中年迄に富貴の家に生れた人は格別なれど普通の人は財

産を拵へ置きて中年後は餘り欲張らず今迄の財産を減さない様に心掛けて居なければならぬ、中年後は仕合の宜しからざる方なれば中年迄に財産を拵へ、而して老後の幸福安寧を圖るべし、又此人は善い事も悪い事も余り永く積かぬ方である、故に損をしても復た直に取返し益があつても復た失なひ易い質なれば總じて四緑木星の人は仮し困難する事あるもドン底まで陥ると云ふは稀である、又人並外の出世もせない質であるを知るべし、故に利益あつて相當の位置を占たなければ十分身の行を慎むで其れを失はぬやうに心掛けねばならない、次に此人は一つの事を幾時までも守つて居る事が出来ない、因て我住所を離れるか又旅をして他國を駆け廻るか或は吾家に居るとも身体が落付て居ないで人から善い話を聞くと直に其れを行つて見やうと云ふ氣を起して色々な事に手を出して馳け回り廻る方で其れが爲め利益もあれば又損もする、けれども生涯を通して先づ左程

に困ると云ふ事はない。
扱此性の人にて平生篤實律義であつたならば困ることなく安樂に暮し行けるものである、若し此に反して我慢強く奢る心あるか乃至は隠し立をしてゐて口先でベチャ／＼と喧しく云ふか又は人が何んど云はうとも頼着せず罵れても怒らず只利慾の爲に身を卑くする人なれば如何程才智あるとも忽ち禍來りて難義する事あるべし、又何事も一個の慮見を立てず目上の人に随つて事を爲すべし、或は外より利得を以て誘ひ來るとも迂濶に取合事なかれ、多くは己れに損失ありて益なし、此星の中にも誠實の人は謙遜を旨とし人と争はず進退を衆と共にし自分の功を人に譲り濃厚篤實を主として人に交る故人に寵せられ幸福多く又不正の人は恥を恥とせず義理を怠り私慾に耽り只利に迷ひ己を枉て人に取入り又人を引入れなごする故人より憎まる、事多し、此星の人は一白水星の人と九紫火星の人と事を共にすれば大に

吉なれども六白、七赤金星の人又二黒五黄八白星の人とは縁組は勿論其他何事も共同してやれば必ず失敗すべし、職業は酒屋とか紺屋とか水車とか總て水に因縁ある業を爲さば發達速かた又土の類金物類を扱ふ業は兎角損ありて益なしと知るべし。
以上は四緑星一般の性質であるが尙ほ此星には子卯午酉年生れの四類あるから其生れ年に依つて異なる点を左に述べて見やう。
(子年の四緑) 此年生れの人には物事に熱心で正直であつて且つ表面頗る柔和の如くであるが内心は存外強情で他人の言には容易に従はず自分の思う通り獨斷的に進まんとする氣風がある、併し敏才にして實際上手の爲め人の感情を害する様子はせぬ爲めに他人に信用せられて立身出世をする、而して事を爲すに進み易いが少し永びく事は飽き易い欠点がある、即ち成功を急ぎ過ぎる点を注意せねばならぬ。
又此の年の人には敏腕家が多い故に商業などに於

て成功する人が多い、一休實業家として成功し易いをして最初は困難する事もあるが晩年には富貴の人となる、又一面には世話好きで他人から依頼せられるは盡力して利害を顧みない、其の爲めに思はぬ損害を受ける事もある、又性質に飽き易い所があるが爲め折角奔走した事でも今一ト息と云ふ所で捨て、了うと云ふやうな事もある、故に此邊に十分注意すれば幸運を得る事が出来る。
(卯年の四緑) 此年の人は誠實温厚である爲め多くの人に信用せられ立身出世するのである、併し万事投げ遣りにする癖があるのが欠点だ、性來は福運が多いから苦しまずに世渡りをせらるのである、青年時代は心勞もあるが中年以後は幸運に向ひます、而して事業等に對して投げ遣りにせず飽きまで最初の勇氣を繼續するやうにせば必ず成功するのである。
又此年の人は三十歳から四十五歳までの間に種々の難問題が起る事があるから慎重の態度で進まねば

ならぬ、又青年時代に於て酒色の爲めに煩悶苦痛が起るから深く注意せねばならぬ、それから親類間に於て種々の苦情が起る事あり、斯る際には深く思慮して輕々敷決解をせず先輩に相談して後に極たがよい、去すれば他人の信用も受け必ず幸福の人となり事が出来る。

(午年の四線) 此の年生れの人は一様に陽氣の性質であつて人に愛せらる、徳がある、又快活で小事に拘泥せず事に當つて不平等なく嫌な顔をせず従事するので他の信用も厚いのに拘はらず中年迄には種々の困難に逢ひ苦勞する事が多いのである、斯かる困難に接する都度勇氣を起し撓まず倦まず之を切り抜ければ運命を轉換する事が出来る、其の代り中年以後老年に到れば安心して世を送る事が出来る、最も苦勞の多い時期は青年時代から中年に達する迄の間である、特に青年期には色情の關係より起る苦勞が多いから若しや左様の時には先輩に諮つて良き方法

る、畢竟理想の大き過ぎるのと物に飽易いとの忍耐力の乏しい爲めである、之を改むれば不幸は變じて幸福に向ふ事が出来る、運は天にあると云つても其人の努力に依つては或る程度まで運勢の開拓は出来るものである、若し運勢を天から授かるものと思つて寝て待つ位なら身上判断の必要はあるまい、易者の判断を受けるのは之れに依つて悪運をして幸運に向はしめんが爲めである、又男子は浮氣で一婦人では満足出来ぬ風があるから努めて一夫一婦で生涯を終るやうになさい。

◎五黄土星

五黄 土星は易に於ては坤となし中央に位し、他の八星を支配し其性は土である、扱此星は九星中の中座に於て前後左右の八星を支配して居るから何と

を考へねばならぬ。

元來此人陽氣の質で邪氣邪心がない爲めに人に愛せらる、故に色情關係でも出来る義理人情を思つて無情の事が出来ない、夫れ故種々な苦勞も多い、但し此苦勞が起ると勇氣が挫け遂には万事を打捨て、自暴自棄に陥る傾があるから自重して心靜かに進まなければ成功が覺えないのである。

(酉年の四線) 此人は思慮綿密にして才能もあり又信用も得て相當の地位に上る事が出来る、併し理想に迫はれて身分不相應の望を起し爲めに失敗する事がある、而して何事を爲せても器用で熱心であり心も素直であるが一ツの欠点としては現在の業を永く守る事が出来兼ねるのである、之れが玉に疵で大に慎まねばならぬ。

又此年の人は常に何か心に苦勞が絶へないから幸福の人とは云へない、殊に中年がよくない、子供の時は餘まり苦しまずに育ち晩年も幸福に終るのであ

なく位の高き處があつて運よく寛仁大度にして物の頭となる強き星である、併しながら此星は貴人には吉けれども平人には俗に云ふ位負けをして宜しからず、運勢は盛んで兎ても他の星は敵し難いのである而して一旦進めば飽までも之を貫徹せんものと突進する風がある、故に其事が成就せざる間は後へは退かぬ勇氣がある、夫れが爲めに益々深入して殆ど進退に窮し果ては多大の損害を受くるか又身分上に於て官職をすて、浪人する迄に零落する事もある併し物事に正直な事は此上もなく氣分高くして人の下に從ふと云ふ事を嫌ひ如何なる事にも負惜み強く又何をさせても出来ぬと云ふ事を云はず我意を張り通しても仕遂げて見やうと云ふ風があるに依つて動もすれば大に威張つて其れが爲めに人より妬み憎まる、事があるから成るべく人に謙遜つて争ひ事をせずによければ人より尊敬せられ益々人格が高くなるのであるから決して我意を張り通してはならない、其

ならず此性の人は何處となく品位を鼻にかけ振る心があるので他人にケムタがられると云があるゆへ常に高振ぬやうに能く注意する、次に此性の人は平常物静かにして能くみ慈悲の心深く何處までも人の世話をして遣らうとか又困つて居るのを見ると自分が喰ふ物を節儉しても與へやうと云ふ風である、尙ほ又人より頼まれる事があれば見す／＼難義をせねば爲らぬと知りながらも無氣に斷りかねて之を仕遂げてやると云ふ質である、故に亦た人が自分を助けてくれたり或は取り立て、呉れる事が中々に多い、併れ共我意を張り通して人に屈從すると云ふ事を忌む、即ち負惜みが強いのであるから人の助を好まず、取り立て呉る、事を潔よしとせずして何處までも我意を張り通さうとするゆへ出世の機會を取り逃して終つて生涯空々寂々に了つて了ふ人がある、又其代りに斯の如き位の高い方であるから出世をすれば何處までも出

世をするか知れず、併しながら一ツ誤つたら何處まで零落して終うか知れない、因て此性の人は善にも強く又惡にも強いのである。
又此星の人は疑ひ深くして物事に迷ひ易く小さな事にもビク／＼心配して苦勞するのである、而して何事にも向ふ意地が強いけれ共内心は極めて弱い、且つ進んで爲さふと云ふ氣はあつても自分一人で進む事が出来ないから人の力を借らねば爲らぬのであるが負惜みが強いから人に頼む事を嫌がる、夫故自然と手蔓を待つて居ると云ふ風で誠に我儘勝手であるので物事が思ふ様に爲らない、且つ其の我儘勝手は他の星の如き我儘勝手と異つて自分に具わつてゐる氣高き心持からして所謂氣儘が多く其が爲めに一家の者と意見が合すしてエ、勝手にせよと云ふやうな氣を起して家を飛び出し旅他國を駆け廻つて我より求めて難義苦勞する人が随分多くあるのである、だから此星の人は中年までは住所を離れて困難苦勞す

ること多し、乍併 中年後は身も定まり心も落付いて左程困苦せぬやうになるに依り中年迄相當の位置を得るやうに心掛けねば生涯苦勞の絶へぬものとなるべし。
又此性の人は随分色情の苦勞ある質なれば男子は若年の中は取り分け女難を慎むべし、女の事にて思ひがけなき災難を招いたり或は夫れが爲めに物事を仕損ずる事あれば男女共に篤と慎み守るべきである且つ此人は自分で斯うと思ひ立つた事は仮令人が何んど云ふても思ひ止まると云ふやうな事なく是が非でも遣り通さふとする故万事に極めて辛抱強い方である、それに若年の中は思慮定まらず尙ほ更氣儘をのより中年迄に親より受けたる財産を形無にしてものがある、故に能く其身を省みて勝手氣儘を我意高慢の心を押へ人の云ふ事を用ひ何處までつて生れて來た氣高き心持を制して人を尊び常を謙遜して服従してゆけば出世をせねばならぬ徳

を持つて居る質だからトン／＼拍子に出世を爲てゆくのだから何事も其の心持でやればよい、假し初の中は人の下に使役されてゐても末には其の頭と成るものであるから下に爲つてゐても我儘を出さずに働けば必ず人の頭となるゆへ辛抱が肝要である、左もなくば生涯平和な事は稀にして出来る出世を我れより求めて棄て了ふのである。
此性の人の職業は何をしても強き星なるが故に差支への無いやうなもの、併し撰ぶべき事がある、先づ火に縁ある業が可い、次に金物類を取扱ふ業も至極宜いのであるが水に因縁ある業とか木を取扱ふ業は損あつて益なきものである、此等の事も能く心掛べきである、以上は五黄土星の人の性質であるから其慎む可き所を能く注意して立身出世を爲すやうに勤めねばならぬ、尙ほ此星の人にも寅己申亥の四類があるから左に各異なる点を列記して見やう。
(寅年の五黃) 此の星は

を飽まで行はんとする風があるため、仮令不結果であると思ひながらも一旦斯く信ずると何處迄も突進せんとする質である、夫れが爲の時には大成功をするが失敗の場合には極端まで陥るのである、此人は善にも悪にも又極端から極端に走るの、其性來であるから無暗に勇猛心を出しては必ず零落する故に、此性質を善い方面に向けて活動せしむる時は大成功すべく其れに就ては進退の掛引と情勢を綿密に調査研究して夫れから決定せねばならぬ。

又此年の人は何事を爲すにも初めは成績が良く、最後に不結果に終るのが多い故に補佐者又は後見人か附添ひ居れば成功するも然らずして一己の了簡で進めば最後には失敗する事が多い故に成るべく目上の人に相談して徐々に進まねばならぬ。

又此人才智に富んで居る爲め人に重用さる、場合が多い、併れども其地位に永く満足して居る事が出来ない、即ち一を得れば二が欲しくなり二を興ふれば三が欲しくなり三を得れば四を求めたくなり、飽まで進まんとする風がある、之を善用すれば頗る吉事であるが場合に依つては失敗に終る事もある、而して一度失敗すると自暴自棄に陥り易いのである、其が爲め再三職業を變ずる事が出来て世間の信川を失する場合もあるから呉れ／＼も慎まねばならぬ、次に男女の合性は六白、七赤、九紫の女子が吉くて三碧四緑一白の女子とは凶である。

四四

取り分け此年の女には多いのである、又此年の人は疑ひ深い点はあるけれども一面には頗る親切なるが故に他人の世話などをして随分迷惑もし損害を受け、ても平氣で居る程である、爲めに他の信用を受け立身出世する事が多い故に一時の感情に走らず悪い点を慎み善い点を發達せしむる様にすれば晩年幸運に到る事明かである。

(申年の五黃) 此年生れの人には利口で同情心と深切心に富んで居る爲の多くの人の信用を受け、又先輩より愛せらる故に立身出世も案外早く出来るのである、此人多くの人の長となり又多くの人の人を使用する身分となつても金持ちには成れぬ、何となれば得たる金は他人を救ふ爲めとか部下を助ける爲めとか或は義理合の爲めとかで手放すのである、之が此人の運命であつて換言すれば金運が少ないのである、け

其の機會を逸せず心を引き締めて居れば大富豪とは行かずとも生活の安全を得て安樂に暮す事疑ひない、全体此年の人は比較的幸運の人が多く、殊に若年の頃に不幸者が多い、故に万事節約を守り忍耐努力して老後の心掛けをするのが肝要である。

(亥年の五黃) 此年の人は晩年は幸福多いが壯年時代は幸福でない、之れと云ふのは事志と違ふと忽ち捨て、他に轉じ万事性急に獨断でやるからである、斯くして煩悶の絶ゆる事なく安心を得る時はない、其れでも勝氣が多くて飽く迄突貫せんとして一層苦勞が増すのである、併し之を我慢して努力すれば晩年を待たずして幸運が来るのである。

而して性急にして失敗を招き一身上に變動を來すやうな悞がある特に自己の力に慢心し又は少しの功に誇つて堅實の心掛けを怠り諸事放漫に流れ心身の緊縮を缺きて一代の運氣を中絶する慮があるから慎重の態度を取り開運の基礎を定むるのが肝要である

◎六白金星

白は金星で易に於ては乾となし、戌亥に位して其性は金である、而して此性の人は極めて眞面目であるが、又偏屈の所もあり到つて慾心が深い故に時によると利慾に迷ふて我身の危きにも心附かず慾の爲めに四方八方へ手を出すので一も纏る事なく終に損耗を招くのである、是れ一つは慾心の爲めで二つには我が思ふた事に早く手を出して其事を仕やうと云ふ心があつて人に相談したり又篤と考へてから着手する氣になれなくなるのである、故に之等の事は慎むべきである、左もなくば徒らに心を勞し氣を焦るのみであつて我が思う事が遂げられないので損をする事が多い、而して様々な事に手を出すから常に苦勞が多く喜びが少ない、其上常々彼れ此れ仕て見たいとか移氣がある故に物思ひが絶へないから先づ色々な事に手を出さぬやうに仕なければ爲らぬ、然

らすして何處までも我が思ひを通さふとするに終には進退谷まりて後悔するも及ばぬ事となれば大に慎むべし。

此の星は運氣の強き位の高い善き星にて貴人又は學者には吉けれども平人には餘り宜しからず、又住居安からず常に薄氷を踏が如きの思ひありて住居を離る、程の事あるべし、商人なれば非常の損失ありて破財する事あり、仮令中年までは相應に暮すも雖も多くは老年に到つて零落する故若年の頃より心掛けて諸事儉約すべし。

此星の人は萬事に進んで仕損ひ悔む事度々あり、又兎角我意を張り大に高慢ぶる癖ありて人に憎まるゝ事あれば成丈人に謙遜して何事にも餘り出遮張らず我力を顧み吾分限を守りて行は吉なり、六白は易の象意を以て云ふ時は乾の卦なり、乾は物の始と終りを兼ねたる意あれば貴人富豪の身なりとも油断すべからず、若し己の威勢に任して妄進する時は貧窮

に陥る事あり、又其身貧賤なりとも自分の業務に精勵し時節を待たば終に開運出世する事疑なし、此性の中にも誠實を基とする人は天命を畏れ事を明白にして利慾に走らず業務を怠らずして禮を盡す故發達も早く又不正の人は利慾に耽り私情を専にし虚偽を行ふゆへ罪を受くるに到る、宜しく一身を顧み慎むべし。

又此人の生れ付きの運氣性情が一變すると頗る悪性となり剛氣は強情となり果斷は暴舉となり縦横の才氣は狡獪となる事がある、去れば何事も才氣に任せず飽まで慎重の態度で順々として進み剛情を慎む事と持つて生れた性質の長所を失はぬやうにする事要である、然るに動もすれば性質轉變して生れた性質が虚榮となり剛情となつたりする事がある

めねばならぬ、又此星と雖も
るから其年に付いて述べて

(丑年の六白) 此年生れの人には性質は比較的忍耐力強く物事に周章ない、自分の非を隠して人の缺點を云ひたがる癖がある、物事に對する觀察力のないに能く物知り顔をする、倭辨を信じて自己の不徳を現はす事がある、至極柔和の様で怒りばい處があつて破壊しやすい、併れども福運は強い人である、但し一面に大膽なる所ある爲めに身分不相應な望みを抱きて失敗する事もある、仮令ば一を得れば二を望み二を興へれば三を求めんとして心定まらず遂に二兎を逐ふものは一兎を得ずで最後には百分の一を漸く得たと云ふやうになる、要するに希望が大き過ぎるからである、又此人の運勢は少壯時代は兎角苦勞が多い、三十才から四十才迄に働けば晩年は安樂であるが四十才を越さなければ反省せぬ者が多い故に折角目上の人の引立あるも無効にする事がある何事も一心に勤めて先輩の意見を用ふれば割合に早く成功するのである、由來丑年の人は温雅の内にも

剛氣の所ありて仲々他人の説に従はぬ癖あるが之れは場合に依て宜しくないから目上の人と相談するがよい、併し一度決心したならば容易に變らぬと云ふのは此年の性質である。

又男女の相性は一白と二黒五黄八白七赤が吉で九紫と三碧四緑は悪いのである。

(辰年の六白) 此年生れの人には才智に富み意氣盛にして如何なる難問でも切り抜けんとする勇氣がある其性大膽で忍耐力がある、故に時に乗すれば忽ち立身出世するものである、此性の人には疑心を持たず慈悲心あれば將來安樂で成功す、併し才能に任せて一氣に物事を速成せしめんとする風がある爲めに失敗を招く事があるから何事も熱慮して徐々に行ふのが得策である。

元來此六白は易で云ふ乾であつて地中に潛む龍に譬へたもので運氣旺盛にして一旦事成れば大成功を爲すけれど若し不成功に終ると極端まで落つるので

所謂地中の龍とならねばならぬ、故に四圍の形勢を見つ、徐ろに進まねばならぬ、斯くして用意周到の注意を拂へば必ず目的を貫徹する事が出来る。

又万事に就ても他の人の如く姑息なる點がなく明白に其意中を明かして先方の了解を得て之を行はんとする氣がある、此点は頗る良い所であるが動もすれば輕卒に物を取扱ふやうな欠点がある、故に之を慎み其本来の特長を發揮し善用すれば一人一倍の立身出世を爲し幸福を得る事も人より多いのである。

(未年の六白) 此年生れの人には物事に遠慮勝にして輕々數事を爲さず意志は薄弱で涙もろい方である、何所か足らぬ所がある、面白く思ふ事が少なくて何時もつまらぬ様に愚痴が多く疑ひ深くて迷ひ易い、孝心はあるが父母に安心をさせられない、此性の人には豪膽の氣を養へば成功するのであるから奮闘して物に表裏なく事の成否に拘はらず常に缺點とも云ふべき遠慮を挽めて折角到來せる機會運氣を取り逃が

さぬ様に注意するのが必要である、故に必要なものは英斷果決即ち自分の思ふ事を遠慮なく話して取るべき利益は遠慮なく得、儲けるものは遠慮なく儲けると云ふ徹底した意志が此人には最も必要である又此人は誠實に立ち働いても他人が此の誠實を知らぬ爲め平凡の人と見られて其の爲め出世が遅れる事もある、故に此の邊の調和を甘くやる必要がある

又此年の人は幼年は割合に樂であるが併し氣苦勞は多い、四十前後に不幸不運が重なり晩年に到りて福運が向いて來る様になつて居る、尤も多數の人に青年期老年期が幸福多く中間の壯年期には比較的不幸が多い、例へば親兄弟に別れるとか事業に失敗するとか財産が左り前になつたとか云ふのは中年時代に多くあるものです別けても此の年の人は壯年期に不幸が多い、故に青年時代から注意して之れを切り抜ける事に努力すれば不幸も變じて幸福となる(戌年の六白) 此年生れの人は一見して輕卒で且つ

姑息のやうに見ゆるが内心は至つて辛抱強く人の眞似も出來ぬ程忍耐力がある、而して意志の強固な事も他性に見られぬ程である、故に多く人に相談する事なく一人で思ひ考へて事を爲す方であるから案外敵を作り易い、故に運勢よくても時に信用を輕くする事がある。

此性の人には決斷力に富み又義侠同情の心も強い、而して難事を恐れず進まんとする意氣もあるゆへ他人の言を容れず自分一人の獨斷にて事を決せんとするの質である、之れが注意すべき点である、此人の欠点は自分の才能を信じて先輩の者に相談せず万事獨斷的に事を定めたり又飽き易くして長く其事を守り得られぬのである、故に此等の點に留意せないと失敗が多い。

凡そ人には満全な性質を具備した者はない、必ず長所もあれば短所もあり欠点ばかりで取得のないと云ふ人は恐く無い、故に長所を益々擴張し欠点を愈

が大吉で二黒五黄八白七赤も吉で他は凶である。

◎七赤金星

七赤 は金星で易に於ては兌となし西方に位して其性は金である、而して其金は通用金で他人を喜ばす徳がある、此の性の人は何となく可愛らしく思はれ賑やかな様に見えるが其心底は陰氣である。

扱易で云うと七赤は兌の卦に當るので何事に拘はらず一時は非常に物に熱するけれど半途にして其事を成さず所謂辛抱なしの飽性である。而して心忙しく且つ短氣である、其上氣が移り易く時々刻々と變つて行き物事に一定の規律がなく彼かと思へば斯である云ふ風で一向に爲す事や又云ふた事は當にならぬのである、又此人は一寸見た時には虫も殺さぬやうな柔和な容子があるが心底は中々左様でない、

々改めるやうにせねばならぬ、殊に此年の人には深く感ずるのである、何となれば此人は一旦善いと信ずれば事の善惡に關はらず決然として獨決せんとする氣質があるから、其の爲め失敗する事もある、殊に此人先輩に愛せらるゝ事多き故何事も意見を聞いた方が利益である、要するに自分の才智を信じ過ぎぬやうにするのが肝心である。

此人は天性として常に心勞が絶へない、所謂心配性とか神經質とか云ふ方が多い、従つて他人の疝氣を頭痛に病む事が少くないのである、又同情心と義侠心の厚き爲めに思はぬ物質上の損失をする場合も多い、故に何事を爲すにも十二分の思慮分別をして漠然と事に當らぬが利益である。

又此の人は義侠心がある爲めに他人の難事を引受けて心勞する場合が多い、而かも其結果は良くない事が多いのである、故に自分の立場を失はぬ程度で盡力すべきである、次に此年生れの人の相性は一白

打つて代つて高慢強く兎角に威張つて見たい風がある、其れが爲めに人より憎しみを受ける事が澤山ある、それから又人を疑ふ心があるから善惡共に疑ひ仮令善き事を教へられても其れを守つて行く事が出来ない、而して表面潔白のやうで内心は不決斷にて慾心深く常に物思ひ絶えずして能く苦情を云ひたがる質である、夫れに口先では誠に親切らしくチャホヤと云ふけれども心は到つて薄情にて物に變り易き性なれば譽もあり又た譏を受ける事も度々ある。

次に此星の人は一般に才子である、殊に奇才に富んで居て人の顔色を見て機嫌を取り又人を悦ばせる事に妙を得て居る、其れ故辯舌が殊に甘い、所謂三寸の舌頭にて人を左右すると云ふ性であるから其の辯舌に崇られて時々失策で信用を失ひ又損害を蒙る事もある、因て何事に拘はらず人の仲裁事や人を手懐ける事は到つて得意である、併し乍ら物に締がな

生懸命に爲つてするけれども一向始末を付ける事が出来ない、夫故何をさせても纏まつた事を能く爲ぬのである、故に商賣をして利益があつても其のベ括りが出来ぬと云ふ風で結局は算盤合つて錢たらずと云つたやうな事に爲る、又勤をしても始めの内は勉強するから大に用ひられて一時は立身するけれども終には飽が來て次第にダラシ無くなつて信用を失ひて失策やうになるのである。

次に此星の人は負惜みが強くて人の真似をしたがり又は人の風を見て羨んだり又金錢が無くても有る風をして虚榮を張りたがるゆへ表面は陽氣で安樂さうでも裏面は陰氣で物思ひが絶へず困しんでゐても滅多に襤褸を出さず、其の代りに襤褸を出したら根扱ぎ出して滅茶々々となるのである。

而して此人の特長は他人を喜ばす事が巧みで少し位の腹を立て、居ても此人の顔を見れば笑ふて止むと云ふ位であるから談判事や仲裁の事を頼めば大概

は成就するものである、尙ほ又此性の人は男女ともに口伶俐で辯舌が巧いので理を非に曲ても辯解する位の所謂能辯家であるから平生無駄口を叩く事が多い、其れが爲め口が立つて人の感情を害する事がある、又他人の身の上の事を何の彼のと誘つたり有もせぬ事を云ふたり嘘言を云つたりして仕損する事が往々ある、又口舌事や争論事は絶へぬ質であるから第一慎むべきは多辯である、仮りに人の陰口を云はぬ様にして物事を親切丁寧にすれば人に調法がられて立身出世することあるべし、夫れから尙ほ慎むべきは男女共に色情である、此星の人は總じて色慾深く男女共に浮氣である、若し色慾に心を傾ければ災害來りて困窮することありと知るべきである。

此星の中でも正實の人は親切で能く他人を憐み多言を慎みて若し知人に過れば得意の辯舌を以て懇に諫めて改心させたり又一般の人と義氣を持つて交際し人を助ける事に苦心するのである、夫れに

反して不正の人は得意の辯舌を振つて人の媒を爲して利益を得る事を圖つたり、口先で巧い事を云ふて人を惑わしたりするから絶へず災害困苦するのである、故に此星の人は我身の行と精神の修養を積めば立身出世は疑ひない。

此人の適業は土氣を取扱ふ業か又水に縁のある商賣は吉いが火や木に縁のある商賣は必ず損耗を來すものである、以上は七赤金星の人の大体の性質である、俗に此星を浮氣星と云ふ、蓋し此星の人が全部浮氣であると云ふ譯ではないが一般に賑やかで氣がウカ／＼としてゐるからである、去れば其の悪い所を捨て、善い方を取らば追々立身出世するのである或る人は此星の人は講談師か幫間なぞになると可いと云ふが、其れは能辯なる性質よりして想像的の戲言に過ぎない。

此七赤金星の人でも子、卯、午、酉の四種あれば孰れも生れ年によつて差異があるから先づ年別にし

て述べやう。

(子年の七赤) 此の年生れの人には素直の性質である去れど多辯にして口の爲に禍する事がある、又高慢心強く何事も自分で出来ぬものはないと云ふ自惚れがある、又交際などは上手で能く他人に説き入る才能がある、けれども友を選ばず何んでも構はず交るが故に思はぬ迷惑を受くる事が多い。

而して此年の人は金運は左ほどでない、寧ろ金銭などには苦しむ人が多い、何となれば交際を好み同情心強く世間には街はんどする氣風がある、斯かる人は金銭には縁薄く尤も其中には金満家もあらうが夫れは例外である。

次に男女の關係は概して熱心であるが聊か浮氣心が多いやうである、故に結婚は別としても眞情をこめたる戀をする事が少ない、併し之れも一般の人とは云はぬが十人が八人までは浮氣心で戀する人があゝる、之を慎まぬと思はぬ失敗も起るのである。

次に男女の相性としては一白の人が大吉で二黒、五黄、八白が吉で六白は普通九紫三碧四綠は凶である。

(卯年の七赤) 此年の人は正直にして人情も深く又福分多し、物に不自由を感せぬのであるが人に負けたくないと思ふ意氣地より金を遣ふ事が多い、爲めに物に不自由の無い運勢に生れて居ながら餘り金満家となる事も出来ずに居る人が多い。

又一面には短兵急の所ありて思ひ出したる事を直ちに行なはんとする故に仕損する事が多くある、此人即決即断には過ちが多いから此点を再考せねばならぬ。

此年の人は幼年時代には幸福であるが青年期から中年頃までは幸福でない、但し晩年に到りては万事熟考して行ふやうになるから宜しくなつて來るのである。

次に男女關係に就ての運氣であるが、此年の人は

理想に近い縁組もあるが幾分飽き易い所があるので彼れと手を切つて是れと結ぶと云ふやうに一人の男には納まらぬ場合が多い、此が爲め立身出世の上にも妨げとなるから此点に注意して一旦定つた以上は何處までも之を守るやうにせねばならぬ。

(午年の七赤) 此年生れの人は才能人に勝れて居るが心の變動激しい性質ゆへ此の才能を善にも悪にも應用する事が出来る、故に悪用した時には大失敗を受くるのである、又機敏にして目先きが早いから商業上の取引などは適任で従つて實業方面に於ては成功するのであるが、官吏の如き職務には立身出世も遅い方である、又身分不相應の希望を抱き夫れに向つて猛進せんとする爲に大なる失敗を招く事が多い畢竟意氣の盛なる爲めに現在の地位を柔順に守つて居る事が出来ないのである、之れは一面此の人の長所のやうだが亦一面から観ると短所である。

又此年の生れの人は福運はあるが奈何せん才智の

勝れたるに信頼し過ぎて其結果遊惰となり豪放となり放任となるを以て折角の運勢も度々取り逃がす事がある。

尤も午年の七赤の人でも幸福の人と不幸の人とがある、例へば金持ちで子供が無いと子供が澤山あつても貧乏であるとか身分も高く利口でも病弱であるとか身体強壯であるが行ふ事爲す事豫期に反するとか云ふ事がある、故に福運のある人でも才智を餘り用ゆる爲めに此福運を取り外す場合がある、故に此才智の用法に節度を加へ慎重に善用すれば必ず幸運を得られる、ものである。

(酉年の七赤) 此年生れの人は到つて名譽心が強く虚榮の權化とでも云ふべき程であるから賑かなる事を好む性質がある、又福運も相當にあるが油斷をするので失敗し易い、殊に幼年少しく財産のある人に失敗は多い、中年時代は一層困難する、併し多くは反する故晩年には追々勤勉となり樂をする様にな

る、何事も熱心にやらねばいけぬ、實に奮闘心が實である。

右の如き性質であるから名譽的の事の爲めに金銭を失ふ事多きが故に大金満家とは仲々成り兼ねる場合が多い、併れども他人の信用厚く尊敬を受け衣食に窮する事はないのである。

次に男女の相性も一白が最上吉で二黒五黄八白が吉で三碧四綠九紫は凶である。

◎八白土星

八白 は土星で易の上にては良となし丑寅に位し、其性は土である、此土は二黒の土と違つて山の土である、故に金銀を生ずる貴ひ土で此性の人は福分ありて金銀は可なりに儲け得らるが其れを貯蓄して行くこと云ふ事は出来難いのである、何となれば金

錢は何時でも得らるゝと云ふ様な氣になつて体裁を張て無益に使ふからである、左れば氣が大きいとか云ふに氣は極小さい方で誠に節儉のよい方である、併れども一寸した事に調子に乗る質で前後の考へもなく無茶に金を使つて後に非常に悔と云ふ性である故に調子に乗つたり輕卒を愼めば追々出世をせらるゝも左もなき時は生涯苦勞の絶ゆる事なし。

又此性の人は金銭を貯へ保つ事は出来ないが其の代りに家とか土地とか衣類道具等の類なれば貯へ置く事の出来る性である、それゆへに此星の人は非常なる困窮者と雖も衣類や道具などは大なり小なり持つて居る、是れ其の性の福運あると質の節儉にして其の嗜が可いからである、取り分け此の星の女は衣類を余計に蓄へ置き常に夫れだけの用意をして居る此の性の女には無暗と困るものは少ないと云ふても可い。

次に此性の人は多く中年迄に先祖より譲り受けた

る身代を持崩し中年過より改心して巳の力を以て再度身代を持ち直す性なれば年寄るほど幸ひ多く運氣宜しと知るべし、又此人は篤實にして万事始末よろしく外へ心の移らぬ性にて物事辛抱強く併ながら兎角望み事は十分通じがたく百事妨げありて世話苦勞多く表面は剛氣にて氣長く見ゆるも内心は柔和にて氣短かなり、而して万事不決断にして進退決せぬ性なれども常に己の分を顧み万事慎み守りて能く終を保つ人なり、又小を積で大を成す性なれば男女共に慾深く節儉宜しく身代持は到て上手なり、されば富豪の執事又は銀行會社の會計方或は一家の妻妾等には此性の人が適任である、此性の人は猥りに進む事を戒むべし、若し彼方此彼と手を出して廣く事を爲せば必ず禍を生じ家も身も亡に至る故何事も餘り進むは宜しからず、又此人は吾思ふ望みは半ば調ひ半ば達しがたき性と心得妄りに進んで事を爲すべからず、去れど何事にも氣を急かす常に止まる

と云ふ意を含んで十分に爲すべからず万事止まるを以て吉とす、就中苦情争論等は成べく爲す事なかれ此性の人の中にも着實の者は身の分限を考へて止まる所を知て能く止まり心を勞せず身を安くし將來の計畫を立て目前の利慾に迷はず能く忍耐して時節の來るを待ち終に吾が志を達する人あり、又不正の人は身不自由にして心安からず徒らに心を勞し只眼前の小利に迷ひ止る所に止まらず慕進して身を危くし或は財を失ふに到るものあり、宜しく我身を顧み慎まねばならぬ。

職業は火氣を扱ふ業が一番よろしい、又金銀其他金物類を扱ふ業を爲すも吉其他何事によらず共同して事を爲すには九紫の人と共にすれば必ず利益がある、次には六白七赤の人と爲すも大に宜し、三碧四綠一白の人とは何事に拘はらず共に爲すべからず必損あり。

以上は八白土星の人の性質であるが其中で慎むべ

き点を能く慎むやうにして行けば次第々々に發達して生涯不自由や苦勞等なく安全に暮せるのであるから特に注意して各自の幸福を圖るやうに勤められたいのである。

尙ほ此の星に於ても寅巳申亥の生れ年に依つて多少異なる所があるから左に生れ年に就いて述べて見やう。

(寅年の八白) 此年生れの人は至極向上の氣運で且つ仁俠心があるけれども一面には此れあるが爲め多くの弱者を救はんとし或は種々の世話などして失敗する事が多い、又他人に踏ふ事もなく自ら高尚の品格を保たんが爲み普通の交際を疎にする事も多い従つて物質上の勝利を得る機會も少ないので富を得兼ねて居る、去れども智略横溢なる故に一度成功する場合には大成功する事がある、斯かる性質の人は商業家など、しては大成功覺束ないけれども政治家か或は軍人など、しては成功するのである。

此人幼年中年共に甚だしい困厄がない、併し晩年一寸波瀾があるが之れとても自分の行ひ一つで始末が付く、人の引立もある方で何事も先輩の人と相談してやれば失敗する事は少ない、人の爲めに苦勞する方であるから比較的全盛時代を取り損ふ事があるから御氣を付けなさい。

而して性質は至つて尊大の風があつて感じが早い慈悲親切の心もあるが兎角我意を貫くから却つて目下の恨を買ふ事もある、思料分別の深い割合に短氣で剛情の處がある、此性の人は何事も我意を捨て、慈悲を施せば自然に大徳が備はつて人の頭となる事を得るのである。

次に男女の相性は六白七赤が大吉で九紫二黒五黄が中吉で三碧四綠が中凶で一白とは大凶となつてゐる。

(己年の八白) 此年生れの人は華美好きで親切で思ひやりが深い、従つて品性高尚で且つ思慮に富み又

慈悲慈愛の念も深いので古から此年の人に宗教家
學者發明家等が多い、併し一面には陰鬱の氣質があ
つて活潑でない所がある、又奇才はあるが俗才に乏
しいのである、つまり思慮は充分であるが氣が利か
ない方である。

又此の年の人は青年の時は餘り幸運ではなく常に
煩悶に絶へないが中年以後に至れば春風に花の開く
が如き幸運に向ふ事が多い、併し此人は果報遅く待
つと云ふ風があるから之を改めて待たずに自ら進ん
で運勢の開拓をする方法を講じなければならぬので
ある、斯く云へば奮闘努力さへすれば何の年の生れ
でも幸運來るべしと否々左様でない、如何程努力し
ても不運薄命の運勢を有する人は不慮の出來事のため
凡ての行ひが豫期に反して幸運の來ることがない
のであるから之を放任せず天來の運命的不幸を開拓
するの必要がある。

(申年の八白) 此年生れの人は世才に長て交際上手

人は一心に何事も辛抱が肝心である。

男女の關係に就ては非常に感情に走り易く一日失
戀すると自殺などして煩悶を免れやうとする事もあ
る、又懇に熱した頃に障害が起ると心中などする事
もある、斯る場合には心を活潑にして苦悶の事を目
上の人に相調するがよい、此人正式の夫婦となりて
は中途で破れる様な事はないのである、而して相性
は六白七赤九紫二黒五黄が吉で三碧四綠は凶で一白
は大凶である。

(亥年の八白) 此年生れの人は正直で同情心が深く
又意思も強固と信氣に富んで弱きを助けて強きを挫
くの氣概がある、獨立自衛の氣性ゆへ何事も人に相
談する事なく百折不撓事に當る故成功した曉に人
に頭を下げる處がなく氣樂である、又運勢は順々
と宜しくなるので幼年は割合に氣が、りが多いが中
年後は何事も心配なく行ると云ふ風で晩年には安樂
を得る事が出来る、只色と酒とは此性の人の欠点で

で伶俐であつて而かも温良である、又正直にして表
面を飾らず物事に對しても誠意がある、クレゴも一
面には剛情頑固の所もある、爲めに人の感情を害
する事もあるが一旦交際して其の心が解かると信用
せられて益々愛顧せらるゝに至る、而して八白申年
の人は思ふ事を充分に云ひ得ず腹の中で獨り極めす
る点と物に飽き易いのが欠点である、此点に注意す
れば世の信用を得て立身出世するのである、此人
中年までは心配苦勞が多く安樂と云ふ事は更にな
併し晩年になるに従つて安心する様になる、衣食に
は不自由がないが住所には常に心配がある、兎角波
瀾に富んで居るから浮沈が多い、女難は常に注意せ
ぬと一生の不幸となる、又此年の人は人を禦するの
性格が足りない、自分ばかり傑がつて居る折角の目
上の引立ちも保ち切れない、又人の世話好きで當
をする、其辭熱が冷めると後は構は
ある、頓智がよいから我慢す

ある、之が爲めには往々失敗をすることがあるから
青年時代から大に慎まねばならぬ。

此人中年より晩年にかけて福運に向ふのである、
青年の中は安全の方法を考へて置かねばならぬ、又
此年の人は親屬も多數ありて中には立身出世をした
人もあるが此等の人々も餘り親密の往復をしてゐ
ない炭がある、之れは親屬に對する因縁薄い爲めで
寧ろ他人と懇親になる傾きがある、そして他人の爲
めに利益を得る事が多く親屬の爲めには却つて損失
を受くる事が多いのである。

次に男女の相性は前項申年の人と同様である。

◎九紫火星

九紫 火星は易の上では離となし南方に位して其
性は火である、此の急の人は人に親む事深く又離る

事も早い、故に一旦信すれば飽までも進み、信せざれば幣履の如く人を捨てる傾きがある、又万事に派手を好み外形を飾らんとする氣風がある、又頗る短氣で一寸した事にも疝癪を起して怒り出すと懇意なものでもお構ひなく無茶苦茶に怒ると云ふ我儘勝手な質である、故に此人は常に他人と喧嘩口論の絶間がない、又親しい者と仲違ひをしたり人より恨を受けたりする事がある、左りながら此人万事に目先き早く頓才に富んでゐて其上惻怛な質であるゆへに人の顔色を見て話をする位で大いに人に重用せらるゝ事がある、尙は立身出世の階段に登りかゝつた時疝癪を起して我れより運を取り逃がすと云ふ風がある、其れ故に短氣を慎しめば立身する事の出來る所謂運氣の強い星である、此性の中でも分別の確かな人は妄りに疝癪を起さず短氣を抑へ我儘を抑へ慎みゆくゆへ、長上の人に引立られ出世をするのである。

次に此性の人は移り氣が多く一つの事を守つてゆく事の出來ない飽性である、夫故物を仕遂げる事が六ツク敷何事に拘はらず事を仕始めた其當座は勢ひよく骨を粉にしてもと云ふ位に喜び勇んで立働くけれども段々と勢ひが減じて終には嫌になりて更に又他の事に手を出すと云ふ様な事をして物を仕遂ると云ふ事が出來ない。

又此の性の人は虚榮が強く借金しても身の廻りを飾つて見たいと云ふ風だに依つて中以下の者は經濟の爲めに常に腦まざるのである、又一寸と交際て見ると大層俠氣があつて物事に切れ離れがよくスバリ／＼として至極立派な人の様に見ゆれども其實誠に穢なくして而も決斷する事が出來ず兎角に疑ふ心があつて人の言葉を信せられぬ傾きがある、其れ故物に迷ひ易く絶へず氣がガサ／＼として居る爲めに少しの間も落付いて居られない質である、又物事を深く考へず自分が少しでも善いと思つた事があれば直

に手を出したりする故時々仕損じて困難する事がある、殊に上部は陽氣な調子のよい確りした人の様に思はれるのである、之れは此性の徳分である、此徳分を利用して輕卒な事をする人信用を失ひ或は損をする事がある。

且つ此人は自分の分限を忘れて何事に拘はらず上へ登らふ進まうとする氣があつて其れが爲めに人の心持を損じたり又は商賣なぞにて失敗する事がある、此性の人は自分一人の力で如何程氣を焦つても決して上り進むことの出來ないので必ず人の助を得なければならぬのである、故に短氣を起さず我儘を慎み正直を主として能く人に服従してゆけば人に用ひ尊ばれる徳があるから立身出世をする事は疑ひないのである。

尙ほ此性の人は親子兄弟或は親しき人に別れて遠方に趣く事があるか又我が住居を離れねば爲らぬほどの心配苦勞などがあるか但しは自分の家を出で他

家に入るか自分勝手に分家する等の人が多い。

次に此性の人は自分の智慧を鼻にかけて一寸とした事でも自慢をして人を誇りたがる癖がある、其れ故に人より忌み嫌はるゝ事があつて大に自分の發達の妨げと爲る故に自負心と負惜みとを去つて能く人の従ひ實直を主として万事を爲す時は人に用ひられて幸福多く追々と立身出世を爲すこと必然なれば之等の点を能く／＼慎むべし。

此人の職業は木材を取り扱ふ業を爲さば發達早く又土に縁ある商賣も利益あり、水と金に縁ある業は必ず衰微を來すのである。

又男女の相性は三碧四綠の人は大吉にして二黒五黃八白の人も差支ない、一白六白七赤は大凶で何事を爲すも必ず損あつて益なしである。

尙ほ此星に於ても丑辰未戌の生れ年に依つて異なる故各々區別して説かん。

(丑年の九紫) 同じ丑年でも三碧の丑と六白の丑と

九紫の丑では各々其性格が異つて居る、然るに此の九紫の丑は忍耐強く物に狼狽ない所が他の丑と違つた特徴なのである。

此年生れの人には質朴であつて人にお世辭を云ふ事を好まず又人に服従する事を厭ふ、常に獨立して世を渡らんとする氣風である、之れは賞すべき事であるが商人などには商略上不利なであらうが處世の方法としては此獨立獨歩の勇氣と精神が必要である。右の如く質朴であつて社交上は巧くはないが物事を實行する場合には奮闘努力もする、万事正直一方で執れかと云へば策略の人ではなくて實行の人である、故に成功の場合は堅實なる成功を爲すのである。但し此人の弱點は他人の言を容易に信せず半信半疑で事に當るのである、又事を創むるに再三躊躇して敏捷快活に處理することを爲さぬ、其の爲好機を逸して大なる損失を爲す事がある。

又福運は充分に具はつて居るが故に晩年には物質

上の不自由は感せぬが若年の頃は困難あり、又長命なれども中年の頃身体の健康を害したる爲め寧ろ幸福の薄いやうに見へるが五十以後は宜しいのである。次に男女の關係に付ては一度夫婦となれば永く睦まじく圓滿に治まるが唯だ戒むべき事は嫉妬心を慎む事である、左すれば子孫繁榮して大なる幸福を來し又大なる富有の身となる。

次に此年に對する相性は二黒五黃八白の人が最大吉で三碧と四綠も吉である、六白七赤一白は凶である。

(辰年の九紫) 此の年の人は幼年は大變安樂もするが中年後は苦勞ばかり多くて殊に人の爲にする苦勞が多い、出世をする時は一夜紳士となるが失敗する時は一夜乞食と云ふ様な面白くない事が多いので万事落付いて處理するがよい。

又物事に焦る質で多くは失敗を招く場合が多い、尙ほ此人の長所とも見るべきは仁俠義心の点である

他人の困難を見ると之を助けずに置かれぬやうな心が起る、其の爲め時々損をするが自分は格別之れを苦とも思はぬ。

次に此人は現在の地位に甘んずる事の出來ぬ性質がある、其の爲め幾度か職業を轉せんとするが矢張轉せぬ方が將來の爲め宜しいのである、又親屬間の縁が薄く何れも相當の人々あるに拘はらず親類間の實際圓滿を欠き疎遠勝ちの傾きがある、之れは此年の人は獨立獨歩の運命を有して居るからである、故に此人は獨立して他に依頼せぬ方が寧ろ成功が早いのである。次に男女の相性に就ては前記丑年の九紫と同様である。

(未年の九紫) 此の生れの人には柔順で人情に厚く同情心も深きが爲めに世間の信用を得多くの人に愛せられ目上の引立を受けて立身出世する天運を持つて居る、又何事も人に譲り勝ちであるから動もすれば時期を失ふやうな場合がある、故に商人などは此の

爲めに往々損失する事がある、又此年の人は中年の頃には運氣宜しからず老齡に近づくに従つて幸運に向ふやうになる、又青年時代には種々なる難問題が起るから常に心して種々なる事柄に觸れぬやうに専ら其業務を守るやうにせねばならぬ、斯くて自分の欠点を覺り長所を發揮せば性來の運命を自ら開拓する事となつて幸運の人となる事明である。次に男女の問題に就ては此人は見掛けによらぬ飽福者であつて男は女運があり女は男運の強い方である。

次に男女の相性に於ても前丑年の九紫と同様である(戌年の九紫) 此の年生れの人には強氣果斷にして思慮分別に富み進取の氣概と勇氣がある、其上交際上手であるから何をさしても人一倍の働きを爲し多くの人に愛せられ且つ信任せられて人の頭となる先天的運命を持つて居る、去れど聊か剛情我慢の点と我儘の所があり従つて獨斷で事を決する事が多いので折り／＼失敗する事がある、又強氣に任かせて物事

に急進せんとする風がある、之れは其時機を見て善處せないと失敗に終る事が多い、又此年の人は同情心が厚く義侠の念も深くして他人の爲めには随分世話もしたり親切にもする質である、其れが爲め他人からは頗る信せらるるに拘はらず自分の身内に對しては比較的冷淡なる所がある、是等の短所を慎み性來の長所を向上發揮する事とせば頗る幸福の人となる

◎手相の鑑識法

手を開いて観ると人指と中指との間より小指の下の方に太い筋がある之を天紋と云ひ親指と人指の間より手首の方へ向つて太い筋がある之を地紋と云ひ其中間にある太き筋を人紋と云ふのである、判斷の仕方は男は左の手、女は右の手を調べるのである。

○天紋の先が幾筋にも別れたるものは先祖の業を替

男女の問題に就ては此年の人も飽福者が多い、而して多少浮氣の風があつて一夫一婦で満足されない傾きがある、此等の点を深く慎まざれば幸福の生涯を送る事が出来ない、次に男女の相性は二黒、五黄、八白の人が一番吉で次が三碧四綠である、一白は大凶で六白七赤も又凶である。

へるか又は他家を相續する相である。

○天紋の先が親指と人指の間へ勢強く通つて居るものは運が強く又横筋が掛るものは障りが多い。

○人紋の先が幾筋も別たものは他家に行く相である。

○人紋短かきか又は浅くして太きものは短命にして度々災難に逢ふ。

○地紋深くして長く手首の方へ通つて居るものは根氣が強く且つ長命である。

○地紋の先二股になつて居るものは判讓りの業を替

へて一家を起すのである、又地紋横筋掛るものは住所の苦勞が多い地紋の筋切れくになりたるは短命なり

○五指共に横筋多きものは一家親類多し。

男の相手の吉凶



○指先きの渦紋亂れたるものは常に心勞多く又正しきものは器用にして諸藝に發達す。

女相手の吉凶



◎人相の大意

○男子の額廣きは長男なり、若し次男なれば他家を繼ぐ。
 ○頭短くして首筋の太く短きものは中年に命を失ふ
 ○婦人の額廣く生際高きものは夫の縁度々變る。
 ○項に旋あるものは多淫にして家を亂す。
 ○額に旋あるものは人を殺す凶相なり。
 ○面を見るに年より格別若く見ゆるは貧窮孤獨の相なり。
 ○面を見に年より早く額の禿たる者は散財の相なり
 ○怒れば直に顔色火の如くなるは短命にして頓死の相である。
 ○眉毛の先縮み曲るものは人に計られ損失するか災難に逢ふ。
 ○眉八文字の如きは愚鈍なり又一文字の如きは不器用なり。

○眼常に泣たる様に爛れたるは愁事多く不仕合の相なり。
 ○眼尻に筋多きものは多淫多情にして男は妾を置か女は一人の男で満足せぬ所謂助平である。
 ○鼻の先驚の嘴の如く曲りたるものは困窮の相なり
 ○鼻の穴仰向きて露はるゝものは貧賤の相にして中年以後必ず衰運を來すと云ふ。
 ○左右の小鼻に大小あるは望事叶はず失敗勝である
 ○鼻の下の小溝の深きものは子孫が多い、横に筋あるは子に縁なし。
 ○顔に比べて口の小さきものは才能で名を擧げる。
 ○口を常に結び物言ふ時に大きく潤くなるは後世名を擧げる。
 ○物言ふ時に口の角の垂れ下るは人の悪口を云ひて憎まる。
 ○前歯の間隙あるのは父母の縁薄且つ不仕合で短命なり。

○齒列の整はざるものは中年破財する事がある。
 ○頤の前に突出る如きは住所の苦勞と晩年困窮する
 ○二重頤は晩年安樂を得らるゝ吉兆である。
 ○鼻の兩側より頤に太き筋が長く深く下りたるは長
 命なり、二筋になりたるは氣が多く種々の業を兼ね
 る人である。
 ○凡て顔は各部とも格好よきは福徳圓滿の相と云ふ
 て家運隆盛子孫繁昌するけれど格好なものは發達
 しない。
 ○頭を振か又頬を突き出して物言ふ人は色難多し。
 ○人を見て顔を掩が如く又笑ふに眼を閉る人は淫慾
 深し。
 ○婦人の髪毛太く頬骨高く又眉骨高きは三人の夫の
 死を見る。
 ○歩行に眼の地に落着かざるものは横死するか又住
 所に苦勞あり。
 ○歩むに度々後を見返るものは人を疑ふ心あり。

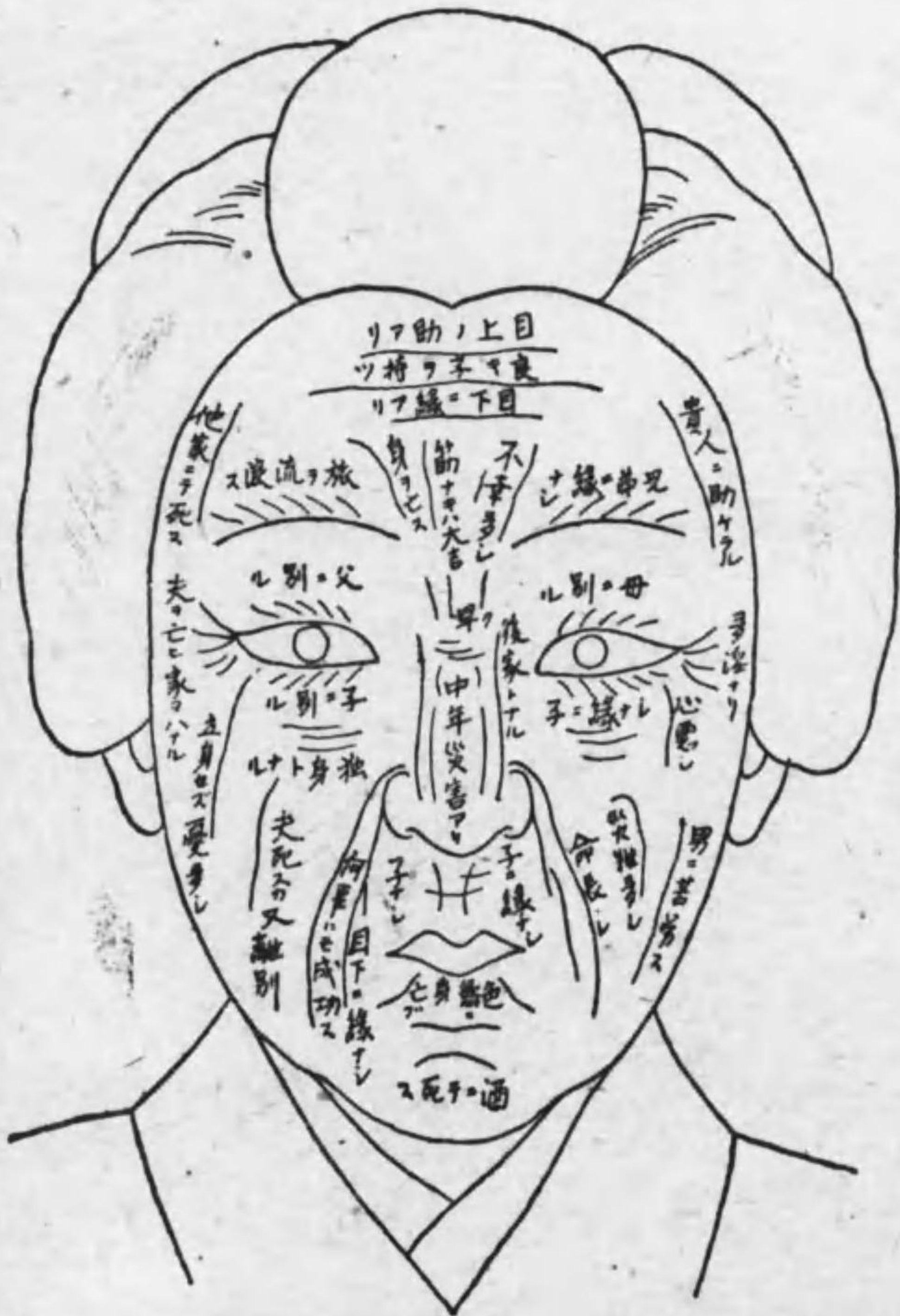
○歩むに頭を傾け又は身を振ものは晩年衰運に向ふ
 ○歩く時横に開く如きは親の業を嫌ひ他國に流浪す
 ○歩行に何となく騒がしく又足音高きは破財をする
 と云ふ。
 ○歩むに眞一文字の如く行くものは性急にして親の
 家を破る。
 ○座して膝を動し用なきに度々座を動くものは租業
 を繼ぐ事なし。
 ○座して泰然山の如くに動かざるものは行ひ正し。
 ○寝て足を動かす人は才智あり寝苦しきは苦勞絶へ
 ず短命なり。
 ○寝て涎を流すものは子孫の爲に難あり又短命なり
 ○寝て齒がしりする者は親兄弟に別れ妻の縁變はる
 ○臥て屈が如く又川流の如きは親の家を潰すか或は
 短命なり。
 ○臥て寝言を云ものは親の家を潰すか或は短命なり
 ○寝入て物に驚きウナサルものは妻と命に障と云ふ

○寝入て口を尖らし物を吹く如きは其身に盛衰あり
 ○眼を開きて寝入ものは疊の上にて死せず俯伏もの
 は病身。
 ○寝て鼾をする人は無病なれども下賤なり。
 ○物を食うに頭を動かすものは短命なり。
 ○喉を鳴して物を早く喰ふ者は浮沈多して性急なり
 ○口を開きて物を喰ふ者は食に盡る、又口より漏こ
 ぼす如きは短命なり。
 ○物を喰んとして言葉多く或は怒り又は惡口を吐く
 ものは大に惡く横死す。
 ○人と應對するに時々顔を横に背けるものは心に物
 を巧む、又物を見るに瞬き多き者は短慮の人なり。
 ○物を見るに愁眉の如きは辛勞多くして發達なし。
 ○家に入るに足音高きは大事を誤る、足音なきは物
 を窺ふ。
 ○寝入こと早く又覺め易きものは才智あり立身早く
 ○物云はんとして先に笑を含むものは早くより名を

擧ぐ。
 ○常に獨言を云ふものは獨身となる心に不足が多い
 ○頭を振りて物言ふ女は夫定まらず男は親の譲りを
 失ふ。
 ○物を見るに頭を傾くるは短命女は夫について苦勞
 する。
 ○座して度々伸し、又首を縮めるものは發達なく職
 を失ふ。
 ○女の物言ふに 頤を突出す如きに度々縁かはる。
 ○目を閉て物言ふものは偽多くして薄情なり。
 ○物言ふ中に左右へ眼を配るものは疑多く又物を
 盗む。
 ○歩き座りとも襟を直し袖口をつまむ如きは色情の
 ため散財する。
 ○物言ふて口に泡の出るものは我意強くして不義の
 行ひ多し。
 ○寒中に汗の出ものは下賤の業を好む女は再縁する

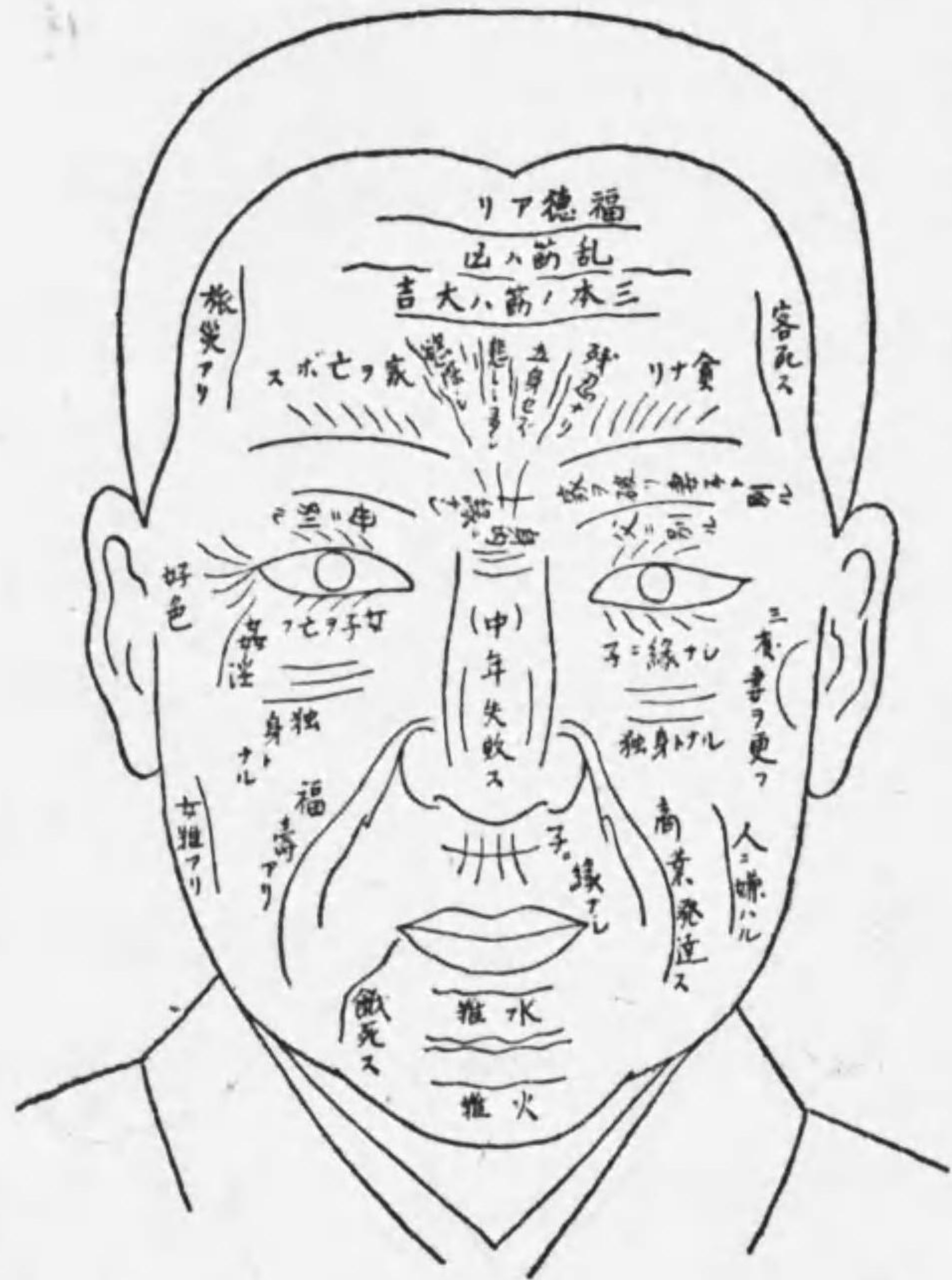
言ふ聲至
つて高く
耳に響く
如きは夫
變る、又
好淫。
○應對す
るに其席
に何とな
く落付き
がたきも
のは住所
の苦勞あ
り。
○物語り
の中に手
癖の多い

悪善の相人子女



泣くが如
きは貧、
又常に面
を撫でる
ものは不
幸が續づ
く。
○物言ふ
に唇を
嘗め又齒
にて唇
を押へる
ものは心
に毒を含
む。
○女の物

悪善の相人子男



司馬公曰く婦者家の所盛衰也と信なる哉此言や
夫れ上は一天萬乘の君より下萬民に到るまで此に頼
らざるはなし、例て云は、人皇廿一代雄略天皇萬
城山に狩し給し時荒猪出て人に觸しかば舍人等は恐
怖れて天皇を棄て逃ければ天皇勇を振て踏止め給の
扱後に舍人等の不信を責て殺さむと爲し給ひし時皇
后中帯姫が猪の故にて人を殺し給ふは豺狼の所業に
異ならず人に君たるの行ひに非すと諫め給ひければ
天皇は之を聞食て獵者は獸を獲、朕は善言を得たり
とて大に喜悅玉ひ舍人を赦し玉ひし故に聖帝の稱を
得給ひにき又支那の齊の晏子が僕御黃儀孫の妻の命
婦が其夫を諫て晏子は長六尺に滿ざれども齊國の相
として名諸侯に現る妾之を見るに其志念すること深
し君は長八尺に餘り其僕御となりて足れりとす云々
と云ひければ夫は之を聞て大に開悟し自ら勵て道を
學び謙遜にして常に足らざるが如くすれば晏子怪し
み其故を問ふに具に其實を述ければ晏子其能く善を

納るを賢とし景公に上疏して大夫と爲したり是を以
て君が天下を治るも万民が一家の營も人に尊まれ
譽らるゝも家の榮るも人に侮られ笑はるるも家の衰
ふるも悉皆婦人の内助による事を知るべし抑も婚姻
は人間三大禮の一にして就中婚姻は重きものとす、
何となれば一には祖先の系統を繼ぎ二には祖先の祀
を奉ずるが爲にして苟且容易の事に非ざる大儀を辨
へず唯門閥と金錢の有無と容貌の醜美を擇び婦徳を
問はずして婚を爲す故に各其所を得ずして或は流
離し或は疾病に罹り或は死亡し或は産業を失ひ遂に
滅亡を招くもの妙からず是他なし、其婦を娶るに於
て選擇の疎なるの致す所なり時に曰く初有ざるな
く克終有鮮とは其此の謂か矣余司馬光が金言に感
を發し井田龜學が遺書に據り多年の間之を試るに
其違ざる事符節を合せたるが如し是其内に伏藏する
所の者は必ず表面に發動せざるを得ざるの理にて其
心の自然に相に現はるゝものなれば一目瞭然と其人

となり知るゝなり、夫れ婦人は内を守り夫を助け舅
姑に仕へ子を養育し家政を掌るを以て婦徳の第
一とし容貌之に亞ぐ故に婦徳欠る時は容貌美なりと
雖も賞するに足らず婢婦の如きに到りては好で晨を
唱へ舅姑を蔑如し夫を制御するに苦執して家政
を意とせず所謂傾國傾城の稱を免れず維家之索たり
の点に陥るものあり此時に到り臍を噛むとも豈及ぶ
可けんや故に父兄たるもの子弟の嫁を娶るに方り一
層注意せざるべからず然りと雖も人々其職に非ざれ
ば之を擇ぶる由なし是に於て此書を誦讀し嫁の門閥
富貴皮相の美麗に惑溺せず其相の善惡を熟察して其
佳良なるものを撰んで迎ふべきなり此時男子と雖も
其相貌を熟視すること能はざる者なれば父兄たるも
の斟酌して親族の中にて敏捷なる婦人を撰み鑑定者
となし所謂見合を致すべきなり扱て妾を置くは若適
妻に子なき時は系統の亡滅するを恐るゝより起りた
る事にて決して色を愛するには非ざるなり是故に妾

を置くにも嫡妻同様其人を撰ばざる可からず然る
に近世は其義を知らざるより嫡妾は家の道具なれば
醜美に拘はらざれ共妾は必ず美を要すと云るは大な
る誤なり若し不幸にして嫡妻に子なき時は妾腹の
子を立て嗣をせざるを得ず妾其人に非して其子之に
似り順良ならざる時は終には其家を顛覆し亡滅する
恐あればなり古語に天二物を假さず角あるものは牙
を欠くと云ふ事あり古へより美婦の稱を得たるもの
に婦徳を具足したるはなく花の重辨あるものは實鮮
しと云ひて容貌美麗なるは多くは子なき者なり子な
ければ女の義務を欠く義務を欠ぐは不具の人なり、
晉不具のみならず祖先の系統を絶つ肉族の中に然る
べき人なき時は他人を養ひて家名を嗣がざるを得ず
然れ共系統の斷絶するを如何にせん仮令家名は相續
するも系統絶れば他家に異なることなし然れば即ち
不幸の罪は免るべからず又容貌と内心とは固より別
途なれば美女に惡婦あり醜婦に賢女あり一概に論じ

難しと雖も十に八九は此に居る都て女は智短く嫉多
きを性としれば吾容貌に誇りて婦道を欠ぐもの妙か
らず醜婦の如きは吾身を謙遜して能く舅姑に仕へ
良人を大切に守り家政を治む故に貞婦は多くは醜女
にあるなり然れ共中には美女にして婦徳を具足たる
人なしとせず如此者を妻となしたる人は眞に幸福
の人と云ふべし世人は唯美人と云へば心を動し傾け
ざるものなけれ共如何程美なりと雖も一皮剝く時は
醜婦と別あらざるべし然れば即ち美醜は皮膚一枚の
争ひまでなり就中藝妓の相あるものは心も又然
らざるを得ず故に人の妻となりても品質の性と業の
習慣に惹れて知らず識らず婦道を欠ぎ婦徳を破りて
家政治らす遂に夫れが爲に家の衰微を來すものも亦
妙しとせず注意すべきの第一なり、奸淫の相あるも
の、如きは娟を男子に呈する性あれば表面に現れて
一面に男子の心を蕩かす故を以て此に惑溺する者多
けれども其人となり情弱にして朝暮身の驕飾に心を

苦しめて家政を事とせず家政を事とせざれば家内治
らす遂には破滅の端緒を惹出す、藝妓の相あるも
のは多く此相を備ふ忽にすべきに非ず又和合の相
ある婦人は第一其心貞操にして内心に眞實の種を有
する故に夫より誠實の花を開き好果を結ぶに到るな
り此相あるは日を追ひ年を重ねるに随つて夫婦の情
合深くなるのみならず内外上下の人に尊崇せられ
家内和合して家の榮ゆること鏡を掛けて見るが如し、
賢愚美醜幸福壽命は天賦にして如何ともすべからず
唯天を怨みず人を咎めず身を慎み婦道婦徳を專一に
心掛るときは其誠心天に通じ神明の冥助を得て其の
禍を免るゝに到るべし。

◎人相の大意

○火難は眉と目の間に赤筋あり又唇かわき眉に疵

が出るなり。
○水難は耳目鼻口のあたりに煙の如く黒き血色出る
なり。
○負傷はコメカミの所に黒きか青き血色出るなり。
○劔難は目の中に赤筋横に出で又は額に赤筋出づる
なり。
○鼻下の溝に髭のないのは中氣の病出るなり。
○頤の小さき人は住居の苦勞たえず。
○女の咽喉高きは他國にて死するなり男は貧なり。
○三ッ口は先祖の不陰徳なり。
○頭の中にはくろのあるは食膳にさわりあり。
○家を破るは眉の上下に黒色現はる、なり。

◎女子の人相

美人の相 全体中脊にして高からず低から
ず身体の色到つて白く白き中に
光澤ありて格別に肥滿らず中肉にして生肌細かなり
第一頭圓く面の構へ少し面長にして髪が生際奇麗に
厚からず尺長く光澤ありて黒し、眉より髪が生際ま
で寛饒としてせ、こましからず併し生上りたるにあ
らず、眉細く新月形に長く眼と眉との間狭陰からず
凡そ一寸位あるべし、眼細長く而もした、るき眼に
あらず瞳大にして内に光ありて燦爛つかず○鼻筋瘦
すムツクリり高く穴小さく圓し、向より見れば穴見
へす小鼻怒らず鼻筋さし通りたり○口小さく到つて
紅く紅粉をさしたるが如し、○齒大小なく能く揃ひ
白くして光澤あり○耳大にして圓く而も肉厚くして
平生薄紅き色を含む○髪が生下り長からず長きは淫
慾深し、首筋の生下りも同じ○手足尋常にして指總
て長く節なくして細く圓し○肩圓くムツクリとして
胸脊中も亦圓し、但し圓くとも窄りたるは地蔵肩と

て不幸の相なり、又脊梁の筋窪みたるは美人にあら
ず、必ず晩年に難義する事ある相なり○乳房小さく
圓し○腹大きからず又
向へ突出たるも悪し唯
ムツリと圓きを吉とす
○臍小さくして深きを
吉とす○腰骨横へ張出
さずして臂圓く小さし
○歩行やう真正にて内
輪にならず又外輪なら
ず○物事總て温順く聲
清らかに澄みて賤しか
らず柔和にして爰し○
右の如く能く揃たる女
を美人と云ふ世に稀な
る相なり、斯の如き姿は平人には甚 稀なり、此相
に似たる女は仮令賤しき腹より出たりとも後には貴

人高位に引擧られ立身出世すべし○
併し右の相を具備せるものは多くは子なき者なり、
古語に美女子なしとは
餘り容貌勝れたる女は
子なきが多し、凡て女
は子を産むを尊とす
子なき女は仮令美人た
りとも尊ぶに足らずと
云ふ諺あり、其子の
有無に種々あり、以下
の圖相に照して考へ知
るべし、少しにても此
相に欠たるは美人に非
ず○去ながら此相より
少し肥て腰骨少し横へ
張り鼻の下に水溝とて溝あり、其水溝の下張に深き
女は子多し、詳しくは子ある女相と参考すべし○



美人の相

大出世の相

相あり、大概美人の相に似て相違あり、中脊にて小
前に見ね体瘦たれども
骨出す全身艶麗なり、
勿論手足尋常に指至つ
て長く手の内和かに紅
色の光澤平生あり○顔
而長に額少し開き腮
圓し○髪を生際薄から
ずして生肌よく髪の色
艶黒く細くして長し、
○眉は眼より高く細く
長し○眼小からず細長
く重瞼なれども賤く見えす○鼻さし透り圓く鼻梁尖
らず○口元尋常にして常に笑ふが如く唇紅色して
唇の下窪ますムツクリと光澤あり○耳圓く和かに

凡て親より生れ優り格別出
世すこ女は普通の女と異ふ
世すこ女は普通の女と異ふ

大出世の相



して大し○胸及脊中圓し○乳頭圓めにして何となく
四角に見ゆるなり○腹圓くして臍深し○腰骨横へ張
らずして圓く腎出です体より足長く肌膚の生肌細に
して色艶のよきものは
出世するなり、併し言
語動作によりて出世の
高下あるべし、總て美
人の相と引合せ大に違
ふものは出世せず但し
平生の身持の卑賤によ
り大なる立身出来ぬも
あり、又髪を生際スツ
パリとして肌膚白く光
澤ある中に何となく黄

色に見え或は眉毛の中赤き筋あるもの、又唇光澤
ありて赤く口元何となく優しきもの此三ツの色ある
ものは果して出世するなり、貧賤の娘は豪家へ嫁し

富豪の娘は貴人に召され、娼妓藝妓は身ぬけして果
福あるべし、孰れも不相應の出世ある相なり。

同出世の相

前の出世の相と同じ
けれども中級の出世
なり、身体中肉に肥
え色白けれども少し
黄色なる様に見え、
顔の而長きは美人に
似て眼大きからざれ
どもパツチリとして
鋭く見ゆる。



出きの相

胸及び脊、腹、臍、
腎、手足なども前の
出世の相と違はず、
但し眉の中に紅き光
澤なく掌、腕かけれ
ども紅色の光澤なく
白く黄青かるべし、
夫故大なる出世なし
と云ふ。

併し平常に鼻の先黄
白の光あるは大に出
世す、仮令其色なく
ども親よりは出世す
べき能き相なり殊に歩行ぶり颯灑にして進退舉動騒
がしからず寝顔に笑ふが如き愛あるは又出世の相也

貧賤の相

終身人に使役れ或は中年夫を持ち其身を修むと雖も
其男が死亡か又は離縁
か或は子あれども共に
貧なるか又は病身とな
るか終身苦勞絶る間な
し、至て賤き相あるは
終に夫子にも相離れ獨
身となり或は養育院に
て一生を送る類多し、
是れ生れつきとは云ひ
ながら其心の嗜ある
者は又人の扶助あり、
能々慎べき相なり。

貧と賤と二様あり、貧き相
は富む事ありと雖も賤きものは
は富む事ありと雖も賤きものは



貧窮の相

凡て顔面長けれども眼窄り色白
きあり淺黒きあり白青きものは

紛滓斑あり或は黒痣多し、額は開きたる様に見えて
髪薄し髪は厚きは賤く薄きは貧なり、或は禿上りた
るか又は髪黒けれども光澤なし○眉は高けれども薄
く長ければ藍を引たる
如く濃く又は眉尻下り
たり○鼻もうんなりと
見ゆれど鼻の根元低し
又根元瘦て骨みえる鼻の
穴圓からずして少し長
く廿歳前後より毫毛の
様なる鼻毛生え又大顔
にして鼻少し○口は顔
の割合にしては少し大
きくして唇よごみて
少し黒み赤し○眼は大
小様々あれども大概眼のうち清亮に見ゆるは白眼が
ちなるか又は黄ばみたるか或は青眼がちなるなり。

○耳大けれども色黒きか又大にして尖りたるか或は
 小くして引着たる様なるか○首筋到つて太し○全體
 格別瘦ねども肩胛の所の骨高く脊骨窪み腹前へ差出
 たる如く又至つて大な
 る腹か臍は小く下に垂
 れたる体、身体平めに
 胸太く肥て長く見え脚
 面に肉なく骨も見え青
 筋たち手足共に骨肉何
 となく荒々しく肌膚の
 生肌又荒く俗に鮫膚と
 云ふ女は貧相なり、併
 し是は中肉中脊の人を
 いふ、脊の高きと低き
 と肥たるも瘦たるもに

貧乏の相



てそれ／＼異あれ共大方右の相のものは貧なり、以
 上貧相の中に子の有と無とにて相の大に變る事あり

筋現れ凡て目鼻の間せ、こましく見ゆるなり、一寸
 見るに何となく艶色なきものは皆貧相なり、若し貧

次の貧相と見合せ考ふべし。
 此は頭も圓く顔相も能く色も白
 く姿も悪くなければ其何となく憔悴
 身すばらしく見ゆる
 なり。
 ○眉の生たる骨少し高
 く見へ一文字にして愛
 なし○眼は青眼がちに
 少し大きく○鼻高くし
 て顔と釣合す大にして
 少し尖り瘦せ○口は小
 く見ゆれ共うば口なり
 ○耳小くして耳珠も剛
 く前の方へ向ひ蛤の
 如く○首筋たち延て青

ならざれば病身なりと知るべし。
下賤の相

下賤の相



短し、面貌短く平
 面にして腮の骨高く
 張り勿論白淺黒く額廣
 しと雖も小皺多く見へ
 髪の色光澤なくして赤
 く太くして短し○眉毛
 至つて濃く長けれども
 眼と間なく○眼太く圓
 くして窪み眼の内黄色
 にぞみ○眼の周圍清潔
 せず何となく慘苦し、
 ○鼻は俗に云ふ團子鼻
 に似て太くして肉厚く鼻の根元低く鼻の孔大なり、
 ○口大にして唇厚く色黒く赤し口の吻に豎筋多く

凡て下賤の相は脊低く肥太り手
 足荒々しく生肌細ならず指頭太

見へ○耳大けれ共色黒く毫毛多く生へ目より下に着
 て耳珠なく引着たる如なり○腮短くして頸筋も亦
 突込たる体○胸脊共に平めにして皮と肉とぶた／＼

として何となく汚穢く
 見へ○腹大くして臍小
 さく淺し、腎突出て體
 に引合せては短く内八
 に歩行ぶり至て見苦し
 くして肩と腎と動き或
 は歩行ぶりチヨカ／＼
 として両肩尖り首短く
 物云ふ時は俯き目を閉
 て云ひ又驚しく調子
 高に云ひ或は聲濁り驚
 の鳴聲に似たる者は凡
 て賤し、右下賤の相は到て見易し、先づ貧乏人多き
 町村の女の相を見て知るべし、種々の難相あり、千

差万別にして悉く圖に書し難けれ共仮令貌は賤く生れたりとも心賤しからざれば自然と相も變り成人するに隨ひ艶色もよき相になり顔の備も違ふものなりと知るべし。父母より稟得たる下賤の相は是非なければ心を嗜み身持を慎む時は相も亦宜しき色現はるなり。

至賤の相

前の下賤の相より又々賤きは脊低く圓く肥太り顔圓く遍面にして髮太く生際厚く出ツ入ツ額に墨の入たる如く生え又少し偏上りなるが就も賤く見ゆるなり○眉低くして薄くムシヤ〜と兩方一ツに生

至賤の相



て眼と間なし○眼圓くして鼻にて根元ひゝみ○口大きくして唇上様へ刃上り齒現に見へ齒甚だ太くしてむさくろし○耳小く憔悴耳珠なく引著たる如く○腮の骨横へ張て下腮尖り手足凡て短きものなり。

愚鈍の相

凡て愚なる者の相様々あり、圖に書し難し、何となれば容貌十人並にして心愚なる者あり、又物を見詰の涎を流し小首を傾けウツカリとして居る者は相に著はさざるとも白痴と見ゆるなり、短氣白痴あり氣拔愚鈍あり、用に立ぬ事を事毎しく

云ふもあり、苟にも寝る者あり、總て賤き者は能く寝たがるものなり是智慧の薄き故心氣の縮なさを現すなり、元來白痴なるものは寝るも起るも進退動止しどけなし智慧ある者も万事心を注ざれば白痴に類す可。

賢女の相

容貌に高短肥瘦あれども大概顔の形面長にして額廣からずウンナリと高く髪の生際清楚にして光澤よく細し○眉は眼より高く眼は眶厚く奥深く見へ黒目がちに於てウンナリと長く眼の鮮明なるものなり○鼻筋さし通りむつくりと肉づき○口元は平生に笑ふともなけれ

賢女の相



ご優美見へ、唇紅粉を塗りたるが如し○頤少し細くして圓し○耳は大なるものあり小きものあれども凡て圓く厚くして色白く薄紅き血筋あり、其上に耳の中程に黒痣あり、又小耳の前に黒痣あり○齒なみ揃ひ少し黄色に光りあり、又重り齒の者は器用なれども嫉妬深し○首筋圓く立のび凡て賢に見るなり、身体長く脚短きもあり必ず歩行ふりあしきものなり、才發なる者は風俗に拘はらず又は腰より上下對等なれども色淺黒く又は白きもあり、指尖長く掌軟かなり、此賢女の相の中には意地の悪きと嫉妬深きとあり、

以上の如き相にて口喧しく云ふもの又進退騒々しきものは不器用と知るべし。

子のある相

凡て子のある女の相は顔にては容易に知れ難し、但し鼻の下の溝、下張に深きもの或は溝下張なれ共淺く真中に黒痣あるものは双子を生むなり、又子なき相の者に黒痣あるは極めて淫亂なり、先づ子のある相は全身の肌膚細かならず何となく脂つきたる体なり、全体の容貌美しくなし、是到つて見にくき事なれば肌膚の皮膚を篤と見るべし、先づ乳頭大にして黄黒みあり、但し

子有る相



一人にても子を産たる女は乳頭にて早速知る、者なれども多く産か又は一人か二人にて産止る者あり、此は男子の種によるべき事あり○臍の皮厚くして穴圓からず横に大なり○腰骨横に張り腎平めに大なるは子多し大抵子のある相は腰にあり仮令十五六才の小娘なりとも子多しある相は腰骨身体不相應に大きく見ね腹なり平めに下に垂れたる体、何となく腹の肉多く大く見ゆるなり○肩より腰までの間寛體として足の方短かく平常汗多きもの子多し「此相と次の子なき相と照し合せて子の多きと少きを察すべし」○大く肥

満たる女は子あれども少し多くは子なし○臍の中に細き毛長く生たるものは其子出世するなり○乳頭大にして四角に見へ臍大に穴深きものは其子出世するなり○平常は陰氣にして物數云はぬものは必ず女の子多し○左の耳右より大なるものは男子を生む、右の耳大なるは女子を産むなり、○鼻梁低く髪薄く又は紅色なるは女子多く男子少なし○毗に横皺長くありて髪黒きは男子多く女子少なし○右の手の小指短きものか又は耳圓く厚くして眼と對様に低きものは女子多し○聲清らかなる者は男子多く濁りたる者は女子多し。然れども男女の子を分つは至

子なき相



つて難かしければ爰に其大略を記す、凡て孕たる子右孕左孕にて男女を察する事は貴人高位の正しき女子の事なり、平人は之に拘はらず先づ其女を屢歩行して見るべし何時にても左の足を先へ踏出すは男の子右の足を先へ踏出すは女の子と知るべし○又左の眼の下薄紅きは男右の眼の下薄紅きは女○又孕て四五月目に臍出る者は男額に黒み見へ唇青く眼の内淀みて光なきやうに見ゆるは女○又兩の眼の上下薄黄紅きは男、口の吻赤き色見ゆるは女の子なりと察すべし。此相紛らはしき事あり世間の子なき相と見定

子なき女の相

めたりとも遊女の類富豪の妾などに成たるものは子の有無を察し知ることは成り難し、此は又遊女の相と照し合すべし、若し遊女と察せば仮令多く子ある相なりとも一人か二人と定むべし、又子ありとも産の上にて厄難ありと察すべし是れ相法の秘事なり先づ子なき相は是も面部にては察し難し併し両眼おち窪み鼻の下の水溝、筋上開き下細きか又は到りて淺きは子なしと知るべし、仮令水溝に子ある相ありとも笑ふは横に紋出る者は子なし、是れ子が實験なり○唇の紅み少き中に青色あるものは子なし、全体身体圓く肌膚細

子の育たぬ相



にして色到つて白く皮肉牽はる様に見え臍小く淺く腹削りたる如く小く腰骨薄平めに小く腎圓く小く肩より腰迄の間圓く見へて短く乳頭少し平めなるか又は少し曲たるか又白く黄ばみたるは皆子なし總て女の相を見るにスツバリと美麗に見る風俗の者は決して子なし大体汗の出ざる者は多くは子なし○齒自然と白くして尖りたる者も子なし○腹形小くして臍のあたり向ふへ突起たるは子なし○能く肥て骨なきが如き者子なし○生付たる顔の男の相あるは子なし○二十歳前後にて口の吻に細き毛ある者子なし○大概小作なる女は先づ子ありと察して後

子の有無を考ふべし○仮令小作にても体短く圓く肥に腰より下長き者は子なしと知るべし○

子の育たぬ相

夫の替る相



顔の形額窄り下ぶくれにして髪細く柔なれ共短く○眉薄くしてなきが如く兩眼凹み陷り眼の上下に肉なく○鼻普通のやうなれども根元低く鼻の下の水溝に横筋あり○唇なまじらけ舌赤み薄く黄青色を含み顔に似ず耳小し○乳頭引込たるか又少し曲りたるか、臍小くして而も凸臍なり○總身の骨細く皮薄し○腹削りたる如く○腎肉或は腋腹の間手弱く小さく腎蜘蛛の如く出で出

腎でなくして出腎に見ゆるなり如此女は子ありと雖も嫡子が死ぬか次が死ぬかにて必ず育ぬものなり○肉ぶさくとして見え悪く肥たるにてもなく皮肉思ひ合ぬ様に見ゆるものも又子育す○兩の頬掘出したる様にて臍窄り短きもの又額に横筋多もの○小指到つて短く又歪たる者も子育す○赤はしりたる体に汗油ざりたる者子育す以上の相ある者總て子の育かぬ者なれば女たるもの信の心を發し其身を慎み夫に事て女の道

夫の替る相

に背く事なくば自然と子の育つことあるべし○額廣く髪の生際まで豊に見へて削るが如く額のかゝり

は至極よく見ゆるなり○眉の生たる所の骨少し高く眉は薄きあり濃きもあり○眼圓くして少し斜み青眼にして涼やかに見へ

両の眉の正中より上へさして凹あり○鼻小く鼻梁低し○口は少し尖り又大にして出齒なり○胸少し出て脊たわみ尻尖り、○顔に黒子多きもの年若き間に多く夫を待ち其身情弱、淫亂にてもあらね共自然と男を持替るものなり、又頭たるものも男をたびく替る事あり。

夫に縁なき相



に逆毛ありて上の方へ生上る○眼大にして而も凸眼なり○鼻はさして癖はなけれ共根元必ず低く鼻毛多く生ず○耳後へ反り薄くして肉なし○口さましくあれ共それに拘らず○腎尖り腰窄り○脊には高きも低きもあり○眉と眉との間細き堅筋あり、此相を現すものは夫を失ひ又は仕合せよけれども離縁し、子あれども別れくになり凡て縁なきものなり。

夫に縁なき相

両方の眉一つになる如くムシヤく生へ其中

夫に別る相

顔の形額より頬までの間は對等にして頬骨高くそれより下腮までの間窄り頤尖り○眉は藍を引たる如

濃眉にも非ず青黒色なり○眼角あり白眼がちにて黄色を兼ね赤き血筋常に絶わす○鼻に節々見へ高く尖るもあり又横遍なるもあり○耳大なるは反りかへり、小なるは挫け引



夫に縁なき相

体たる体○口大にして突吻或は齒大なるか又重り齒あらか、唇色悪く紫黒色○面の色淀て青黒きか又白ければ胡粉の色の如くにして光澤なくツガくしたるか又赤黒き色あり、○喉の骨突出で男の如く或は頬に横筋多し、此相あるものは右に云る如く夫に早く別るゝか子に離れたるか短命の夫を持つか何れ薄縁なるべし

此相多くある故再録す
縁となるべし○又眼の下煙りたる如く黒赤色出るは夫を失なふ、又鼻の下の溝に毫毛多く生じ肌膚に赤

其他○額の左右に髮旋毛ありて髮剛きもの夫の縁薄し○十四五歳の時より髮抜て生ず薄きもの縁なし、○聲の乙聲又は雌聲の者も夫の縁うすし○平常躰の冷ると思はずして冷るもの○骨の手あたり石の如に覺ゆるもの○眈の所肉なくして窪み色煤氣たる者○食事の時用事なきに立騒ぎ食好みするもの○短眼の者○上唇薄く長く下唇を覆ふもの、此等の者は皆夫を押込め我儘な性なり、若し夫短氣なれば常に仲悪く遂に離

色出るは急に夫に別る、ものなりし

奸婦の相

顔に大小あれども平面なるものは頬骨險に見へ、又面長なるは

悍婦の相

額禿げ上り顔のそなへ
セ、コマシク見ゆるな
り○眉の上の横骨高く
眉一文字に薄く生え、
○眼狼の目に似て角あ
りて目尻少し下り又眼
小く内窪にして光あり
若き時より目尻に横筋
見へ○鼻の骨節々あり
て鼻頭曲り小鼻怒り鼻
の穴大きくして穴は菱
形なり○頬にたすき掛
りて口を包み○口は上唇薄く尖り下唇厚くして
色悪く○耳は上尖り耳垂引着たるが如く○髪赤色に



光澤なくして剛く○頤の下喉骨(俗にのどぼとけ)
太くして若き時は見へね共年老るに従ひ次第に見ゆ
るなり○胸骨何となく荒々しく男の如に見へ而も窪
み尻尖る、但し大きく
見へても圓からず尖る
なり此等の相ある者は
甚だ心奸く意地悪く
万事理窟を云並べ我が
利を得んとするに巧な
り凡て女の性質は疑ひ
深き故普通の人も事に
よりにては意地悪く種々
その事を心に巧み人の
隙となる様にするもの
なれど別て此相あるも

のは魂性悪き人と被まる、相なれば慎むべきなり其
外敬目の女、又苟且物を見るに尻目づかひして体を

動きす納りたる顔付なるもの或は行きながら後を顧
み尻目にて物を見ながら行く者、又人と物語りする
に下眼遣ひして物云ふ

狼推す相

もの○又額常に青煤た
る色見へて筋立たるも
の此等は皆心好く、
夫に妨あり、其身も
不時に災難をうけ、悔
む事ありながら改め慎
まざる相なり、
大体意地悪き女は眼と
鼻との相にあるものな
り、又以上の相にして
舌に黒痣あるもの又眉
の上の両方に煤色ある
もの又頬邊の筋黒く煤けたるは窃盗心のある者と察
すべし。



艱難する相

顔の形十人並にして悪くは
見へねども兩の頬骨少し張
て額と頤すぼり髪の
生際左右に出入ありて
髪の毛悪く髪先所々に
縮毛生え○眉の生たる
所白き光澤眩々に見へ
毛皆上へ生たる所ある
もの○目は常に少し
太く凸眼のやうにてバ
ツチリとして白眼の所
は黄色にぞみ眼尻の方
赤筋あり○鼻は高くさ
し通りたる様に見へて
肉なし、根元低く瘦て

骨に節あり○口は大なれ共齒列齟齬ありて露齒なり
○耳は肉なく枯て後へ反かへり剛く、勿論耳垂なく

して引著たるが如し○頸項細く立のび青筋多く出で肩圓からず、骨出て少し上へ登り胸狭く脊窪み腎尖り腰より下窄り○足の踏肉なくして筋顯れ○足くびの蹠の後跟の所肉なくして骨高なり、以上の相は皆終身の中艱難多く薄命にして父母に早く離れるか夫に別る、か又夫流浪して共に他縣へ行か其身思ふ事叶はず折々不時の災難に苦勞する相なり、併し辛抱する女は中年以後少し緩み人の救助に逢ふ事あり、其場を慎まざれば大に苦勞すべし○又頭の俄に禿る者は夫より艱難するの相なり、

根雅する相は教多ある故再掲す



口尖りて火を吹く形のもの又縮毛のもの○髯大にして鬮子高に物を云ふ者○年若く鼻毛の多く生ゆるもの○眉両方の間廣からずして迫り、眉頭濃生へて眉尻の薄き者は一生艱難の絶ることなし。

嫉妬の相

凡て嫉妬深き女は額の骨高く探り見れば凸凹あり○眉短くして薄し○眼落窪み左右に大小ありて眉尻下り又落窪ありて眉元節ありて小鼻の所筋深く○口大にして齒頭尖り重齒あり○唇の下凹み頤挟り腮の骨きツとして胸の間狭く○腰のあたり

肉薄く削るが如くにして腎大なり、凡て物嫉みする相は魂性悪き相と姪亂の相と能く似たるものなれば照し合せて判断すべし。

奸姪の相

好密夫の相と云ふ事は有るべき筈はなけれ共姪亂の性より醸す所なるを以て其相を今仮りにマフトコの相と題するなり、凡て女は姪亂なるものなれど慎み守るを以て溶す又慎みなきものは極て相に現る者なり。



嫉妬の相

○顔の形長き短きはあれ共觀骨尖り苟且見は十人並の顔にて少し中凹の顔なり○眉濃きも薄きもあれど

○鼻筋さし通りたれど少し齋口鼻に似て根元に節あり、普通の鼻は少し仰向に平目なり。

外眦下り斜み○眼は象の目に似て細長くへの字形少し尾下り重眦なり、又一皮の者は凹みむしやくと見ゆる眼なり、大抵人に逢ふ毎に俄に上下の眶一ツになり笑を含む眼遣し又常に酸鼻たる体に見ゆるもあり、或は重眦にして對等に長く外眦に横皺あるもの或は酒に酔たる体なる眼の者、又物云ふに下眼使ふ者。

右執れも眼の形は違えども皆姪亂にして必ず唯獨に男に通ず。

○口大にして唇艶なく赤し。
 ○耳輪耳朶共に薄紅し、「耳は色を以てす形によらず」○髪厚く生下り濃く○顔の色油づき或は上皮ばかり眩々として粉のふきたる如に見ゆるもあり、
 ○外眦の所骨凹く色薄青黒、又其所の色黄赤ありて次第に頬に掛り下るは極めて私に通するの男ある現相なり。
 又陰門に黒痣あるは姪亂なり。
 ○鼻筋に堅筋あるもの、○頤黒味煤たる色平常ある者○脇の下に毛多きもの。



奸淫の相

總て毛深き生れの者。
 ○面の色黄にごみたるもの、外歩行のもの、凡て此相ある者は必ず姪亂にして心定らず氣移易き相なり。
娼妓になる相
 好んで遊女になるもの稀にはあれども、多くは父兄の貧きが爲に是非なく遊女となるなり。
 故に下賤の娘の相を見るに爰に現はす相あれば將來必ず花柳街に沈淪と察すべし、顔形善悪あれども面に對しては口小く○眉毛荒く薄し。

○額高く所見よけれど削るが如く見へ○耳圓く前方へ曲り俗に福耳と云ふ如にて薄く硬く正面より見れば見へ透く如くにして血脈多し。
 ○眼圓く涼やかして薄黄色あり。
 常に兩の頬薄紅きあり、又眩々するあり是の相は遊女となりて身に幸あり。
 其他の相は悪相なれば踐しき遊所に終身沈淪ぬれば論するに足らず。



娼妓となる相

頬に少し赤血筋あり、又中凹なる顔は頬色青き中に煤け色ありて凡て頬に妍毛の長きが生て毛穴荒し、
 ○眉一文字にて短く少し上へ反り薄く又は短く濃くして上へ生へたる毛多く○眼は赤筋の横に引きたるもの○鼻は根元に指にて押したる如き凹みあるか○口の吻に横紋ありて口の入り○内眦外眦の肉、眼の珠を覆たる是第一の察所なり。
 ○髪厚く生え耳の根まで生へ下り髪の中に青黒の血脈所々にあり○耳は前に覆ひ小さし。

劔難水難の相

面中高に見へて觀骨尖り耳際までの所見殺たる如く

○常に眼先より両の額の角へさして煤け、黒色皮肉にあり○又齒少しさし出で大にして短く○掌長く指短し

指尖り切たる如く爪の色常に青白く、

○常に内氣の如にて物少く云ひ下目づかひ多し

○又取しづめなく、グワラ〜と忙て、

又物を苦慮るときは氣にやみ打臥て寝るもの

又寝る時は口を開き眼を開き下眼にて寝るもの

○總て此相あるもの、劔難に遭ずば水難に逢ふか、

るべし

劔難水難の相



或は餓死するか、縊れて死するか、悪病に苦痛し死するか、孰れ此等の難を免れず不時の災難に罹り其身を果す者なり

以上は大に悪き相なれば身を慎み、少しにでも悪き心をたしなむ時は、

假令貧賤の者たりとも、陰徳とて人の爲に陰にて善事を爲し

置き、更に恩とせず其身の祈禱を思ひ慎む時は、

神明の冥助を得て、自然と運も開き、此の難を免がる、事あり

夫婦和合の相

眼鼻口耳凡て面体う

んなりと見へ、眼と眉との間高く眉毛細く長く新月形にて色

光澤よく平常に眉の上より眉毛の間薄紅に光澤ありて鼻の

り圓くさし通り、唇光澤よく紅く口

元小さく見へて、笑ふ時は大にして船を

泛めたる形に似たり肩骨見へずして圓く背

凹ますして圓く、全体圓きもの、總て夫に能く事へ、女の道を守り、假令

ある理なり家榮る運あり女たる者は美へき良相なり

夫婦和合の相



此相は凡て温順き者ありて美人の面相に似て

夫荒々しくも温順にして中年以後は甚だ富榮わ、夫の家を引興す相なり、又是に子ある相ある時は必ず

良夫の家に嫁し、子孫次第に榮え、終身苦勞と云ふ事を知らず

町家の娘は豪家へ嫁し、官吏の嬢は貴人に嫁し、女に因て夫と共に榮え極て

良き相なり、美人の相は人に寵愛せられ身の譽となれども又捨らる、相あるべし

此相は夫婦和順なり女の相に和順なるは稀なり和順なれば子

者は美へき良相なり

◎婚禮の儀式

お輿入れは斯う云ふ風に

婚禮の儀式には眞行、草の三種あつ

て眞、行、草にも上、中、下の三通りある、眞行の婚儀は禮法家を招いて其指揮を受けねばならぬのでありますが、元々禮は習慣の型で時代と共に推移すべきものですから強て古法に據らなくとも神聖を汚さず嚴格を破らない程度に習慣に従へば宜しいのです、輿入れの當日は媒酌人、或は媒酌人の妻女だけが附添うて新婦を新郎の家へ連れ行き、新婦の両親は後で改めて舅入りをするのが本儀ですが輿入れと同時に舅入れをするのが一般で新婦の兄弟姉妹で獨立し得る年齢に達した者は同時に連立つのが習慣です。

當今は神前で祝言の盃、親族の盃を濟ませ祝宴を自宅或は料理屋で開くのが通例になつて居ますが

を主位に据へ介添人がある場合は少し引下つて坐せしめ然る後に新郎を客位に据へます、媒酌人夫婦は各々別れて其次に座ります。

席が定まつたならば座中が一禮します、夫れから二人の酌人が、蛤の吸物を捧げて新郎新婦の前に据へ、次に本酌人が一人床の前へ行つて、取肴の三寶を捧げて新婦の前へ置き、豫め用意して置いた筋違に行つた紙に箸で取肴を取つて新婦にすゝめ、次に新郎の前に行つて同じく取肴を取つてすゝめ其三寶を別間に引きます。

それから盃の三寶を捧げて新婦の前に置き更に本酌加者の二人は床の前に行つて本酌は雄蝶のついた銚子をとり、加者は雌蝶のついた銚子を執つて下座に控へ、媒酌人の夫人の指揮で新婦が盃を執ると本酌が進んで酒を注ぎます（介添人が盃を執つて本酌が酒をつぎ新婦に勧めるのが法だとも云ひます）新婦がそつと戴く形をして一献呑み終つた時に

祝言の盃をする宴は床の間ならば軸物、花瓶、置物等を除いて紅白の鏡餅を三方に据へて床の正面に飾り其左右に各三方に起たせて神酒を供へ鏡餅の前には長鬘斗の三方を置き其の右側に三組盃を据へた三寶其又右に雄蝶のついた銚子を置き長鬘斗の左側に取肴の三寶其又左りに雌蝶の付いた銚子を飾ります。

中流の家庭では輿入れ當時侍女の役目を務めるのは新郎の兄弟又は親友の妻女、叔母等世故に馴れたものを撰ばなければなりません。

新婦の車と其介添人及び父母兄弟等の車がついたならば先づ接伴人は侍女等と共に之を玄關に出迎へ新婦を介添人は化粧室へ其他の人を待合室へ案内します、其場合都合が悪ければ一同を化粧室へ案内しても差支ありません。

三々九度のお盃の順序は 座席の準備が整つたならば先づ新婦

お酌は更に一献注ぎ新婦は之を呑み、本酌は下手へ下つて雄蝶の銚子を下に置き加者の酌人は雌蝶の銚子から酒を少し、盃の中へ加へます（以下三献目は之に同じ）

本酌は再び進んで新婦の盃に酒を注ぎ新婦は之を呑んで盃を置きます本酌は銚子を下手に置き其の盃の三寶を新郎の前にすゝめ、新郎は盃を執り本酌は之に注ぎます、新郎が二献呑んだ時に本酌は下手に行き加者の酌人は雌蝶の銚子から酒を加へ新郎が三献を呑み終つたならば其盃の下に重ねます。

次に第二の盃を新郎にすゝめ酌をして加へをする事前の如くして三献終つたならば、夫れを新婦にすゝめ前と同じ事を繰返し三献終つたならばこれを下に重ねます。

第三の盃を執り前の如く新婦に三献新郎に三献すゝめて盃を納めます、即ち新郎新婦は三遍づゝ

三法都合九度飲む事になりますので三三九度と云ふのです、此の盃が終つたならば本酌は銚子を引き次に盃の三寶を引いて別室へ下ります、媒酌人は儀式の芽出度終つた事を述べ新郎新婦は黙禮して各々休憩室へ退ります。

略式では一個の銚子に冷酒を盛り雄蝶雌蝶を共に結びつけてそれで酌をします、それを和合の銚子と云つて三献づ、飲む代りに酌をする時三度注ぎ一の盃は新婦から始めて新郎で終り第二の盃は新郎から始めて新婦に終り第三の盃は新婦から始めて新郎に終ります、此略式の場合には忌のない掛軸をかけ花を活た花瓶を置いて差支ありません。

親族の盃と里披き及び新婚旅行

祝言の盃が終つたならば同じ其室で親族の盃をします先づ新婦は新郎の親族に對して坐り新郎は新婦の親族に對して坐りますと媒酌人は新婦の土産物を披露して愈々盃

等の實のあるものをよしとします。

饗宴に連なるのは新婦の親類、媒酌人夫妻、待女郎、新郎の家族で獨立の位置あるもの、並に親友等を普通とします。

盃事が一順済んで燗酒が出て宴が耐になつた頃を見計らひ待女郎若くは媒酌人の夫人は新郎新婦を伴うて其席を離れ別席でお高盛の本膳で食事を攝らせ間中に入らせます、又新婚旅行をする者は直に支度をさせます、斯くて酒宴が終つて來客が歸るのをお開きと云ひます。

新婚旅行をしない者は三ツ目或は五ツ目と云つて三日目か五日目に里披きをします、其日は新郎の方から贈つた定紋付の衣服帯等を纏うて新郎を初め舅姑及び親族等と連れ立つて里方へ行きますが新郎は新婦の家族に對して土産物を持參します、里方では自分の方の親族も招いて饗宴を張ります、此席に連なる者は相當の禮服を纏はねばなりません。

事に移ります。

第一の盃は新婦から始めて舅にさし舅は受けて飲んで姑にさし姑は飲んで納めます。

第二の盃は舅から始めて新婦にさし新婦から姑に終り、第三の盃は姑から始めて新婦にさし新婦から舅に終ります、新郎と新婦の親族との盃も右と同じ順序で他の親族との盃も右に準じて行ひます。

併し全く此親族の盃を廢して華燭饗宴の席上で最初先づ新郎新婦と各の親族の盃を冷酒でもい、ののです、聲取りの祝言の盃も、之と同じ事であらから饗宴に移ります。

饗宴は別間で開きますが床に芽出度三幅對をかけた對の花に松竹梅を活た者を最上とします、二幅對の花に松竹梅、菊、万年青、水仙及び櫻、林檎、橘

披露會配り物、媒酌人への謝禮等の事は略します以上は現在普通一般に行はれて居る形式で故實に依る儀式ではなく右の形式に依らなければ禮に欠けて居ると云ふ譯でもなく要するに禮を失しない程度に心からの喜びを以てすればいい譯です。

最後に新婚旅行をホネームーンと心得て居る人もある様ですがホネームーンと云ふのは本來は結婚後の第一月を云ふので此の新婚旅行は昔の掠奪結婚の遺風です、掠奪結婚と云ふのは婦女を奪つて妻にする事で掠奪した婦女を遠くへ伴うて行く事が新婚旅行の楽しい道行に轉じたのです。



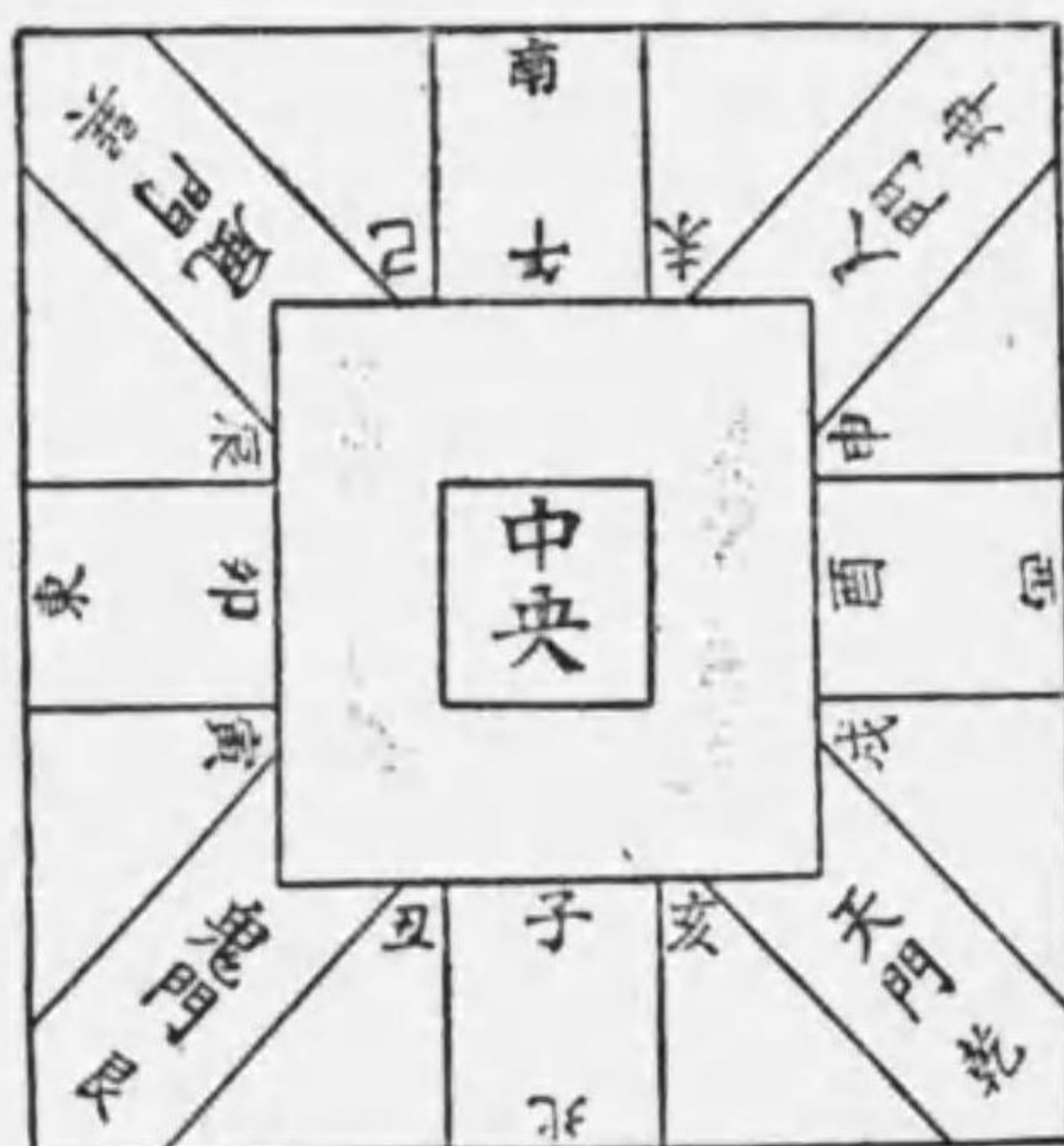
◎家相の吉凶

住宅方位の吉凶を判断するには陰陽の原理を詳しく記るさねばならぬのであるが、本書は素人に解せらるゝを主眼とせしため茲には之を省くことにして主要の点を掲げたるのである。

如何に果報物と羨まれ又運勢が盛んなからと云つても日常寝起する家相が悪かつたなら運勢の發達は妨げられます、本書は住宅の吉凶を何人にも解るやうに詳しく記したものである、故に家を建てんとする人は最初此方位を一覧して後日の災害を避くるがよい。

此方の張り出づるは婦人の權勢強く、女主人なる

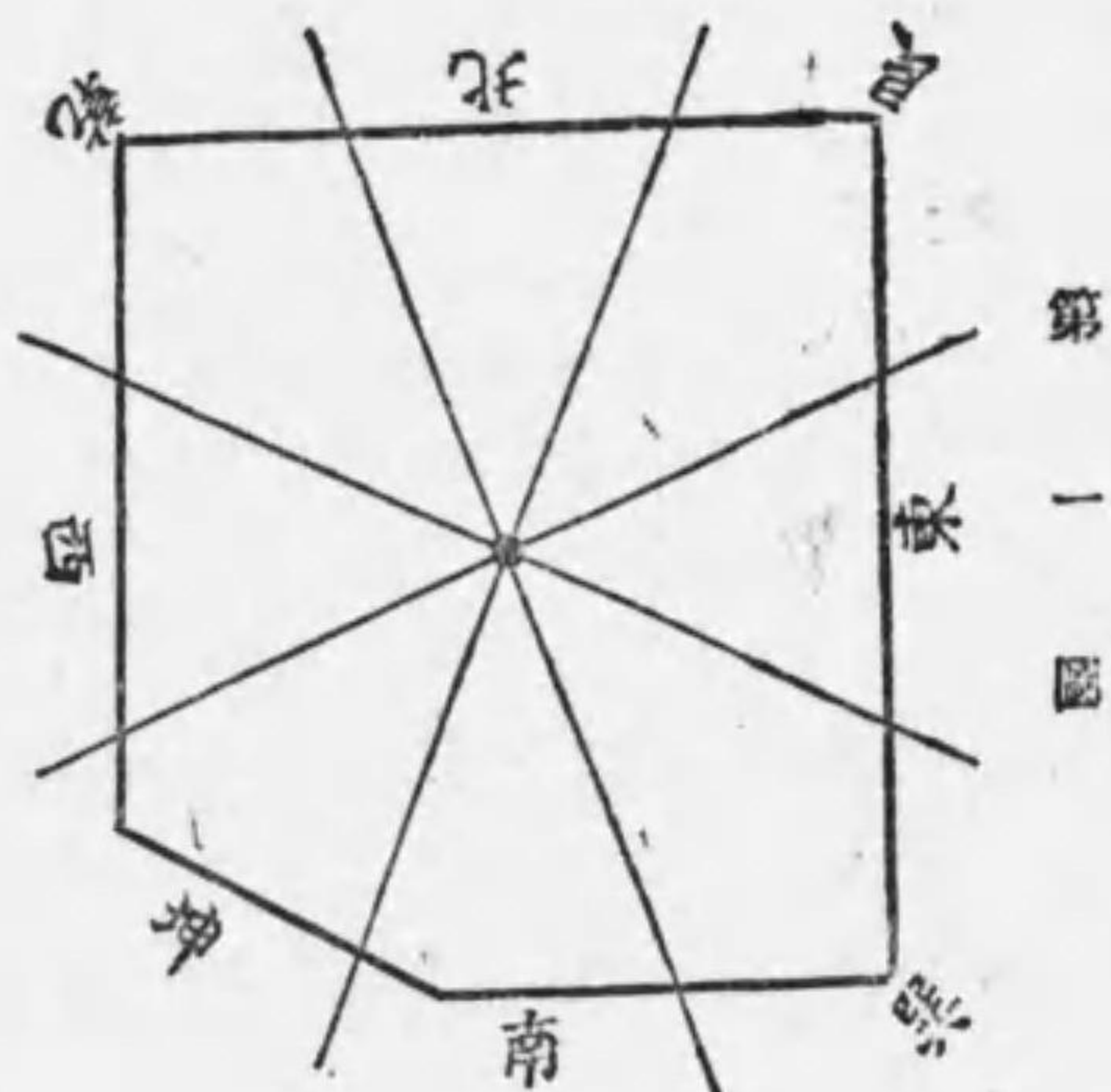
張るは出張り吉なれども凶なり



此方の完全なるは富貴に榮る子孫繁榮する大吉利相なり

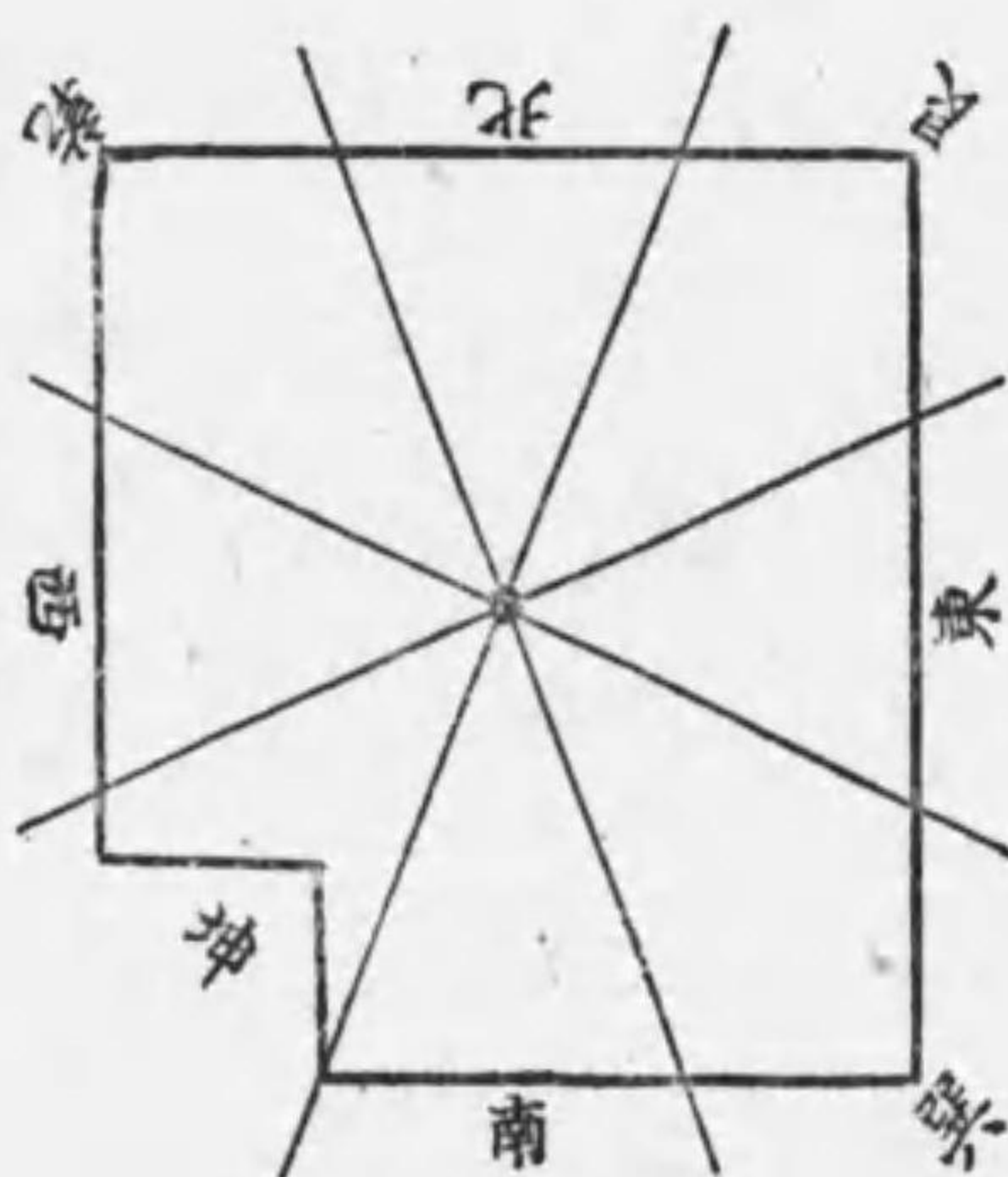
張るは出張り吉なれども凶なり

○此圖の如く一般に裏鬼門と稱する坤の隅を僅かばかり欠きたるは吉相なるも第二圖の如く強く欠ぎ入るは妻妾しばくかはり家内病人常に絶へない。



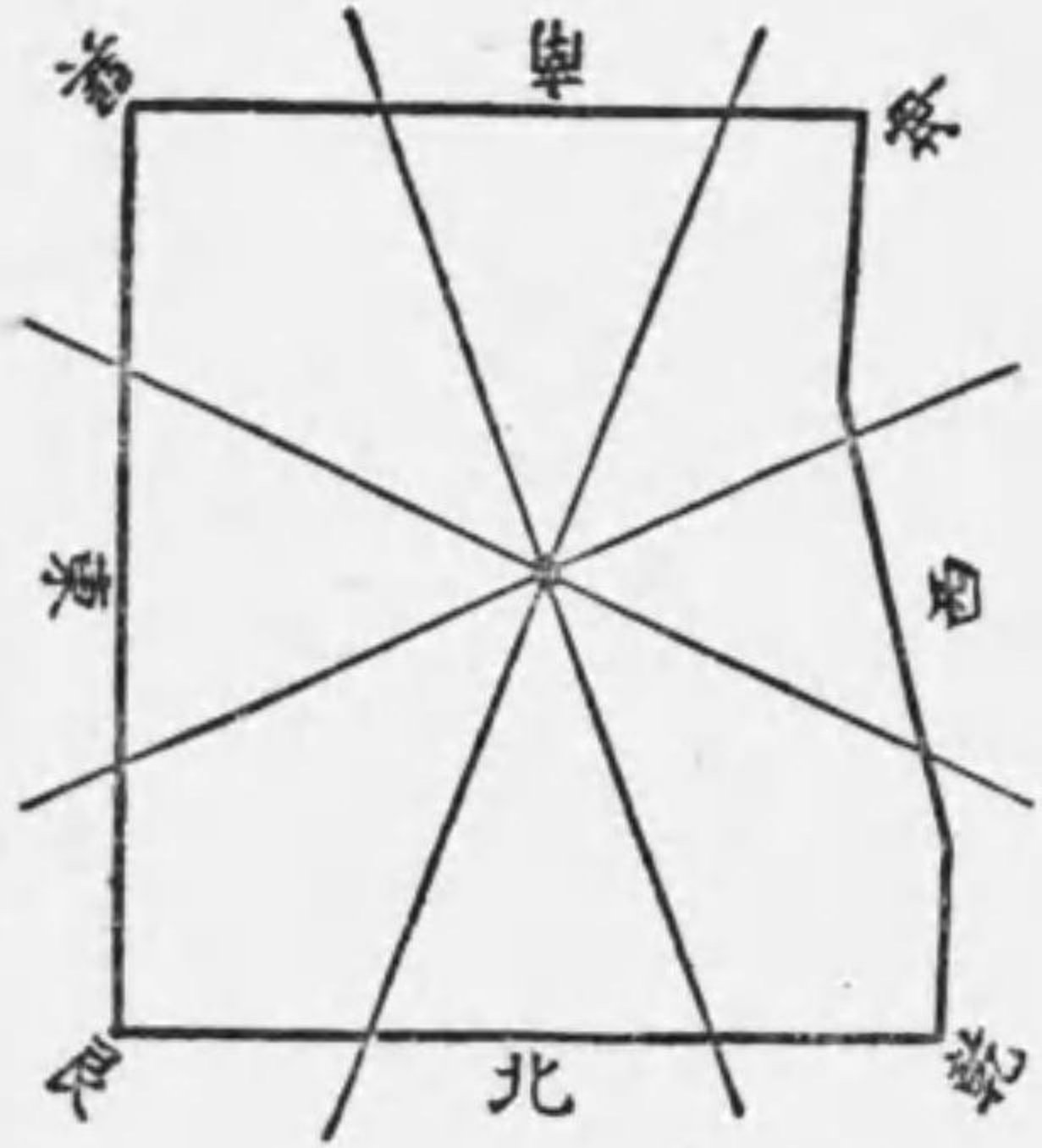
第一圖

○如此は凶相にして子孫出生せず、養子相續をすること、なるか婦人長病を患ひ、妻妾屢かわり家運衰へると云ふ。



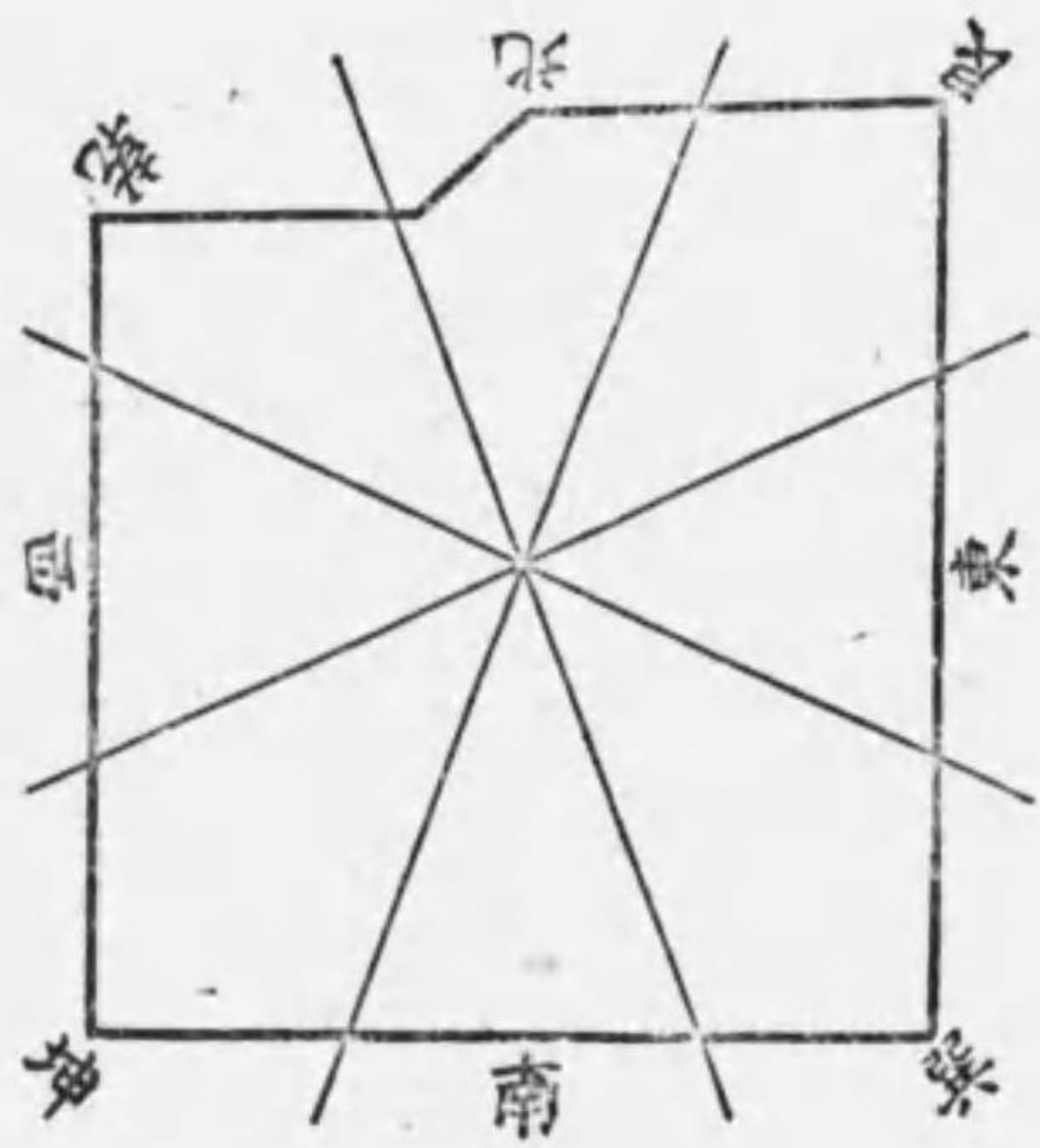
第二圖

第三圖



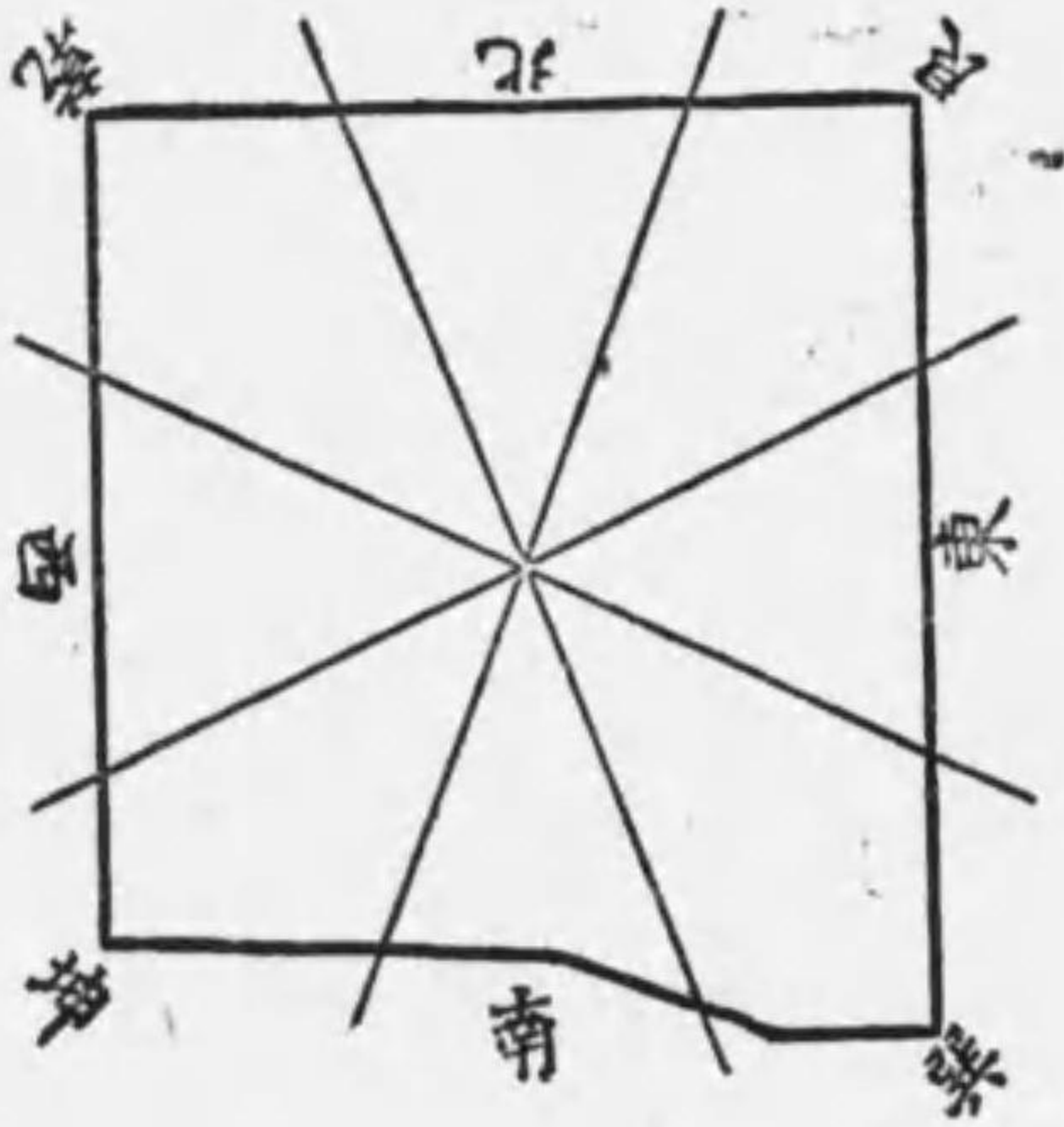
○西より乾にかけて張出るは福德多く家業繁昌すべし。
此地相で東に門のある家は病人が絶へないから東方を避けるがよい。

第四圖



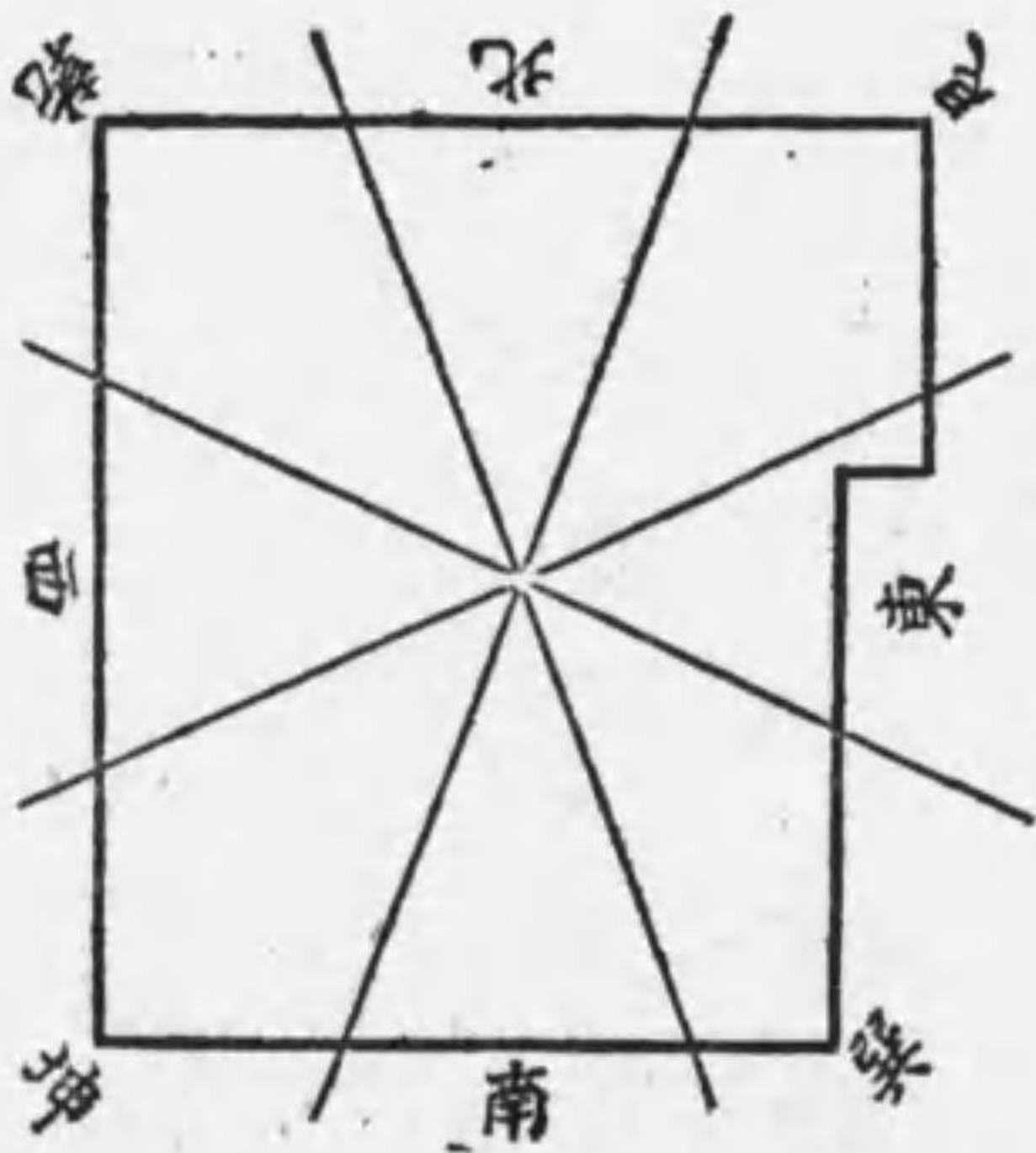
○乾より子の方に欠け込みたるは金銀等を損じ商業發達せず若し繁昌するとせば病人が絶へない。

第五圖



○巽の方へ張出したるは産業發達し長壽を保つ吉相である、遠方との取引には殊に利益ありと云ふ。

第六圖

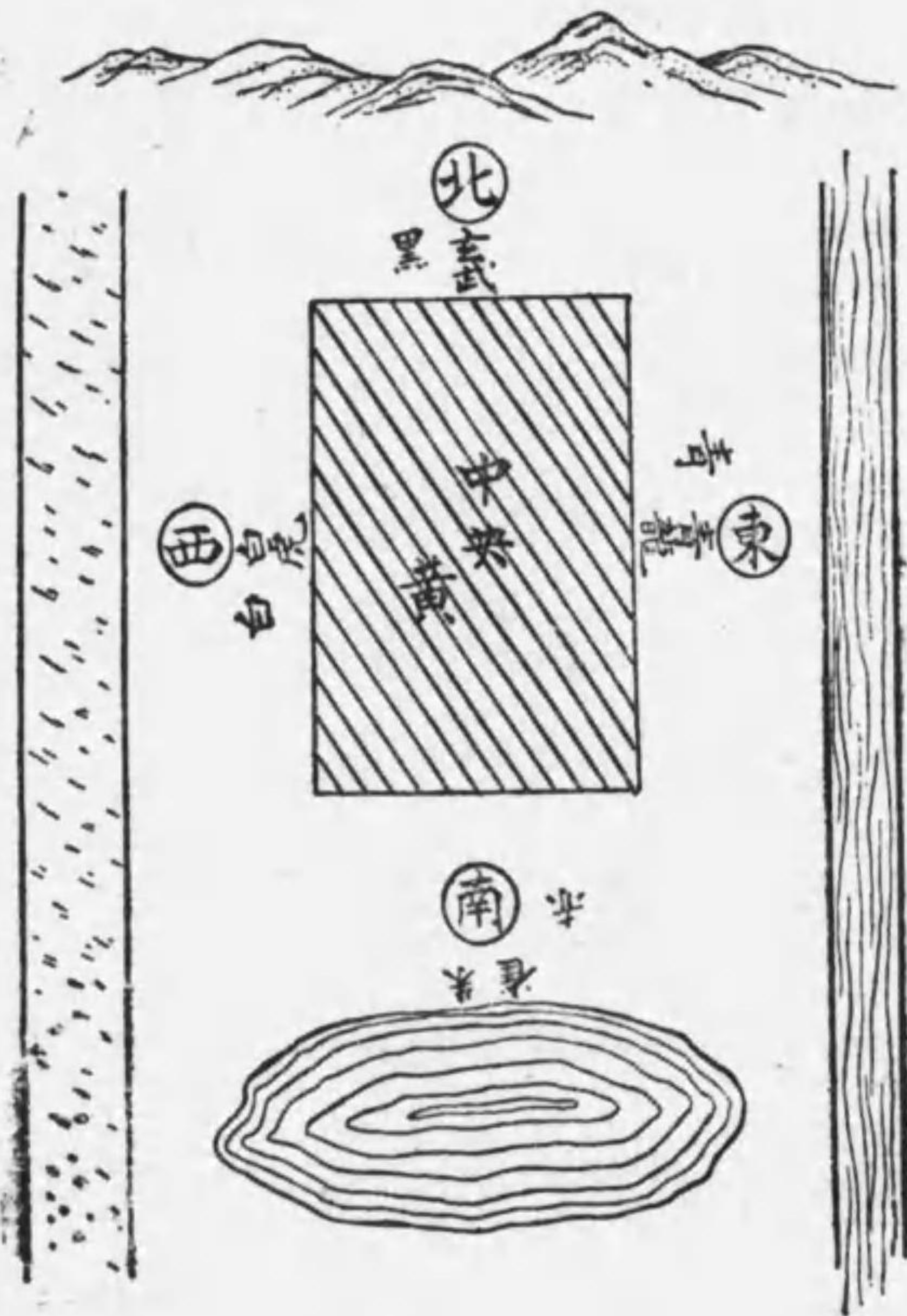


○東より艮の方へ張出したるは繁昌をすると雖も病災が常に絶へないと云ふ。

家を建つるには先づ地相を選ばねばならぬ、東に流水あり西に道路があつて南に池、北に山あるを吉相とす。併し斯る理想の宅地を得る事は難事である、故に樹木を植へて之に代らしむれば災なしと云ふ。

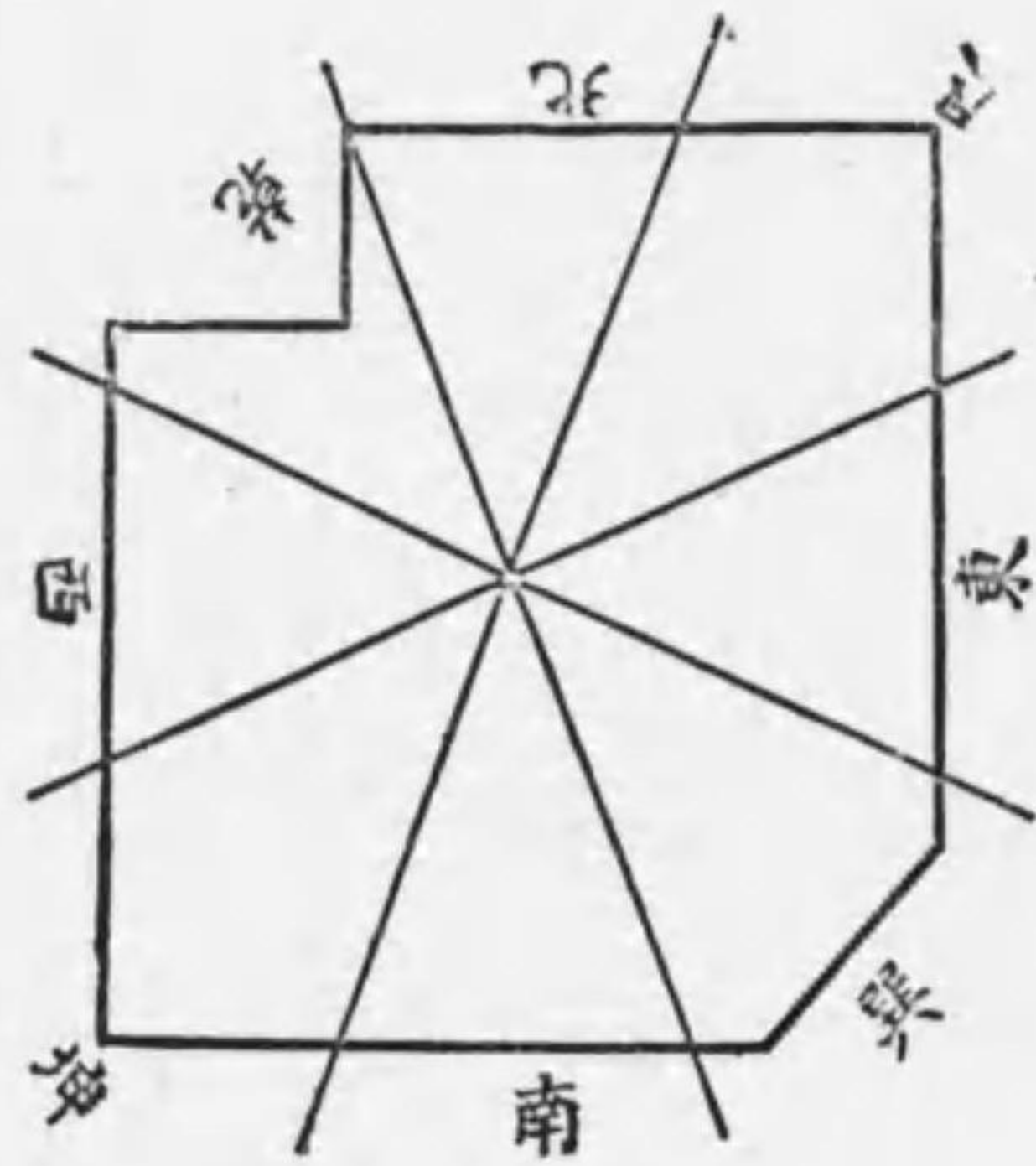
東に桃柳を植へ
西に梔を植へ
南に梅を植へ
北に杏子李を植ゆべし

之を四神相應の宅地と云ふ。

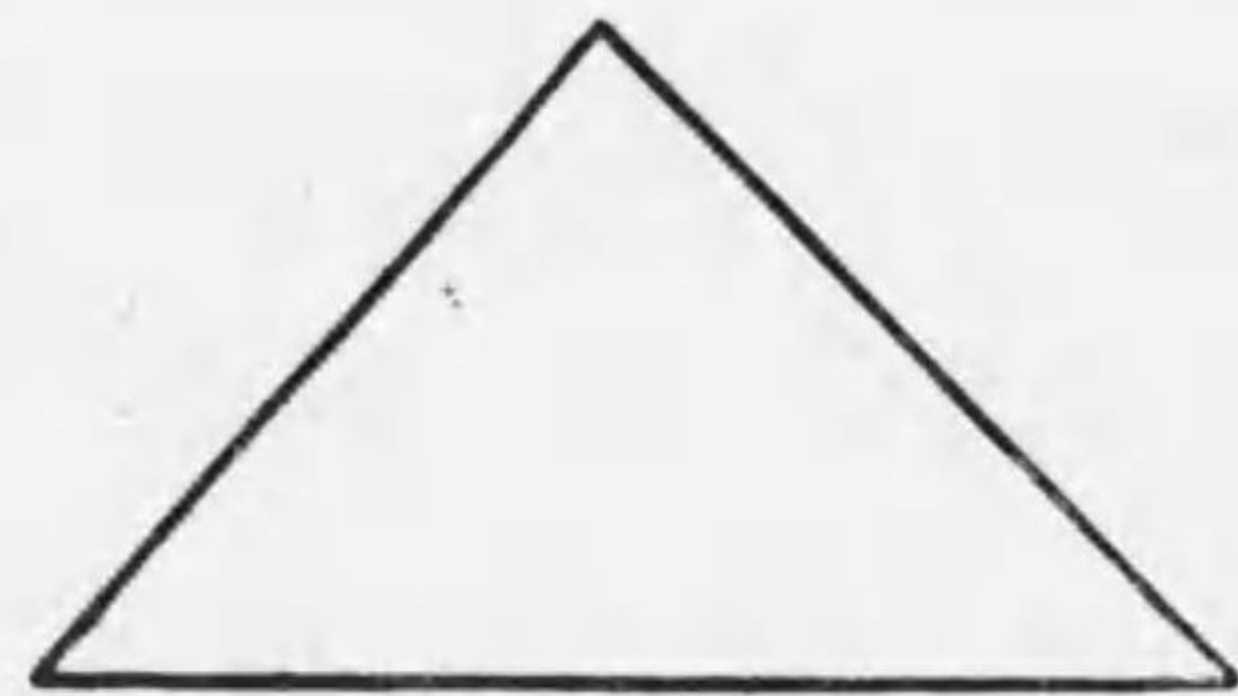


第七圖

○乾の方と巽の方の欠けたるは家業衰微して破財を招き子孫亡び絶ゆると云ふ。



○三角形の地に住する時は始め繁昌すれども常に口論争ひ事多し。



第八圖

○中低く四方高き宅地は

木性の人には無事なり。
火性の人には安泰なり。
土性の人には貧相なり。
金性の人には繁榮なり。
水性の人には病相なり。

○南高くして北低き宅地は

木性の人には安泰なり。
火性の人には零落の地。
土性の人には病難あり。
金性の人には出世の相。
水性の人には貧相なり。

○北高くして南低き宅地は

木性の人には繁榮なり。
火性の人には貧相なり。
土性の人には富貴なり。

金性の人には滅亡なり。
水性の人には病難なり。

○西高くして東低い宅地は

木性の人には貧相なり。
火性の人には富貴なり。
土性の人には病患なり。
金性の人には災難あり。
水性の人には繁昌なり。

○西低くして東高き宅地は

木性の人には没落の地也。
火性の人には苦勞の地也。
土性の人には立身の地也。
金性の人には貧乏の地也。
水性の人には富貴の地也。

○中高くして四方の低い宅地は何人にも凶相の地である。

宅地は前狭く後ろ低きは大に吉。又前廣く後ろ狭きは不仕合にして子孫斷絶の相と云ふ。前高く後低きは衰微の相である。後に大樹の茂りたるは家運衰ふ。巽の方に山ありて流れの川が家の前にあるのは長命の相也。

宅地は前高く
後ろ低きは衰
微の相である
前低く後高き
は家運繁榮の
吉相である。

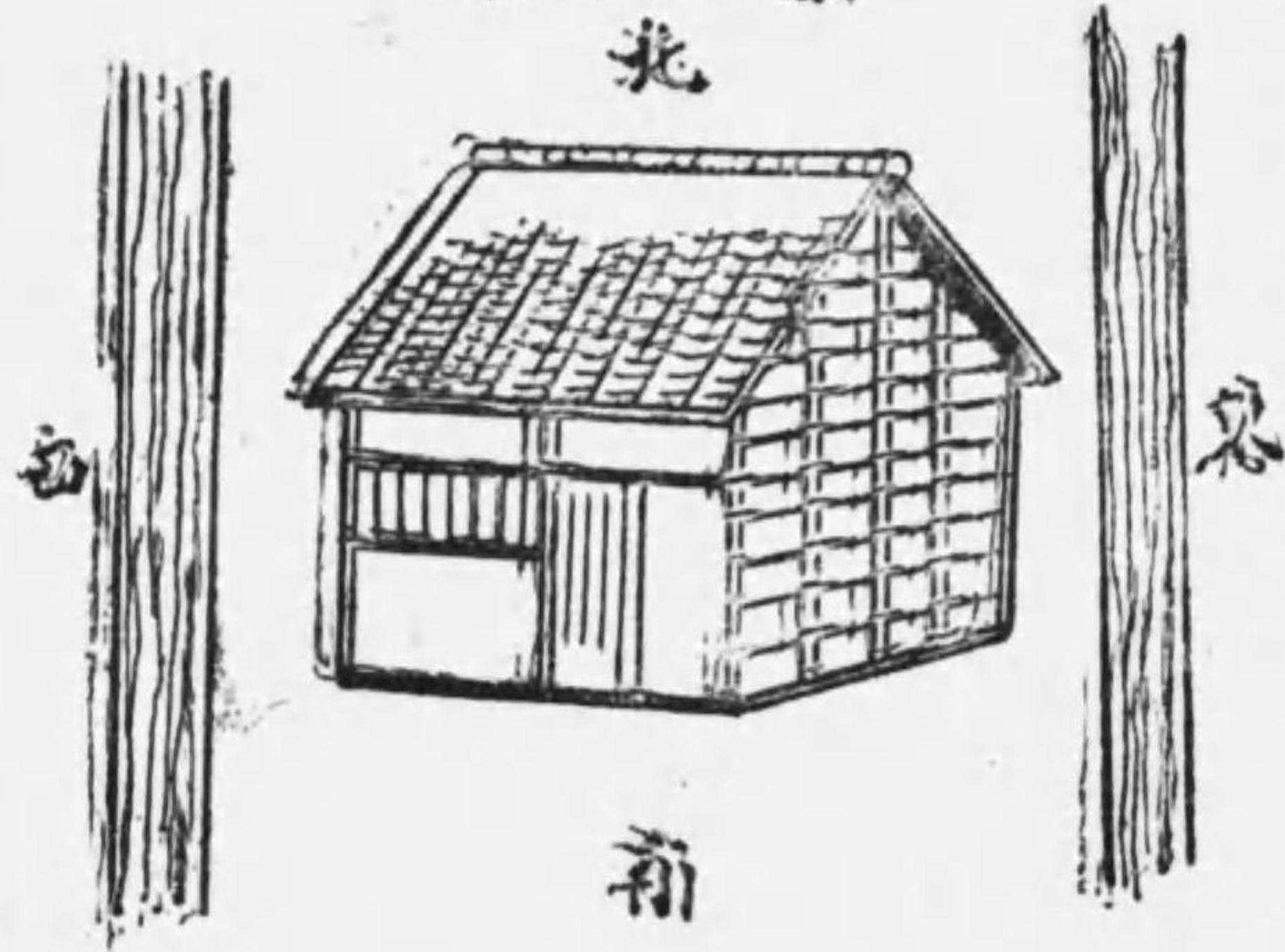


未申の方に山か丘のあるは婦人が病氣する凶相である。



東西に流れ川や溝があつて其家を挟んで居るのは家業繁榮の吉相なり。四方道路で其家を圍んで居るは水難に逢ふと云つて古來より忌む。

相家之馬繁
北



南

相家之雜水

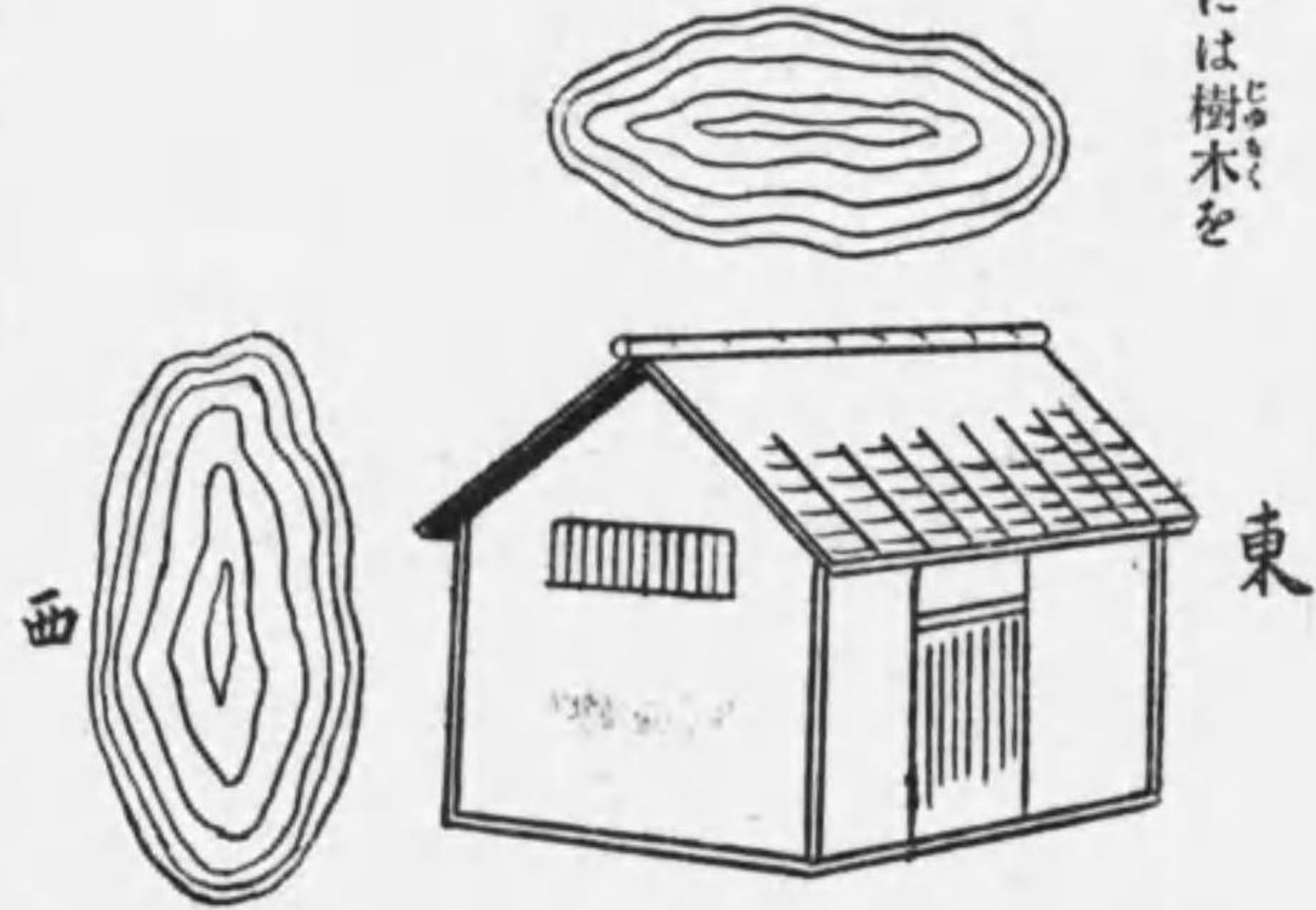


家の北に悪水の溜つてあるは男は胃癌を患ひ女は難産をする。西の方に溜り水があるは色情より生ずる口舌がある。

丑寅の方角には樹木を植へず空虛にして置くがよい。

東の方角に山の形の手違ふると云ふ。

北



東

巽坤に竹林があり、戌亥と丑寅の方角に山が岡がある。家は大吉と雖も木や竹が家に背いて居るときは家運次第に衰ふと云ふ。



巽

坤

三軒家が棟を並べたのは火難の相で家財を失ふ凶相である。
 東方に墳墓があれば長男に祟り代々養子に家督相續さすと云ふ。
 西方に墓があれば娘に災して縁遠し。

三角の形になつた家は、貧乏すると云ふ。

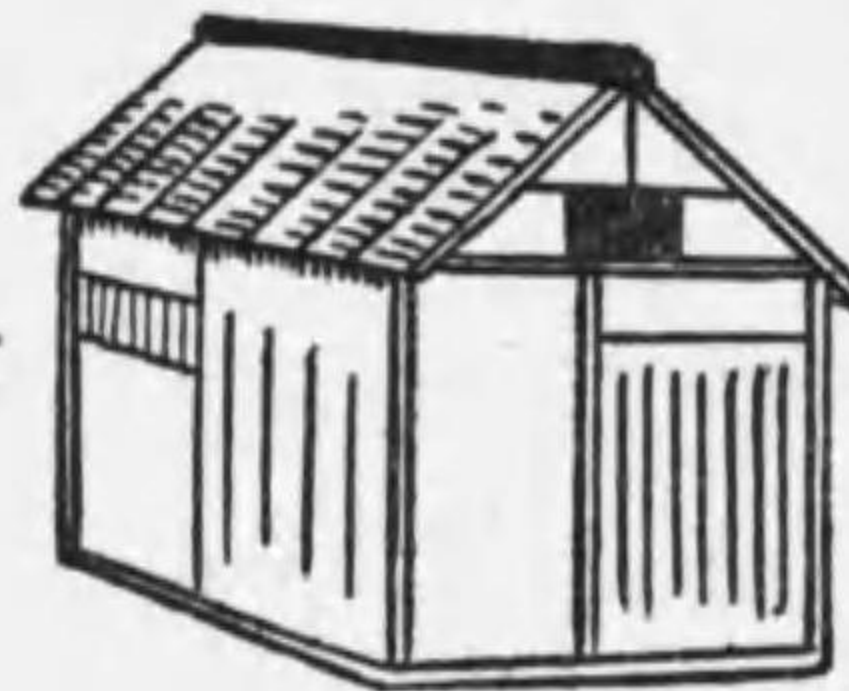


火難の象相

養子相の象相



北



西

東

南

縁なき象相



墓碑は身分相應がよい

家の棟より樹が高く生ひ茂つて居るのは病災があり又争ひ事も生ず。大木が家に被さるやうに繁つて居るのは其の次第に衰微して夫婦離別すると云ふ。中庭に梅の木や花の咲く木を植へれば妻縁度々變はり幸運少なし。二股の木を屋敷内に植ゆると口舌事が起る。樹木の枝先が其家の方に向へば幸福來る。



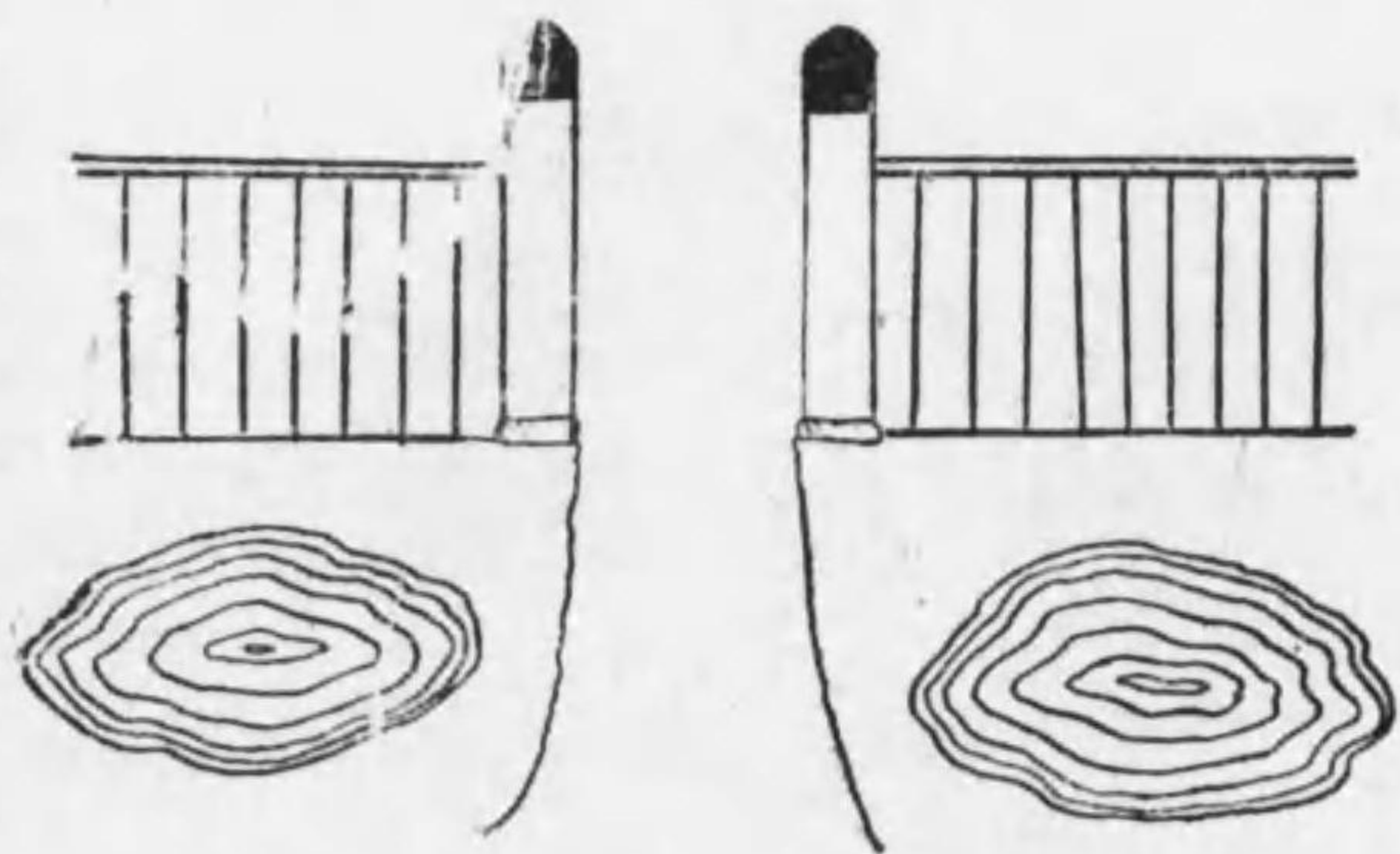
家の入口に二本の大樹が門の如き形をなしたるは家内に色情を好んで煩ふものが出る。家の附近にある木の枝が家の反対の方へ茂りたるは家内和合せずして貧困に陥り一家離散する等のことがある。家の



周囲に竹や木が茂りたるは富貴にして人の頭となる者があると云ふ。屏敷の中に芭蕉を植ゆるは凶であつて子供に不具者が來出ると云ふ。但し寺院にあるのは差支ない。



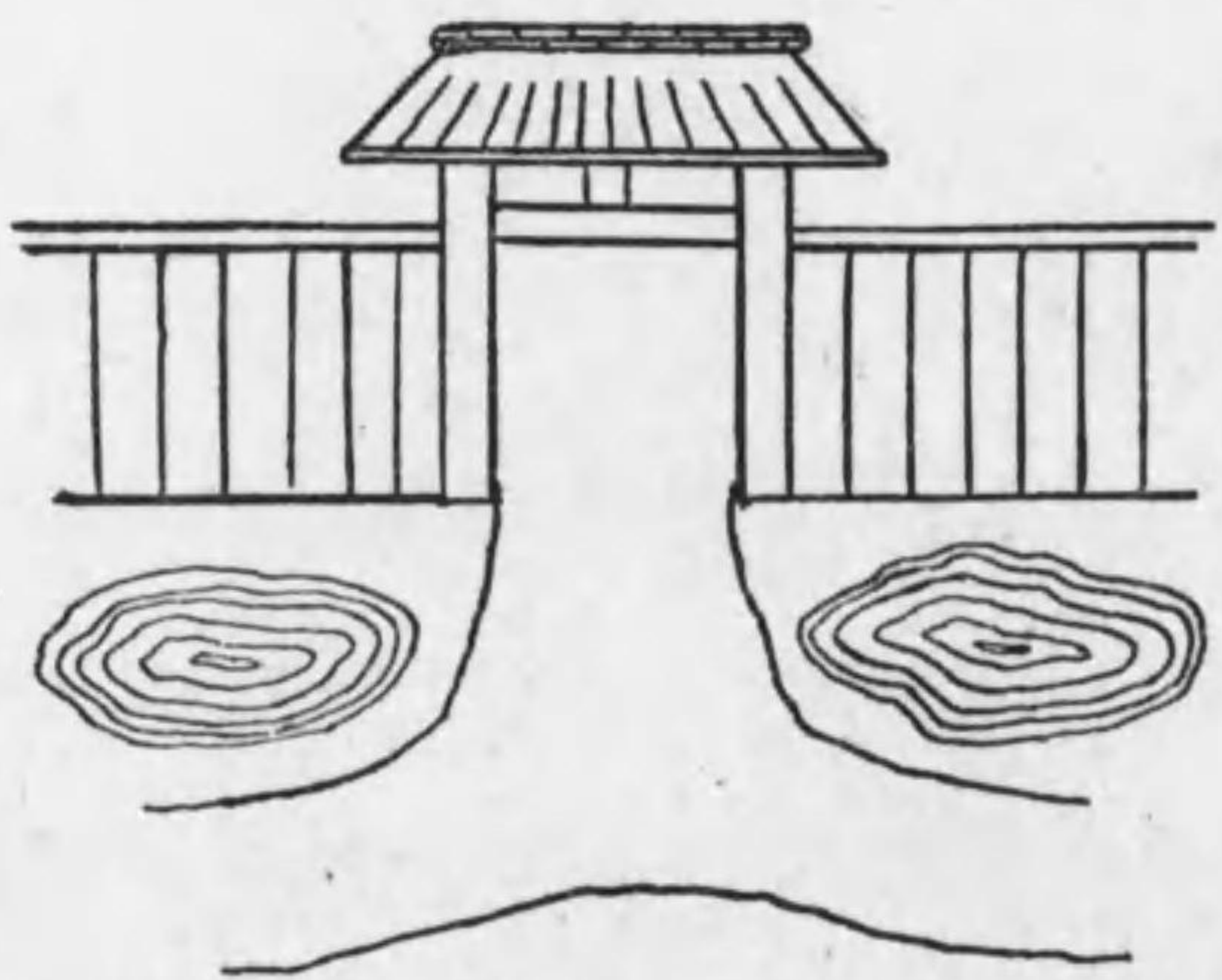
門に突當るやうな道があつて其左右に池や井戸のあるのは子孫断絶の凶相なり門の出口の道が二ツに分れ其両方に溜池のあるのは丙丁の年月に火難に逢ふか壬癸の年に水難に逢うと云ふ。



往來の突き當りに門があるのは其家繁昌せず病人絶へすと云ふ。

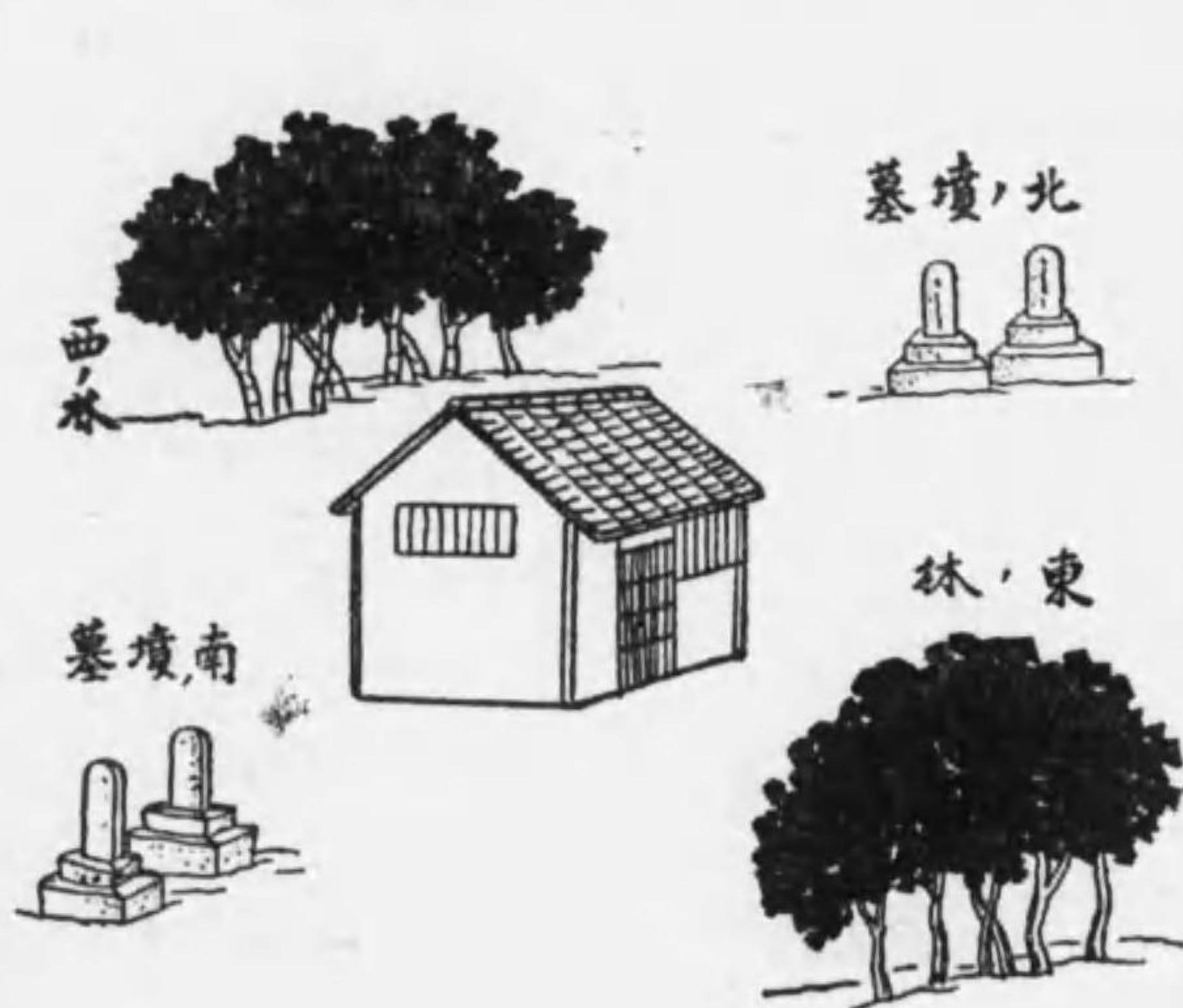
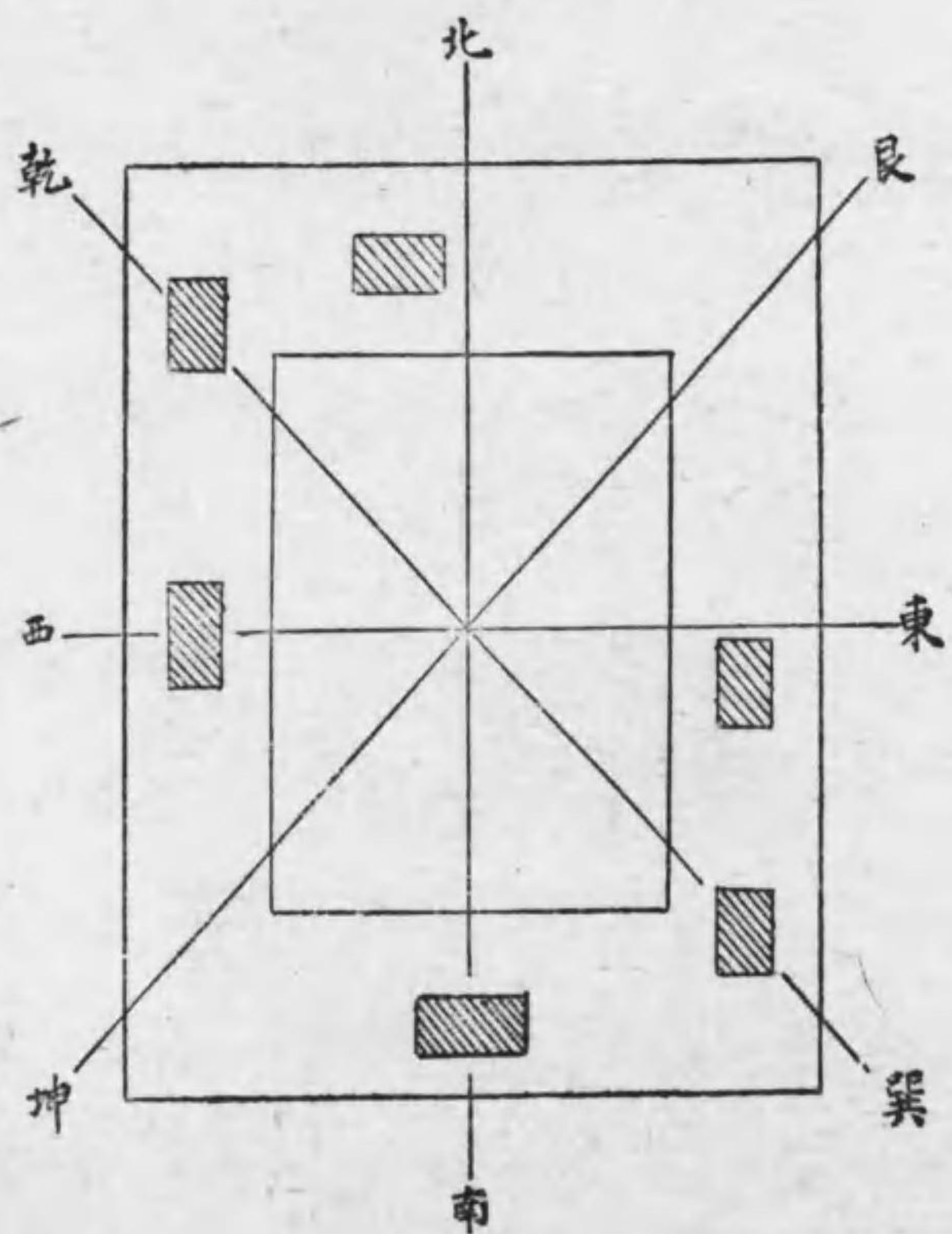
門前に幾筋もの道があるのは盜難のある凶相だ。

門前の道が曲つて居るのは子孫に不良少年が生れると云ふ。



土藏の吉方を選びに
 は辰己か戌亥の方が
 大吉相である。
 東北の方は正面より
 少し寄らば差支はな
 い。
 土藏の棟は東西に流
 れを附け南北に棟筋
 をこしらへ是の天尺
 の吉寸を定法とすれ
 ば吉。

土藏の吉方位



南に林があり南北に墳墓があるは種々の不幸が續く凶相である。末申の方に池や川があれば其家の婦
 女は災ひあり、戌亥の方に池があり巽に山を負ふたのは年中苦勞が絶へない。屋敷の内に溜水などのあ
 るのは不仕合多
 く眼病を煩ふ
 ものが出来る



是は天星尺と云うて曲尺九寸六分を八歸して各一寸二分宛を
財 病 離 義 官 劫 害 本 の八字に配し吉凶を定む。

譬ば高さ六尺二寸の門口なれば此天星尺を以てはかるに六度運んで曲尺五尺七寸六分を除き残る四寸四分に又天星尺を當てはめれば即ち義の字に當る是吉なり横巾も又此の例によるべし、此尺は門に限らず凡て建築すべき家宅に適用して吉。

天星尺

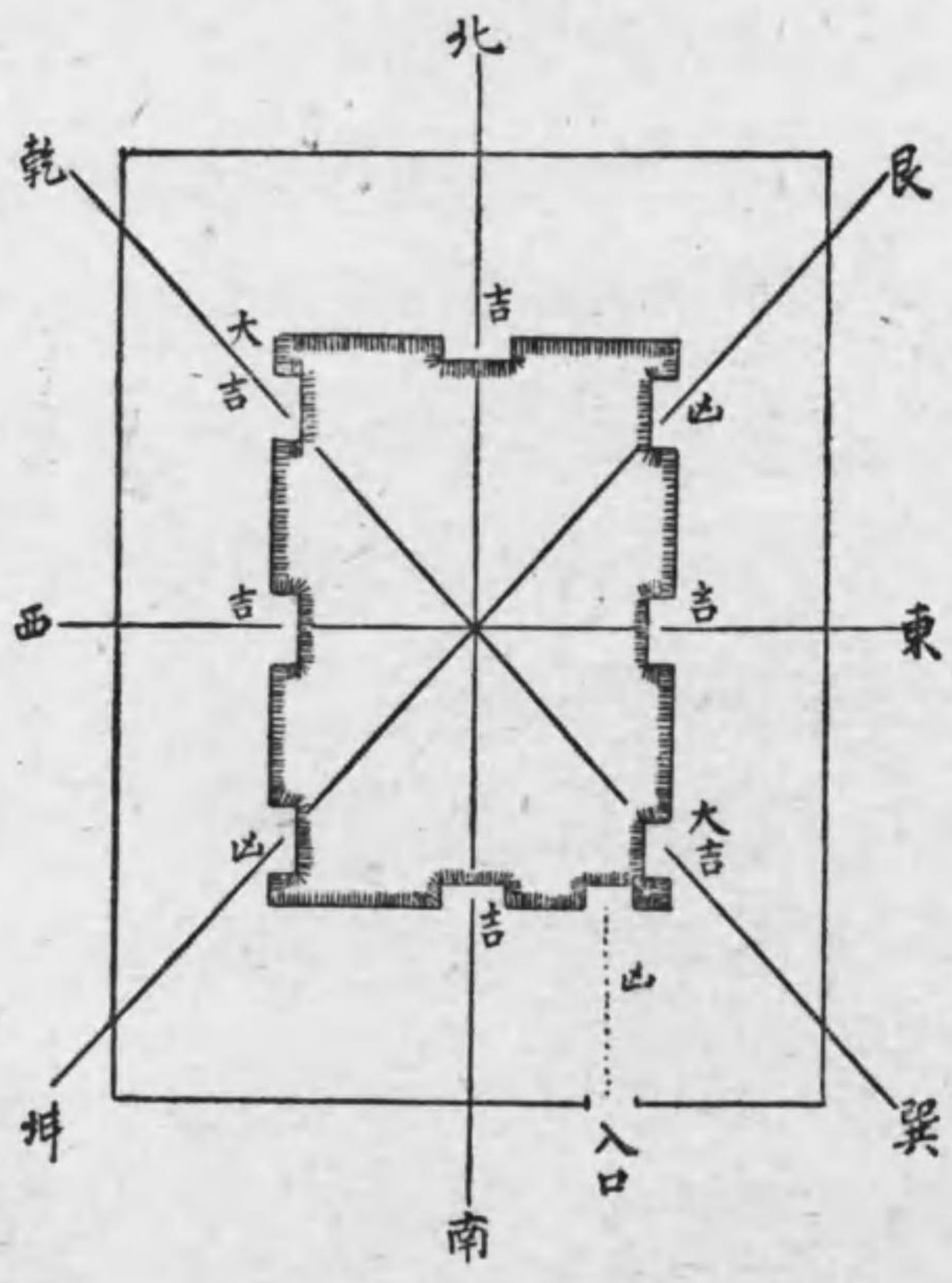
(裏)

財 吉	病 凶	離 凶	義 吉	官 吉	劫 凶	害 凶	本 吉
財寶アツマ	家内ニ病人	親戚不和ニ	親類等和睦	高官ノ人ニ	盜賊火災水	百事災害多	貴子ヲ生シ
ヲ富貴繁榮	多キヲ主ト	シテ離別ヲ	アリニシテ孝	下級ノ人ニ	難ノ被害多	ク殺バツヲ	名譽ヲゲ
主トル	主トル	主トル	宜シカラズ	シ	主トル	喜ビ多シ	
天星 富兌曲財	天星 疾坤存病	天星 逃離貞離	天星 順巽門巨義	天星 爵震狼官	天星 及良軍却	天星 破坎文害	天星 祥乾相輔本

(表)

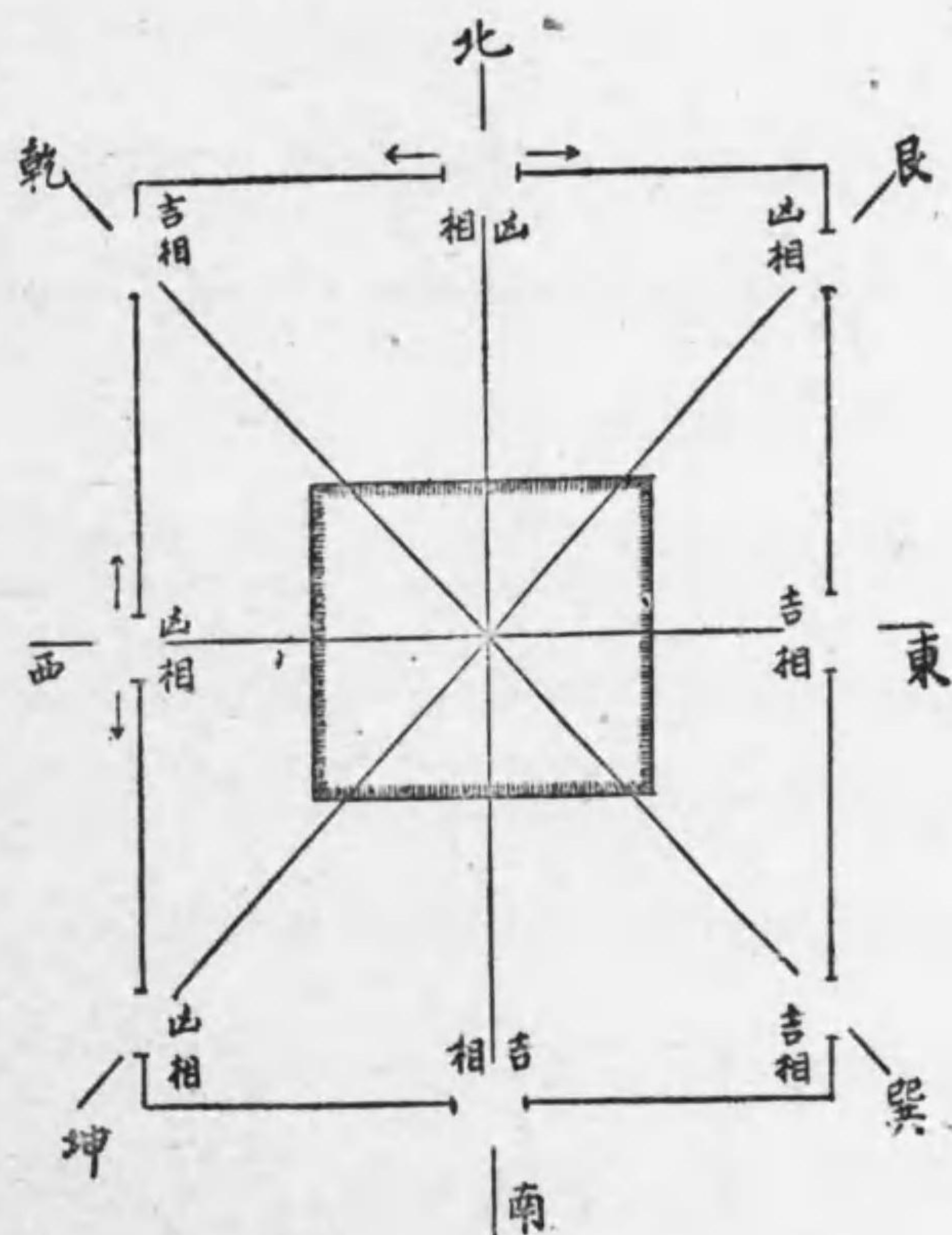
戌亥辰己の方の玄關
は大吉相である。
丑寅と未申の方は大
凶相である。
門の突當りに玄關を
構ゆるは其家衰運と
なる。

位方の關玄

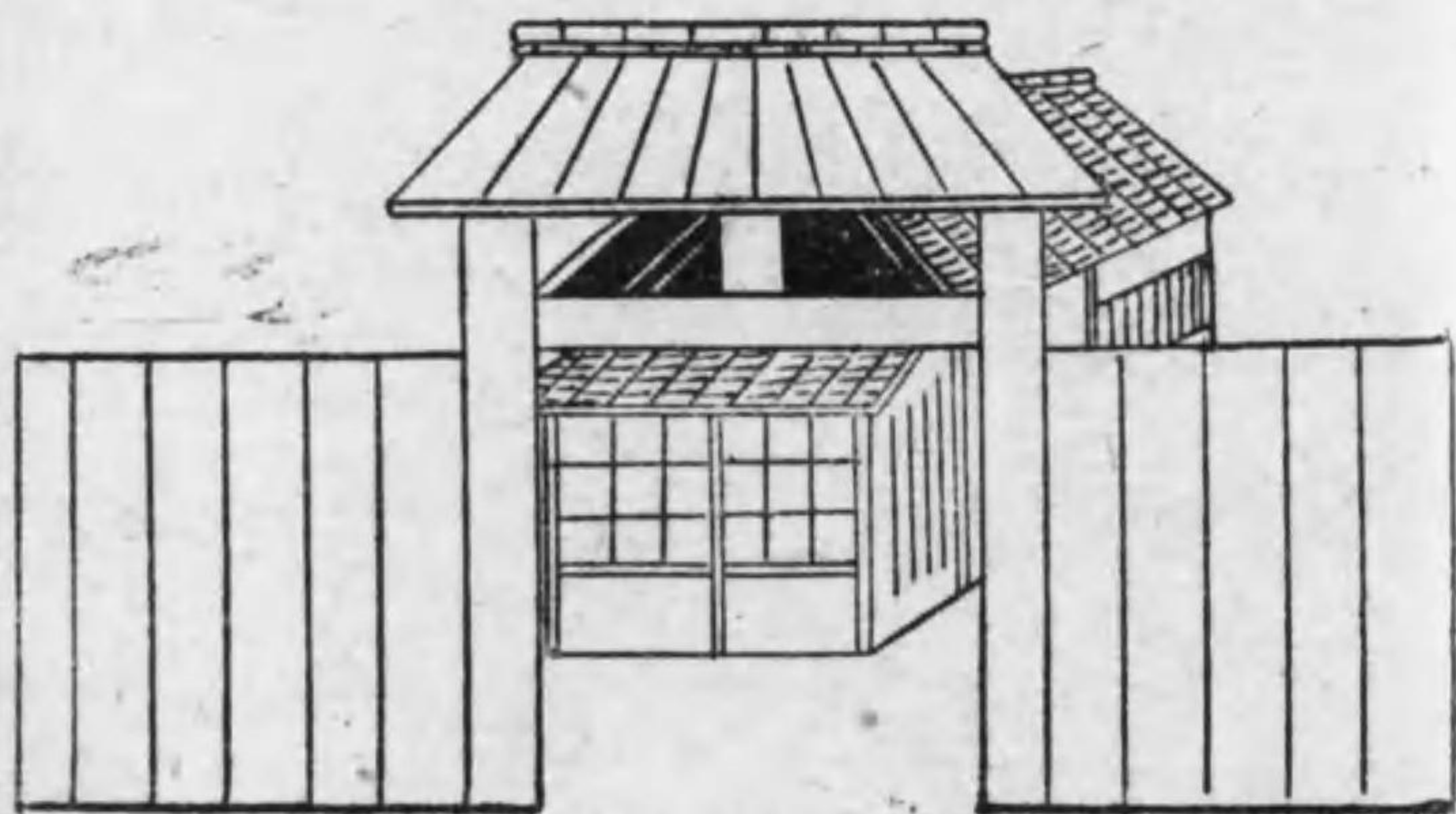
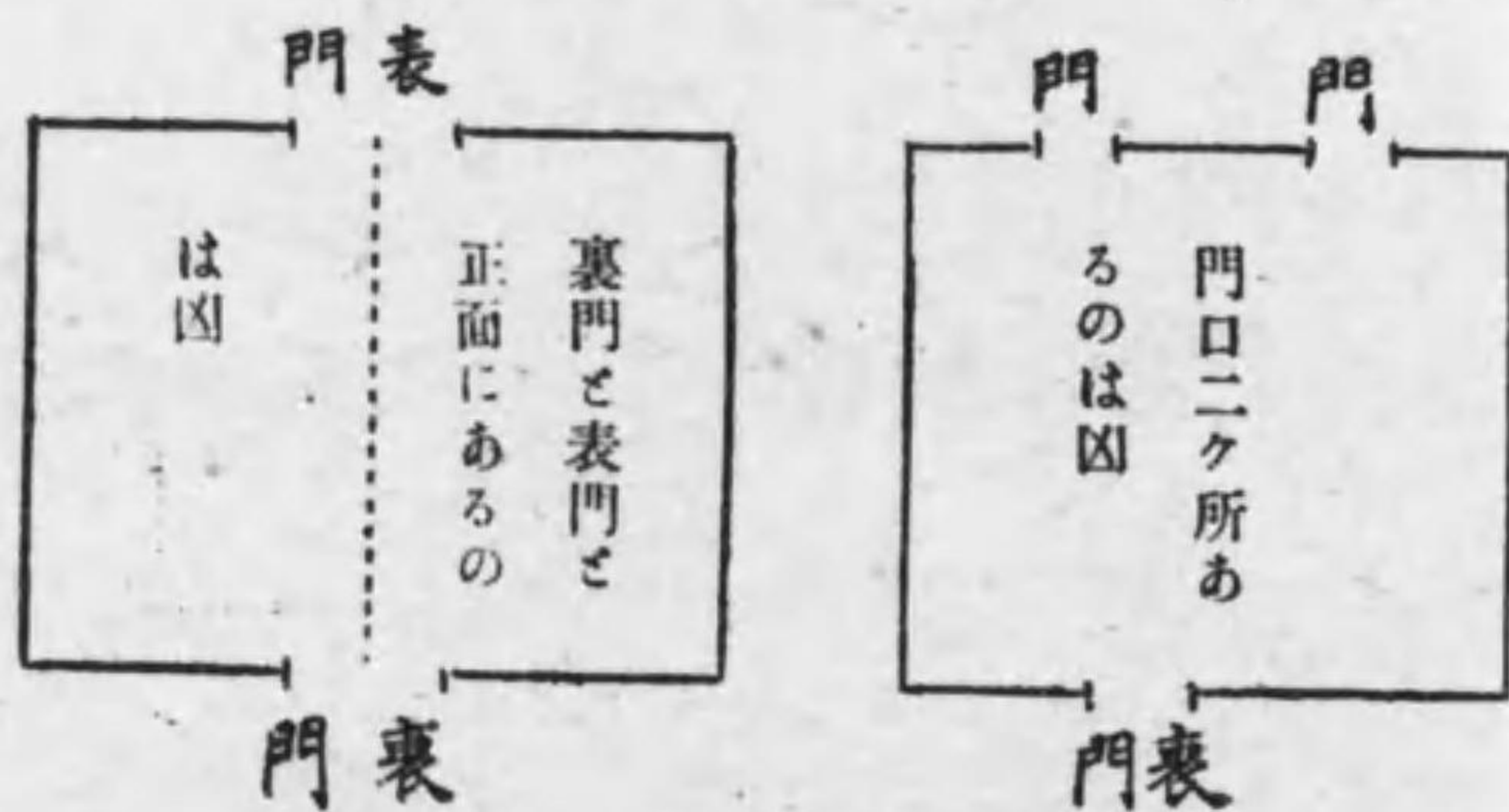


門は人が出入して一切の用向を辨する所で最も吉き所を撰ばねばならぬ。
 辰巳と東と南の方にあるのは吉相で西と北と艮坤の方位は凶相である。

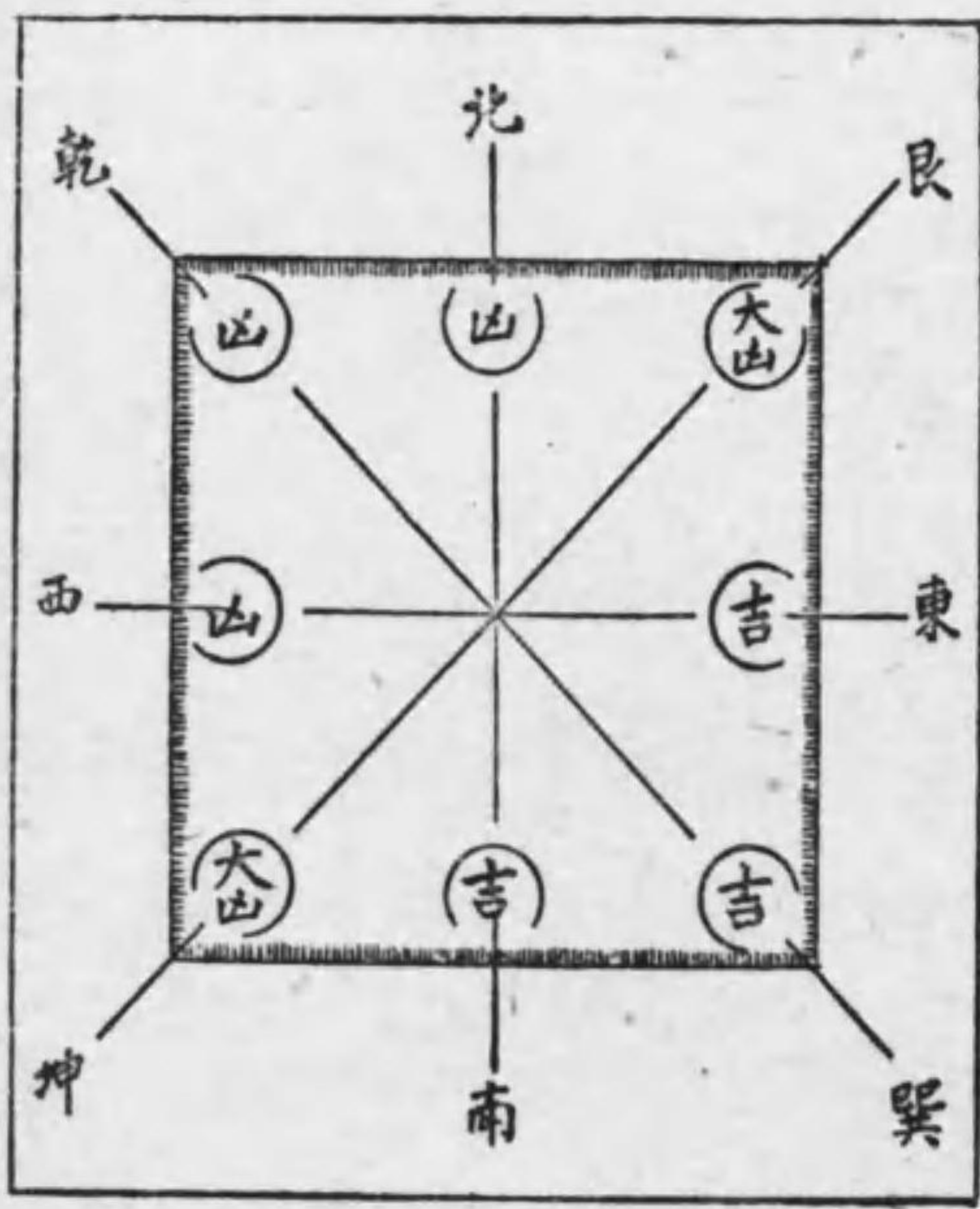
門の吉凶方位



門柱は真直のものを用ひ決して繼木を用ゆべからず。
 家に不釣合な大きな門を建つるのは其家の主人に災ありと云ふ。



門ト家宅ト不釣合ル凶相



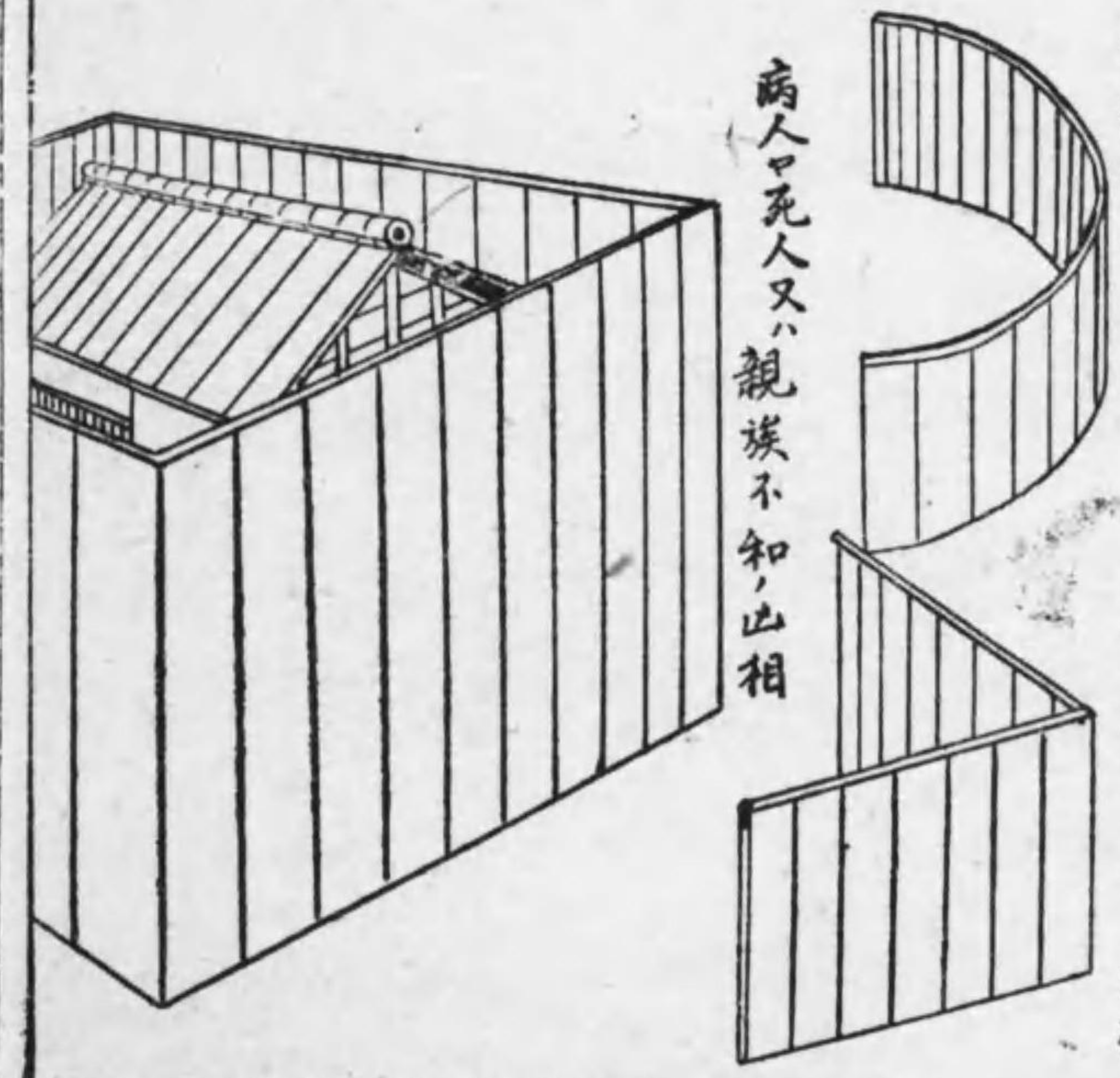
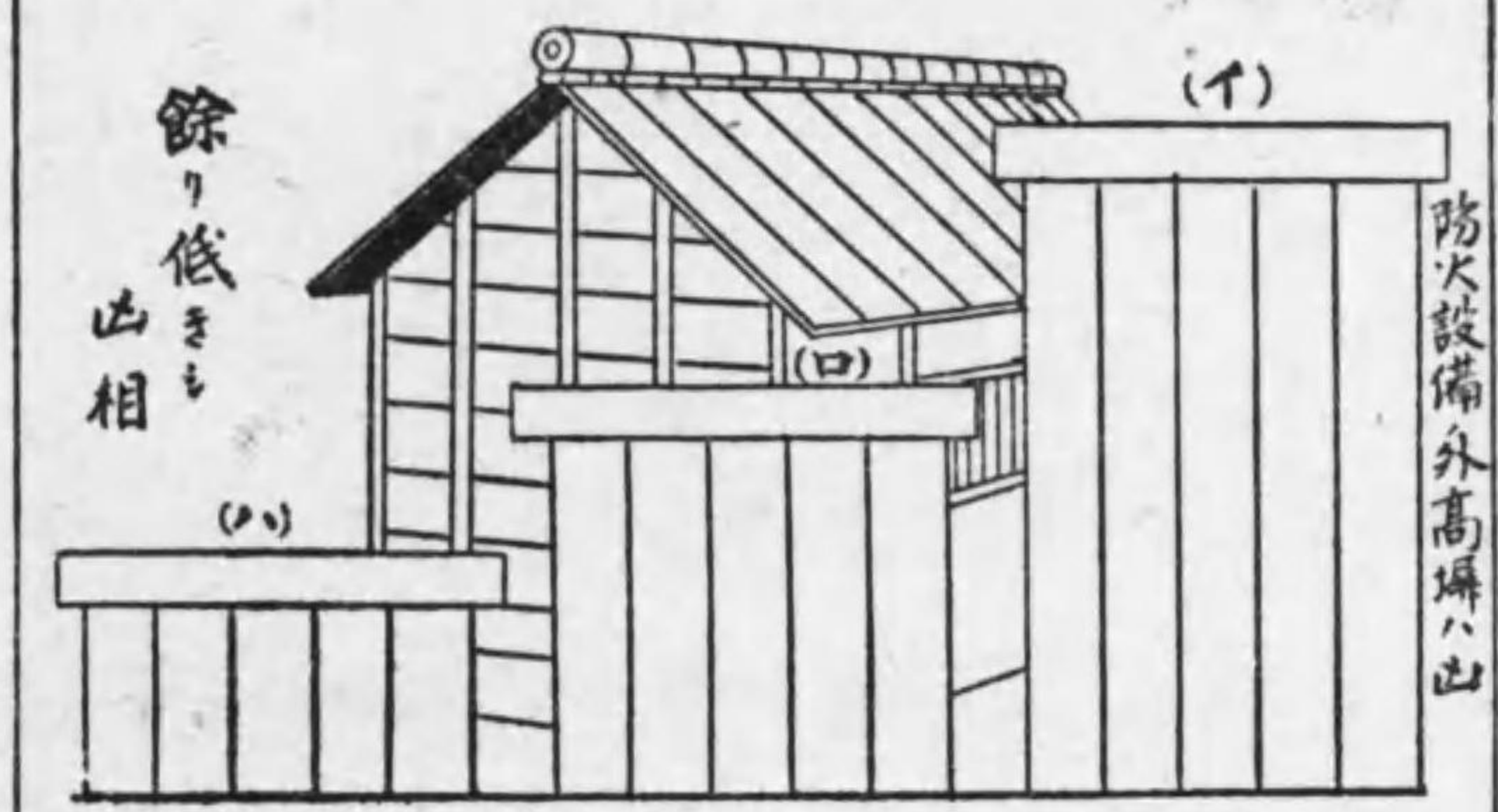
火口を西に向けたのは口舌事が多い。
 乾の方に向けたのは散財がある。
 北の方に向けたのは病ひ事がある。
 艮 坤 に向けたのは災害多し大凶。

南の方に向けたのは吉相である。
 東に向けたのは子孫繁昌する。
 巽に向けたるは家業繁榮にして吉。

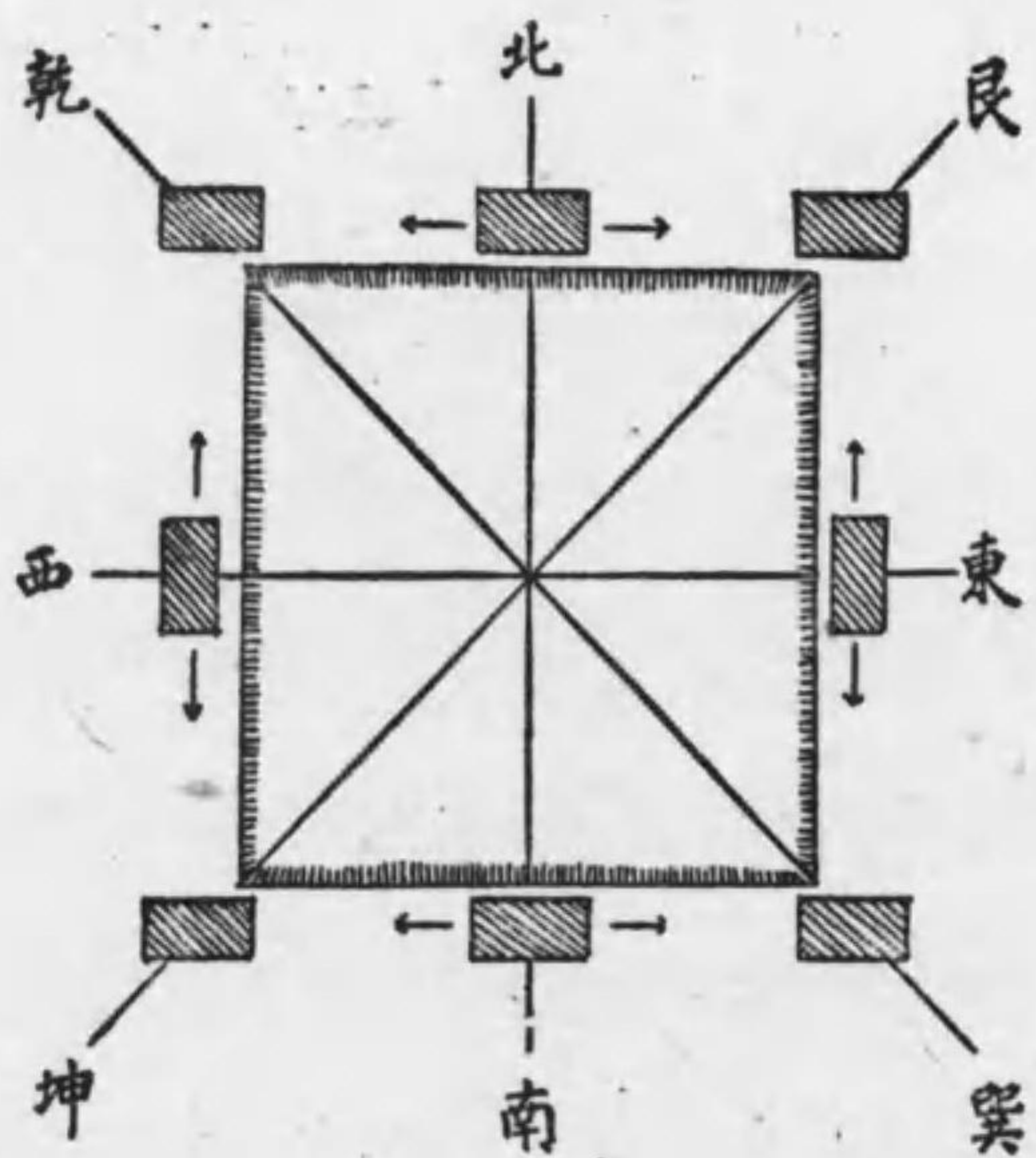
火口の二ツは破財盗難の相。
 九ツは病難と散財の相。
 三ツは差支へがない。
 四ツ五ツ八ツは大によし。
 六ツは不和の相である。
 七ツは凶ではないが用ひぬがよろしい。
 竈の色は赤いのは凶で白色が大吉である。
 其他の色は差支なし。

悪善の塀

第一第(口)ハ相吉ノ塀



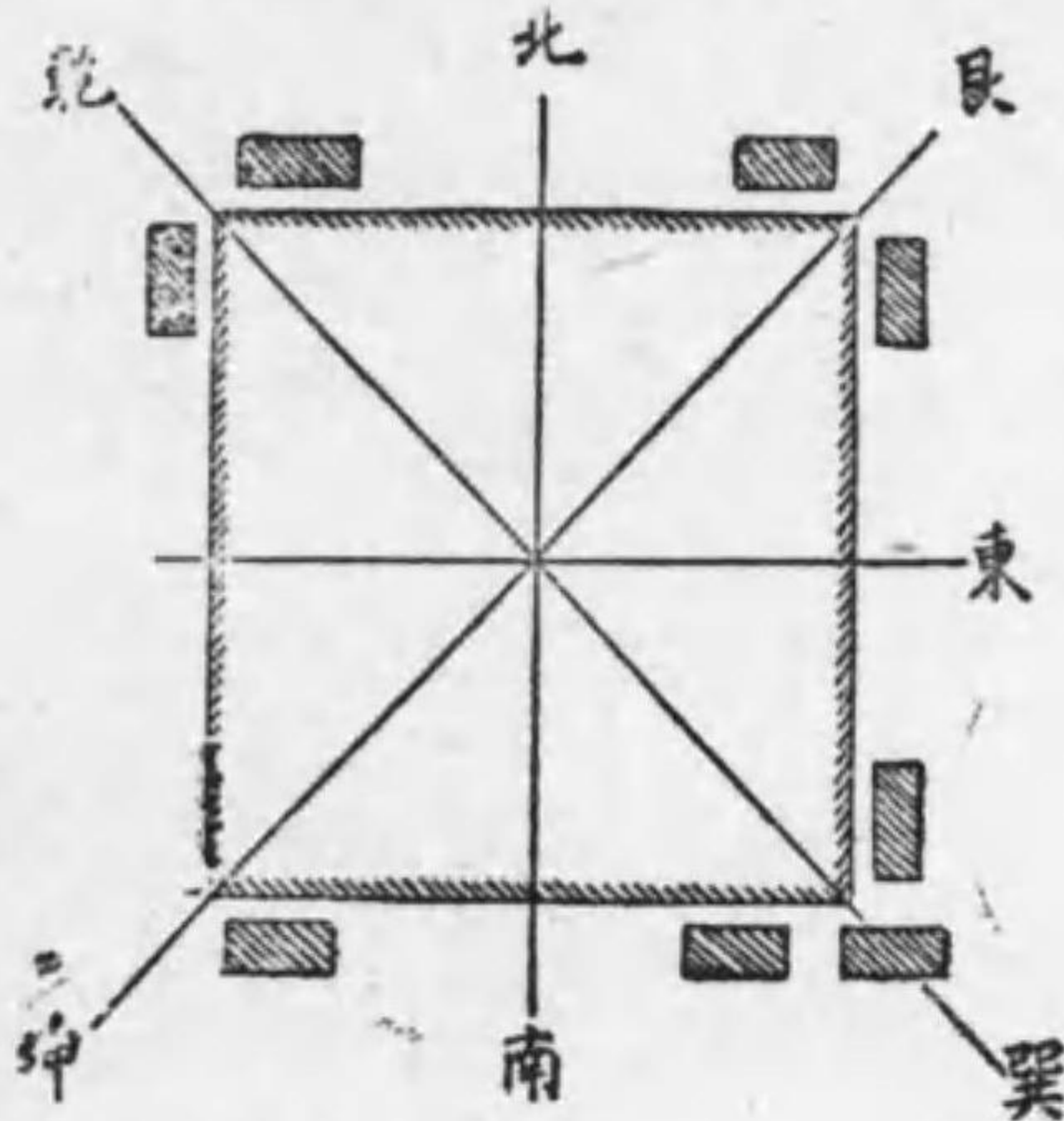
位方凶の則



巽の方にあるは貧困に陥る凶相である。
 坤の方にあるは不幸病難の凶相なり。
 乾の方にあるは福分を杜絶する凶相である。
 艮の方にあるは病難を醸す凶相なり。
 東西南北の正面より左右へ除くを旨とす

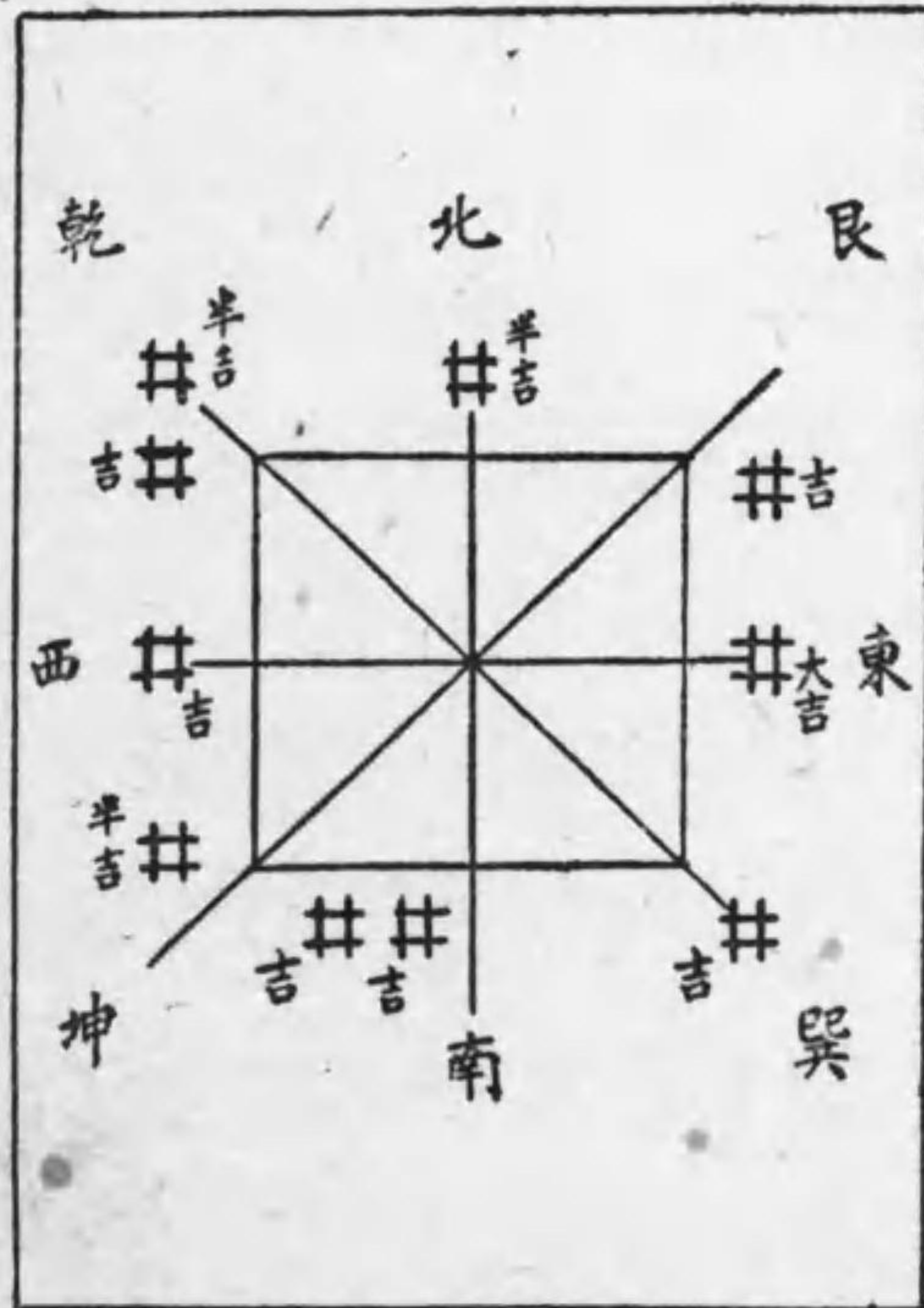
湯殿の吉凶

此圖は湯殿の吉方位を示したもので此場所より外に構へるのは皆凶方である。東西南北と乾 坤 艮 巽の正位を少し寄れば差支なし。



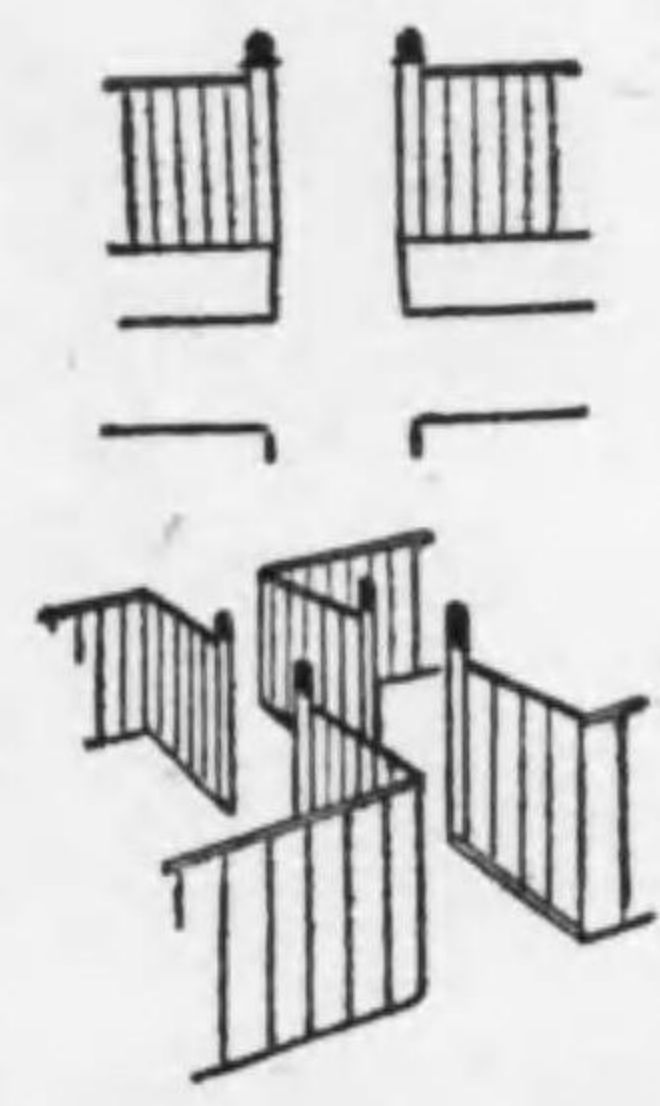
井戸の吉方位

井戸の位置は此の圖の外は凶にして福分を失ふと云ふ。



○門前の道が四ツ辻

○他家の門と我家の



門が真向合ッて居るのには常病難絶へず

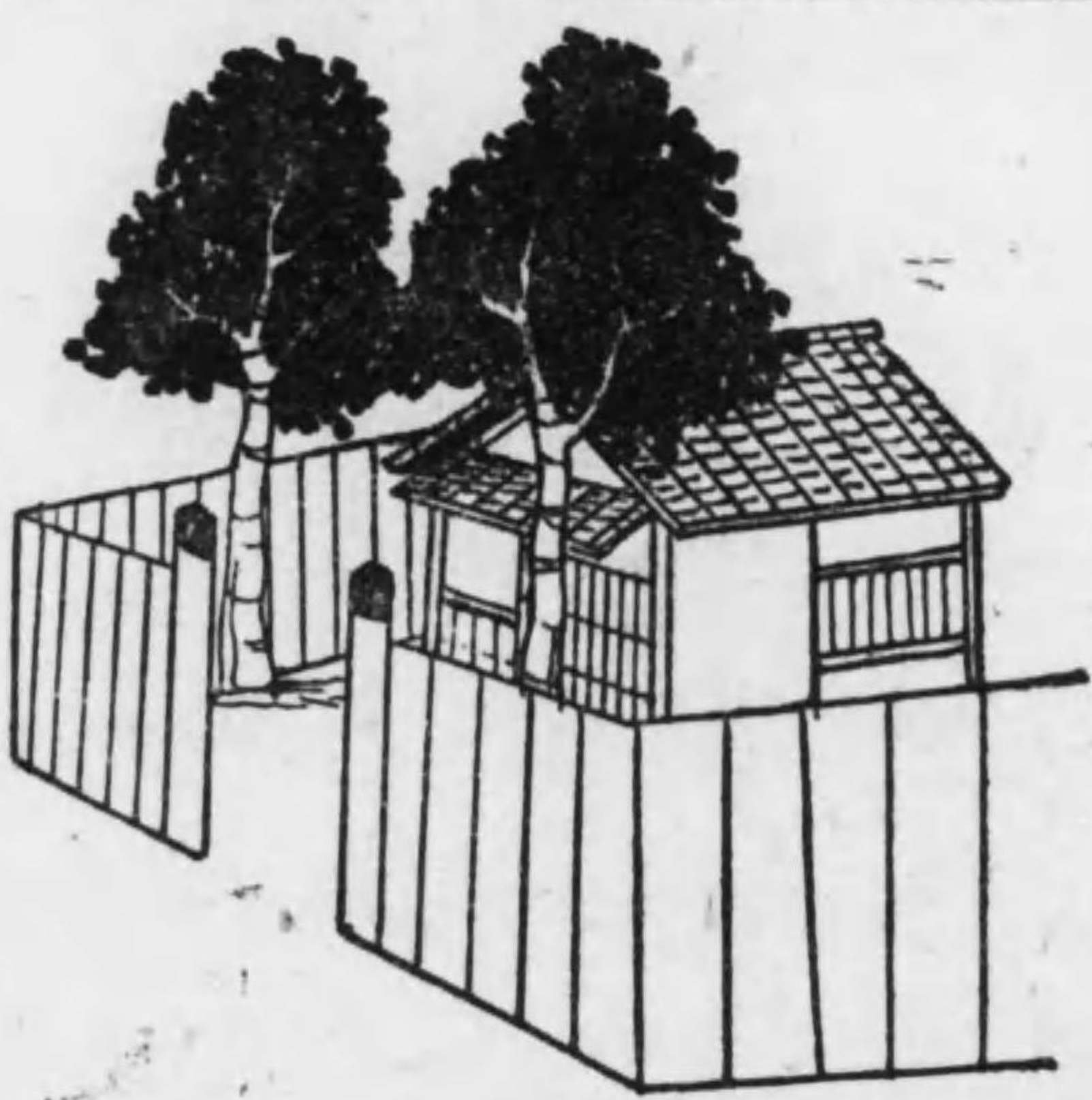
○三軒長屋とか五軒長屋の真中の家は凶い、又間口二間奥行四間の家は不幸を招く。○神社又は佛閣の正門に向ッて居住する家は立身を妨げ離散する事あるべし。

○右左に流があつて



○門前に柳の木のあるは、其の家に老人なし。

家が前後又は左右にあつて中庭の廊下に橋の如くなつて居るのは口舌争論があつて散財の相である。○屋根の高いのと低いのと並んであるは口舌が絶へない。○隣りの家の壁を突き貫いて一戸として使用するは必ず病人か死人が出来るか又は不幸が多く積く。○古い家へ新らしく継ぎたすか又は平家に二階を拵らへるなどは福運を失ふと云うて凶相である。○家の内に一ト間だけ低く降りるやうな座敷のあるは常に病人が絶へない。○門の入口に墓碑のあるは病人又は不具者の子供がある。○門の前後に泉水又は池あれば子孫天死をする。○正南の方位に便所のあるは氣狂ひ又は低腦者を出す凶相である。○坤の方位の便所は其家に腰から下の病にかゝるものが出来る。



屋敷内に多くの敷石を伏せてあるは家業繁昌せず、又子孫永住せずと云ふ。○門の左右に二本の樹が家に懸ッて居れば其家の婦人は淫亂の悪名を残すと云ふ。

宅地の内に池があつて、竹や木が蔭を寫すは災厄がある。○屋敷内に枇杷の木のあるのは病人が絶へない。○家根の上に大木の枝が被ふさつたのは不仕合が多い。○桓根に蔓の巻き付けたのは多く病人が出来ること云ふ。○朝顔のやうなものを造るならば桓根を離したがよい。○家の中心に天窓や煙突などのあるは憂事が多い。○家の下を水が流れるのは其家次第に衰微する凶相である。○門を建つるに庚寅の日は大に忌む。○井戸や墓の在つた上に建てた家は不吉であつて絶家すると云ふ。○土用に引越すれば三年の内に必ず障りがある。

◎一代謹慎すべき方位

一 白本命星の人は 北の方に流し場、芥溜、風呂場、
 厠、手水鉢等を設けてはならぬ。
 二 黒星の人は 西南の方に芥溜、便所、風呂場、台
 所等を設くべからず。
 三 碧星の人は 東の方に便所、芥溜、風呂場、流し
 場、手水鉢を設けてはいけぬ。
 四 緑星の人は 東南の方に便所、風呂場、芥溜、台
 所等を設くべからず。
 五 黄星の人は 家の中央を清浄にして不浄のものを
 置くべからず。
 六 白星の人は 西北の方に厠、芥溜、風呂場、手水
 鉢、台所等を設くべからず。
 七 赤星の人は 西の方に厠、芥溜、風呂場、流し場
 手水鉢等を設くべからず。
 八 白星の人は 東北の方に厠、芥溜、手水鉢、風呂

◎吉き月日

新築移轉旅行又は動土等は其人の本命星が中宮に入
 りたる年を大吉とするのである。其の年月は
 一 白本命の人は 六白、七赤の中宮年と三碧、四緑
 の中宮年が吉き年である。
 二 黒本命の人は 九紫中宮年が大吉で八白、六白、
 七赤の中宮年が之に次ぐ吉年である。
 三 碧本命の人は 一白中宮年と四緑中宮年とが吉き
 年である。
 四 緑本命の人は 一白の中宮と三碧、九紫中宮年が

場、台所等を設けてはいけぬ。
 九 紫星の人は 南の方に台所、厠、風呂場、不浄物
 の置場等を置くべからず。
 自分の本命星の方位に右のク所あれば必ず災難を招
 くものである。

吉き年である。

五 黄本命の人は 九紫の中宮年が大吉で八白、七赤
 六 白中宮年が之に次ぐ吉年なり。
 六 白本命の人は 二黒、八白の中宮年と一白、七赤
 中宮年が吉き年である。
 七 赤本命の人は 二黒、八白の中宮年と一白、六白
 の中宮年が吉き年である。
 八 白本命の人は 九紫の中宮年と二黒、六白、七赤
 の中宮年が吉い年である。
 九 紫本命の人は 三碧、四緑中宮年と二黒八白の中
 宮年が吉い年である。
 中宮とは五黄星の居る所に星の入りたる年を云ふの
 で、例へば大正十三年は四緑の年である、故に自分
 の本命と此中宮星とを見各はせば直に知れる。月も
 日も以上の中宮星の時が吉いのである。

◎方除けの法

方位の凶るい所に普請又は造作等をする時には方
 除と云つて其年の吉き方位の神社の清浄なる床下の
 土を取り来りて神前に置き清香を焚きてよく祈願を
 してから其土を家の間圍に撒き廿一日間修行すると
 きは其方災を除くと云ふ。

◎門構の吉凶

門が辰己の方にある家は人の出入盛なり、南にあ
 るも亦然り、然れども正南方にあるのは之を避くべ
 し、東に門があれば金銭の出入盛なり、正東は避く
 べし、西にあるも可なれ共正西を忌む、殊に門前に
 段々ど西方の低くなるは失敗多き家である、北にあ
 れば大業爲し難し、乾の門は主人の信用が薄い。
 坤 艮の門は大いに忌む。

◎倉庫の方位は

庚辛の方に倉庫のあるは最大吉相なり次は壬癸の方と辰巳の方を吉とす、壬癸の方は吉凶なし、辰巳の土蔵は家が繁昌する。正西にあるは不義の榮華を想ふに至る、正南にあれば火難を懼る、正東は貧を可る、凡て正位は避くべし凶なり。

◎竈の向け方吉凶

○東向に作るは富貴繁昌して諸事成就する相である
○西向に作るは口舌あり又金銀の費が多い。
○南向きに作るは一家和合して家業繁昌する。
○北向きに作るは物事損失多し病難あり。
○丑寅に向きたるは姑と嫁と不和になる。
○未申に向きたるは金銭の差支が多い。

◎臺所流場の吉凶

井戸と同じく東西南北の正位を除くべし。坤艮の方にあるは家運衰ふ、宜しく六千二支に構ふべし。猶辰と丙丁は凶である、辰にあれば其妻に障りがある、丙丁にあれば其家の娘浮氣となる、流れ水は東か西に流る、がよい。

◎廁の位置

廁は井戸の側や台所に近き場所は尤も忌む、家中へ作り込む時は成るべく廁だけ外に突出さしむるがよい。座敷と平均に作るは損失が多い。
艮坤の二方にあるは病人が絶えない、又東西南北の真正面を除くがよい。
廁を浴室、納屋など、一棟とせるは最も忌む、宜しく別に一棟として建るがよい。

○辰巳に向けたるは家内睦まじく家運長久なり。
右に云ふ方角の吉き方に向へば家運盛大なるも凶方に向けて作りたる家には災ひ度々来る。

◎井戸の場所の吉凶

井戸は竈の傍にあるは損失多く衰微を來たすのである、又竈と向ひ合ふも宜しからず、火難病難あり凡て東西南北の正當にあるは凶なり。
丑寅未申の方にあるは家運衰退し家人病氣に罹ると云ふ、要するに井戸は左の方位に置くを最大吉とす。
巳、亥、申(寅卯の間)乙(卯辰の間)丙(申酉の間)辛(酉戌の間)壬(亥子の間)癸(子の間)の間に
之を六千二支と云ふ、此方位に井戸を構ふれば福運多く家業繁昌する。

◎浴室の場所

浴室も東西南北戌亥の方は悪い、子孫を損ひ損失絶えず、又艮坤にあれば主人を害すると云ふ。

◎納屋構所の吉凶

納屋は坤艮の方位を最も嫌ふ、必ず其家に病人あるか子孫に災ひがある、又正南の方にあれば火災の憂がある、之れも四方の正面を避けて八千二支の方に建てるがよい。

◎牛馬小屋構の吉凶

牛馬小屋は常に臭氣が絶へない汚穢の所であるから陰濕の處を避けて乾燥の場所を選ぶがよい。而して艮坤二方は家人の病災のみならず牛馬其物にも柔弱となるを以つて當然避けねがよい、戌亥、辰

巳は吉である、東西南北の正位を除けて用ひるは大害がない、最大吉方は己の方、甲の方である。

◎池、泉水、築山の位置

池、泉水は坤、艮と南にあるは大凶である。家内に病人絶へず故に困窮失敗を免がれず。

己、亥、甲、乙、庚、辛、壬、癸の六干二支の方に之を置くが吉、築山は艮、坤を最も忌む。雖も北にあるは吉とすれども他の方位にあるは何れも凶である。但し住宅の床上の高さに至るのは家の主人に災害がある、故に築山を作らんとせば二尺以上の高さにせぬがよい。

◎物干場の吉凶

物干場は日當りよき所は別に差支がないが、若し

屋根上に作るべきは吉凶の應顯大なり、故に物干は便所の上竈の上を避くるがよい、若し之を犯す時は病災あり、猶ほ屋根上の廂にかゝるか屋根の張りたる事のあるのは必ず家主或は長男の狂氣する事あり

◎神棚の位置吉凶

神棚は不淨の所に祭るべからず、坤、艮の方位は避くべきである。最大吉方は戌亥の方より東辰巳に向けるを尊ぶ、南向きも吉、北向きは忌む、戌亥向きはよし。西向きも差支はない。

神棚を店先きに設くるは縁喜棚なれば可なり、神奉祀の棚は凶である、又神棚の下を潜り歩くは凶なり、竈の口と向合ふも凶、廁の傍に祭るは凶、佛壇と向合ふも凶、神棚と佛壇と上下あるは差支ない。庭を祀る造りて神靈を祀るならば祭壇の向きは東辰巳の向にするがよい、矢張住宅から坤、艮の方

は凶である。

◎佛壇配置の吉凶

佛壇は先祖の靈牌を安置して其靈魂を慰むる所であるから清淨なる所を要するのである、其場所は、戌亥、辰巳の方を大吉とし、艮、坤二方は大凶で子孫斷絶すると云ふ、西から東に向けるは家内和合する、又佛壇は西向を大吉とする之れ阿彌陀如來は西方にありと云ふ傳説と我國の佛身は西方より來りしを以て之を云つたものである、又北向きはよろしくない、又神棚と向ひ合ひ竈口と向ひたのもよろしくない、神棚と並らべ祀るには少し低くするがよい。

◎階子段の位置吉凶

階子段は宅内の中央にあるは主人病氣に苦しむ故

に片寄りたる所に設くるがよい、坤、艮の方も宅の隅なれば差支ないが斯る時は唐紙障子を以て隠すをよしとする、階子段の下に便所を設くるは大凶なり、家人腰部を病むと云ふ。

◎床敷の吉凶

神社佛閣は格別普通民家には座敷に高低あるは大凶である、宅主狂亂するか家運衰滅するに至るものである。

◎棟木の吉凶

家の棟木が通らぬのは大凶である、棟木を接木した家は必ず其家人をして家産を敗類せしむると云ふ。若し長屋建の家ならば一軒毎に一本の棟木を用ひて一軒より次の軒の内に棟木を通して接木したのは住人に災ひがある、又棟筋の通らぬ家もよくない。

◎逆木の吉凶

家の柱に逆木を用ゆれば主人發狂するか腦病を煩

ふか子女の脆弱なるか孰れ善事がなくて其家絶ゆる
と云ふ。

◎姓名判断

諺に曰く名は体を現はすと云うて凡そ名前は其人の性質を表はすもので、其の名の付け方により世に顯はれ又捨てらるゝものもある、元來其物の本質に相違せる名を付けるは其物の徳を損じ其物本來の特質を破壊するものである、人の名前も妊娠中から男女二ツの名を選んで置き子の生誕を待つて男子なれば男子、女子なれば女子の名を付ける事とせば戸籍の届出で迄には間に合ふ故に充分なる注意を持つて適當の名前を付ける様に心掛くるがよい、左に順次之を述べませう。
人は萬物の長であるから自分を代表する姓名を持つ

つて居る、姓は即ち生に通じ名は命に通ず、自分の姓名は自分の生命である、故に最初其名を付けるに禽獸草木等の名を選ぶのでない、而して姓名の讀み下しは自分の品格を表はすに大切であるから最も深き注意を要します。

例

○大倉喜八郎（大きな蔵を喜んで開くと云ふ）「八はひらくと讀む」此等はよいが仲には三八吉と云ふ姓名がある、何處からか名か要領を得ぬ、一又又七、石田之一なども變挺な名である、長い名前には勅使河原四郎九郎十三郎兵衛とか木曾木野小路藤七郎左右衛兵衛兼行などあるが眞面目で付けたものと思はれぬ。

姓名判断は文字の劃數と陰陽五行で占ふのです、今其の字劃數によりて鑑定すれば左の通りである。
名の數は中年迄の運命數である。
姓と名の合數は晩年の運命數である。

◎運命數の吉凶

- 一、此の數は萬物の始めて最大の吉數である。
- 二、大凶にして病難不具短命の運數です。
- 三、天賦の幸福を享け立身出世する吉祥の數なり
- 四、氣の毒の數で精神の發育不完全で短命ならざれば大困難大辛苦ある數なり。
- 五、人に引立てられ又人に愛せられ自然に富貴長命を享くる吉數なり。
- 六、大金満家となるか又名譽の人となる運數である。
- 七、剛情の數にして内外の平和を欠ぐも萬事を整

- 八、意志強固にして忍耐強く大志を有し萬難を排して成功すべき幸福の數なり。
- 九、不運不幸の運數にして幼年中年の頃に別る、か若くば已れ短命なり。
- 十、家を滅ぼすか家運の末に生れたるが如き凶運數なれば注意なさい。
- 十一、此の數は諸人の引立を受けて富貴繁榮を極むる運數である。
- 十二、意外の災難多く親戚朋友に見離され晩年逆境に陥り困難多き運數なり。
- 十三、智謀才力あつて萬難を排して成功する運數なり。
- 十四、家族の縁薄く何事も不足にして困難多く世に現はれざる惡運の數なり此人には獨身者多し。
- 十五、上運の數で先輩の引立を受け立身出世功名を博すべき數なり。

十六、合姓又は名に此の數ある人は多くの人の頭となるが人と争ひ災難あれば注意せよ。
 十七、剛情強く短氣にして他人の言を容れざる爲め失敗する事あれど晩年は成功する運數である。
 十八、自己の一存を貫徹して大業を遂げ得る大盛運數です。
 十九、大業を企てんとするも内外の平和を欠き親に縁なき辛苦の多き運數なり。
 二十、大業を成さんとするも障害多く困難多き運數なり。
 二十一、頭領となるべき數にして家を興し名聲を博し富貴繁昌する、大幸運數である。
 二十二、万事思ふ事叶はず苦勞困難多くして晩年孤獨となる數である。
 二十三、大業を遂げ富貴繁榮となる大幸運數なり。
 二十四、困難辛苦あつても智略に富んで居るから後年大事を遂げらる吉運數です。

二十五、他人と不和になり信用を墜す事あるが英敏なる才能を以つて大功を奏する吉運數である。
 二十六、大困窮する數で後年人に輕侮せらる、運數である。
 二十七、中年までは幸福であるが晩年は非難攻撃を受け大失敗を招く事あり。
 二十八、災難に遇ふ數であるが姓名讀み下しの配合が善ければ晩年成功します。
 二十九、才能人に勝れて居れば成功無比の幸福な運數である。
 三十、吉凶相半する運數であります。
 三十一、大成功を遂げ金満家となり後世名を遺す吉運數なり。
 三十二、時機が來れば破竹の勢で大成功をする運數である。
 三十三、旭の昇るが如き勢を以て家運盛大となる大吉運數です。

三十四、文學技藝の上達する運數であるが先輩の引立てがなきため困難辛苦多き運數です。
 三十五、自ら幸福を失ふ凶運數であります。
 三十六、中年迄は幸福なるも晩年は大困難を生じ多くは短命です(幸徳秋水の如し)
 三十七、天賦の幸運を受け名實共に備はり大成功する大吉運數である(大倉喜八郎の如し)
 三十八、平凡の數ですから成功は出來ないが文學などは上達します。
 三十九、貴重なる運數で智謀才略に富み幸福を子孫に傳ふる事が出来る運數である。
 四十、智略に秀でたるも晩年に零落する運數である
 四十一、膂力才智の大才子であれば必ず人の頭となり後世に名を残す大幸福の運數である。
 四十二、物事器用で發明の才能を持つて居るから高尚の運命でも此劃數は困難苦勞のある運數です。
 四十三、才能あつて一時は成功すれば意志薄弱で散財

多く信用を失ふ運數である。
 四十四、大計畫を抱き万難を排して大業は貫徹します。が壘の上で往生が出來ない所謂横死の運數である。
 四十五、何事を爲すも精力乏しく大困難する惡數である。
 四十六、天賦の幸福を受け他人と共同して互に喜び大業を成し遂る盛運の數である(岩崎彌之助の如し)
 四十七、智謀と才能に富み大成功をする運數である。
 四十八、吉運來りて又來ると雖も晩年は凶運來りて困難する運數です。
 四十九、中年迄は有福ですが晩年には意外の災難に逢ひ一身一家を滅亡させる運數なり。
 五十、初めは幸運なれど中年以後から失敗續きで困苦する凶惡の運數です。
 五十一、投機心盛んで他人が真似の出來ない事も能く是れを成し遂げ功名を博する運數なり(錢屋五兵衛の如し)

五三、此の畫數は破産又は絶家の厄に逢ひ失敗する運數であります。

五三、種々の障害多く一家の平和を破り破産を來たす大凶數です。

五四、苦勞は多いが意志が強固の爲め晩年には幸福の身となる運數である。

五五、思ふ事と行なふ事が相違して遂に進取の氣力を失ひ損失すると云ふ運數であります。

五六、生死も分らぬ大難に遇ふ事あるも晩年は富貴幸福を得て成功する運數である。

五七、一度は破産の難に遇ふ事あるも再興して富貴幸福を得る幸運の運數なり。

五八、忍耐力と勇氣が乏しく損害災厄があつて非業の死を遂ぐる恐れある大凶の運數であります。

五九、心が定まらぬから迷ひ安く何事をしても成功しない運數です。

六〇、一家の平和を欠ぐも晩年には自然と金銀財寶

集まりて富貴繁榮する幸運の數です。

六一、家運次第々に衰微するの運數です。

六二、富貴幸福を子孫に傳ふる幸運數で後世に名を残す(高島嘉右衛門の如し)

六三、多少の困苦あるも常に家内の圓滿を計れば吉運となりませす。

六四、最上の幸運數で幸福と長壽を保つ事が出來ます。

六五、人と爭論を好み又災害に逢つて一家を亡ぼす運數である。

六六、獨立獨歩で物事を爲すに少しの障害もないゆる幸福を得る事が出來る運數です。

六七、此の數は發明心に富み幸福を得られます。

六八、病氣又は災難等ありて不幸續く凶惡の數であります。

六九、短命であるか又は不具者となる運數である。

七〇、自然と幸福を得られる數なれども辛苦の多い

數です。

七一、利害得失相半する數で晩年に破産の厄に逢ふ

七二、大志大望を持つて居るけれども之を實行する意志なくも自然に富貴繁榮を極むる吉祥の數なり

七三、無能無智で一生涯世の中に現はれない數です

七四、富貴幸福なれども進んで事を爲せば失敗を招くゆへ保守的に爲さるがよい。

七五、短命であつて又困難の運數です。

七六、中年までは不幸ですが晩年必ず幸福を得らるる吉運數である。

七七、中年までは富貴幸福を受けるが晩年辛苦する運です。

七八、節操を欠ぎ信用を失ひ失敗をする運數です。

七九、終生困難あるものですが隠居してから其厄を免るゝと云ふ運數です。

八〇、自然の幸福を享けて隆盛を極むる吉祥の幸運數なり。

以上は對數の規定の大略を記したものである。

◎陰陽の配列

陽〇印 一、三、五、七、九。
の如き奇數を陽、乾〇です。

陰●印 二、四、六、八、十。
の如く偶數、陰、坤●です。

此の陰陽の配置によ
命、強壯、不健康の
配置を求めねばならぬ。

◎五行作成法

(木) カキクケコ。
(火) タチツテト。ナニヌネノ。ラリルレロ。
(土) アイウエオ。ワキウエヲ。ヤイユエヨ。ン

(金) サシスセソ。

(水) ハヒフヘホ。マミムメモ。

五行を見るに姓名の一字一字に就て字音を考へる其字音が淺野と云へば淺アは土で野ノは火で即ち土と火性である。

◎相生文字

(木性の人の名頭字)

春、兵、平、八、半、百、慎、峰、準、茂、照、
豐、友、周、米、宗、浦、武、多、芳、房、孫、
文、福、寛、保、萬、彌、
火性の人の名頭字)
清、經、廣、近、富、宣、菊、善、吉、彦、重、
修、靜、兼、敬、健、高、嘉、國、啓、儀、明、
覺、勘

土性の人の名頭字)

(金性の人の名頭字)

一、花、雄、岩、音、乙、伊、市、博、和、與、
好、鶴、唯、爲、輔、十、秀、清、俊、仙、祐、
愛、喜、金、榮、猶、宇、運、安、又、政、眞、
甲、由、
九、甚、弘、定、眞、朝、勝、景、邦、藏、國、
良、林、隆、丑、範、信、輝、鐵、傳、鹿、重、
松、正、仲、眞、義、竹、太、知、治、忠、龍、
家、猪、藤、德、仁、虎、京、元、守、光、道、

(水性の人の名頭字)

◎米相場の鑑定法

米相場の高下を鑑定する方法は其易數を以て日々の相場高下を占ふには左の方法を見るべし、其の繰り方は先づ甲子の日に當る一月一日ならば始めの甲子年を記す所を其一月一日に見做し以下二日三日と順次に繰るべし又二月なれば壬申と記す所三月の分は庚辰年と記しある所より以下順次に繰るべし、餘は之に準じて知るべく尙ほ閏月日は其年に照し合はせ閏月を一月と見做し順次に繰ること二月ならば閏月の記しある所より順に一、二、三月と順に繰るべし。

甲子年 高下共に判然し難し然れ共高直に持合ふを可とす。
壬申年 強氣方なり。
庚辰年 日中は高下定まらず大引に至て下るべし
戊子年 頭重き氣配にて大引の相場は強氣に向ふ

丙申年 朝は氣配強く晝過ぎには人氣弱し。

甲辰年 高低定まらず大引に至り寄付相場に戻るべし。

壬子年 朝より頭軽く上る方なり。

庚申年 押目を買ふべし、此日の相場は下る如くに見へ下らざるものなり。

乙丑年 此日は人氣概して高し。

癸酉年 相場高し然れども小高下は屢々あるべし
辛巳年 人氣弱く下る氣味なり。

己丑年 上らんとする傾きありて結局上らず下る方なり。

子辰申年 氣配高直なり。
閏月 寄附人氣強く晝より崩れかゝるべし。
丁酉年 高下持ち合の形なり。
乙巳年 高下持ち合の形なり。
癸丑年 チリ／＼高直を現はす。
丙寅年 イヤ／＼にしても高直を出す大引に下る

甲戌年 寄附高く夫より持合へ大引安し。
 壬午年 終日人氣強き方なり。
 庚寅年 高引下類りなれども結局安し。
 己戌年 寄附強き方にして大引弱き方なり。
 丙午年 弱氣一方。
 甲寅年 寄附不味にして晝過に至りて高かるべし。
 辛酉年 不味の様に見へて結局高直なり。
 丁卯年 足取に定りなく大引に至りて下り方なり。
 閏己酉年 賣狙へ小緩く安直なり。
 乙亥年 高下の底意不締りなり。
 癸未年 人氣強く上鞘の方なり。
 辛卯年 亂高下「ムザ」と碎き合へ雨天の時は小さく持合ふ。
 乙亥年 寄附は上直にして大引は下直。
 了末年 高下何れとも極端に達すべし。
 乙卯年 一体下直雨天なれば殊にチリく下鞘。
 戊辰年 下直にして市場の氣配何となく不味。

丙子年 高下何れとも大引は寄附相場に小戻り。
 甲申年 大に相場緩く引立たず。
 壬辰年 寄附持合く大引の場面引締るべし。
 庚子年 朝は小堅く晝過ぎより崩れ掛るべし。
 戊申年 始めは持合へユルく引締らん。
 寅午戌年 小堅く持合へ夫れなりに終るべし。
 閏月 小堅く持合へ夫れなりに終るべし。
 甲辰年 底意初めは堅く後に安直を出す。
 己巳年 寄附睨み合ひ後に至り高直なり。
 丁丑年 安直なり。
 乙酉年 互に持合ひ解き合ひ兼ねて終る。
 癸巳年 足取り下直にして進むべからず。
 辛丑年 相場は持合安直方は終に高直方に碎かる。
 己酉年 寄附は腰弱く晝過ぎより下直なり。
 丁巳年 晝間は安調子にして大引腰強し。
 壬戌年 氣迷ひの市況。
 庚午年 強弱對陣互角の姿なり。
 戊寅年 足取りを互に伺ひ居て大引上鞘になる。

丙戌年 ユラく上り後ち睨み合ふ。
 卯未亥年 高下あれども結局安調子なり。
 閏月 寄附小締り追々安直を現はす。
 壬寅年 寄附小締り追々安直を現はす。
 甲午年 双方持合ひ解け兼ねて終る。
 庚戌年 強氣市況なり。
 戊午年 高下足取定まらず立直りて高直なり。
 辛未年 對戰互角下離れより引締るべし。

己卯年 朝は底意小堅く見へて後崩る。
 丁亥年 小堅く見へて後ち弱き足取り。
 乙未年 氣配引立たざれども小堅く持合ふ。
 癸卯年 朝より下直にして後ち飛離て益々安直。
 辛亥年 初め不味なれども段々上直。
 己未年 寄附より下離れよく高直を現はす。
 癸亥年 小競合にて或は投出物も多かるべし。

◎夢判斷

夢には六夢と云ふて一に正夢、二に奇夢、三に思夢、四に悟夢、五に喜夢、六に恐夢の區別がある。夜半より前に見る夢は其事遠きにあり、夜半より後に見る夢は其事近き内にある、夜寢床に入り横になる時は何事も心に思はず頭枕又南に枕して横に臥すれば悪夢に襲はる、事なしと云ふ。

○天に縁ある類(日月星)

- 天にのぼり月日の中に入ると見れば大に貴し。
- 天晴ると見れば憂散じて悲しみを去る。
- 天の光り身を照すと見れば病癒ゆ。
- 天へ飛び上ると見れば貴き位に昇る。
- 天の崩ると見れば目上の人に憂ひあり。
- 天の色紅くなるは吉黒きは凶事あり。
- 天明かなるを見れば壽命を増して吉。
- 日月星の落ると見れば父母又は兄弟を失なふ。
- 日月を呑むと見ればよき子を産む。

- 日月の隠るゝと見れば争ひ事あり。
- 雷にうたるゝと見れば大に貴し。
- 朝日の出ると見れば思ひ事叶ふ。
- 星の出ると見れば望事速かに達せん。
- 風衣服を吹くと見れば病ひ事あり。
- 雲四方にたつと見れば商ひ事に利益あり。
- 雪降ると見れば病の苦を散じ免るゝ。
- 電を見れば官位にのぼる事あり。
- 虹たつと見れば戦争の起る事あらん。
- 雨に逢ふと見る時は酒食の馳走を受く。
- 霜の降りたるを見れば思ひ事叶はず。
- 雨風の吹くと見れば目上ものを失なふ。
- 黒雲地に下ると見れば疫病にかゝる。
- 五色の雲を見れば喜び事あり。
- 日蝕を見れば其妻の懐妊する兆なり。
- 月蝕を見れば生るゝ子女子ならん。
- 月が雲に蔽はるゝと見れば婦人の病ひあり。

- 日月を見れば人の頭となり又官祿を得べし。
- 夜の明けたるを見れば憂ひ散じて喜び来る。
- 星の光り輝くゝ見る時は幸福を得べし。
- 満月を見れば望事叶ふ前兆と知るべし。
- 雨降ると見れば万事心に叶ふべし。
- 風すだれを吹き巻くゝ見る時は來客あるべし。
- 天より金銭の落つて見れば散財事あり。
- 日の光り家の裏に入ると見る時は喜び事あり。
- 雲の上に乗ると見れば立身出世の緒となる。
- 風に吹かれて駆廻ると見れば人に欺かる。
- 風の爲に家を吹倒さると見れば大失敗を招く。
- 雨に逢ひて傘なしと見れば住居に迷を生ず。
- 暴風に逢ふと見る時は家内に凶事あらん。
- 雲の中に隠るゝと見れば病人ならば死すべし。
- 雨降りつゞくと見れば一家に凶事あり。
- 露に衣服を沾すと見れば人より響應を受く。

◎食物の喰ひ合せ

- 蟹と氷水を喰ひ合はすれば——腹痛む。
- 松茸とあさり貝を喰へば——はら痛む。
- 蛤と蜜柑と喰ひ合はせば——命にかゝはる。
- にらと蜂蜜を食ふと——癩を起す。
- 夏菜にふぐを食ふと——命にかゝはる。
- 南瓜に寶丹を食ふと——命にさわる。
- きのこに天ぶらを混食すると——胃病となる。
- 家鴨の玉子ととろ、汁は——臟腑を破ぶる。
- 蕎麥に田螺を食へば——一命にかゝる。
- 鮎とからし葉を食へば——痔疾が起る。
- 熊の胃と西瓜を食へば——吐血する。
- 小豆飯とふぐを食へば——即死する。
- かすの子と熊のゐを食へば——命にかゝはる。
- セメン圓と甘藷を食すれば——命にかゝはる。
- 鰻飯と梅干を食へば——命にかゝはる。

- 竹の子と黒砂糖を食へば——腹いたむ。
- もろこしと田螺を食へば——命危ふし。
- きのことほうれん草を食へば——命にかゝはる。
- 柿と蟹を喰ひ合はせば——命にかゝはる。
- 山芋と馬肉を食ふと——さなだ虫がわく。
- 初荷と馬鈴薯と食へば——命にかゝはる。
- 豚肉と田螺を食へば——眉毛がぬける。
- 午券と鮎を食ふと——命にかゝる。
- 鯨と猪を食へば——一命にかゝる。
- 玉子とにんにくを食へば——命にかゝる。
- 章魚と梅の實を食へば——命にかゝはる。
- 蜜柑と鰻を食ふと——一命危ふし。
- 枇杷に小豆を喰ひ合せば——腹を痛む。
- 鮎にとろてんを食すれば——急性の下痢を起す。
- 胡瓜と萹藪を食ふと——腹痛を起す。
- 鮎と胡桃を食ふと——胃痛を起す。
- 鶉ときのこを食ふと——一命にかゝる。

○生梅と黒砂糖を食ふと——命危ふし。
 ○蕎麥となつめを食ふと——腹をいたむ。
 ○瓜と油揚げを食ふと——胃病となる。

◎魚の中毒に罹りたる時

指を咽喉に突き込んで食物を吐かしむるがよい、之を吐かすには南天の葉を煎じて吞ますればよい、そして鳩尾に芥子を貼り砂糖水を吞ますべし。

◎菌の中毒を受けた時は

甘草を胡麻油で煎じて用ふべし、又古い壁土を熱湯の中に入れて上澄を吞む、又山査子を煎じ吞む時は即座に功能あり。

◎日射の手當は

十分間○塩麩は二時五十分間○鮑、蒲鉾は各三時廿分間○蛤は二時十五分間○牡蠣は二時十分間○芹は二時間○筍は二時十五分間○馬鈴薯は二時三十分間○葱は二時四十分間○午券と人參は各二時廿五分間○蓮根は二時十五分間○胡瓜は二時三十分間○大根、冬瓜、茄子は各二時間○松茸は三時間○わかめ一時三十分間○米飯二時十五分間○麥飯二時間、蕎麥粉は二三十分間○食パン三時五分間○莧藟は三時間、○豆腐は二時十分間○乾餛飩、素麵は二時四十五分間○蠶豆、豌豆は三時間○牛乳は一時三十分間○乾大根は二時四十五分間○水飴二時十分間○百合、慈姑は三時十五分間○西瓜は三時二十分間○蕪は二時間○昆布は二時二十五分間○玉葱は二時間○林檎は一時四十五分間○梨は二時間○杏は二時十五分間、○葡萄、水蜜桃、蜜柑は各一時四十分間○桃は二時間○柿、枇杷は各二時三十分間○小豆は二時間○凍豆腐は二時四十五分間○鉄は二時十分間○餅は二時

衣服を脱がしめて涼しい室に静臥させて水を吞ませ頭を冷し下劑を用ひ面にアエンカマツと澱粉とを等分にしたものを撒布すがよい。

◎食物消化の時間

食ひ合せが悪いと物當りして苦しみ甚しきは一命を失ふことがある、然し食ひ合せと云ふは同時に食ふと思ふ人があるが凡そ食物は皆な消化時間があつて其消化せざるうちに他の物を食して中毒を起し命を失ふのであるから左に食物の消化する時間を参考として記す。
 ○牛肉は三時四十分で消化する○猪肉は四時間○鶏卵は二時廿分間○豚肉は四時七分間○鰯は二時三十分間○鮎は一時間三十分○鯖三時間○鱈は三時四十五分間○鮪は二時四十五分間○伊勢鰻、鱈は三時四十分間○鰻は四時四十分間○鮎、鯉、鱈は各二時三十分間

三十分間乃至三時十五分間○粥は一時四十五分間、○羊羹二時三十五分間等なり。

◎應急手當

○食傷を治すには食傷したるものを黒焼にして服すれば直に吐瀉して治るものなり、又蕎麥に中毒りたる時は荒布を煎じて吞めば奇妙に治すものなり
 ○咽喉に魚の骨が立ちたる時は蜜柑を皮のまゝ、黒焼にして吞む時は必ず治る○咽喉に物の塞がりたる時は布糊、油、酢右の内何れにても早く多量に吞むがよい○又餅のつかえる時は大根卸て其汁を吞むがよい。
 ○犬に咬まれた時には蝦蟇を黒焼にして白湯で吞む時は其毒を消して疵を咎めず又鼠の糞を黒砂糖に煉り疵口に付けるも功能あり。
 ○火傷になつた時には鱈のヌルノ、したる液を出し

て疵所へ貼れば治する事妙なり。

◎河豚の中毒を治すには南天の葉か枝を細かに切つて煎じ其の汁を呑む時は直に吐瀉して其の中毒を治す事不思議なり。

◎酒精の中毒には其泥酔したる人の頭を冷し尙ほ足のひらに芥子を水に溶きて塗るべし忽ち治するものなり。

◎シャツクリの起りたる時は食鹽を茶碗に一杯入れて頓服すれば直に冷るなり又背中を三ツ四ツ烈しく打てば止る。

◎霜焼を癒すにはアンモニヤ水を塗るべし若し潰れたる時は石炭酸の軟膏を貼るもよし。

◎鼻血を止めるには患者の頸部を打てば出血止まる婦人は乳房、男子は陰囊を冷水に浸したる布にて包むも功あり。

◎耳の鳴を止めるには酒を二三滴耳の中へ點すべし忽ち冷る。

◎腫物を膿すには午芎の種二三粒呑めば翌日は口を開きて膿出るなり。

◎咳嗽を止むるには水飴に大根の卸汁を混ぜ少しづつ呑み下せば忽ち治す。

◎わきがを治すには焼明礬を粉にして局部になすり付るも効あり又田螺の殻を粉にしてつくるも功あり

◎縮れ毛を治すには蛞蝓十匹位楮の油一合に入れて暫く置けば自然に溶解す其液を髪につければ縮れ毛は直に美麗なる髪となるなり。

◎乳の出る法は蜂の巢を黒く炒りて紛末にして一回三々宛酒にて服用すれば乳の出づる事請合なり。

◎疣子を取り去るには白茄子を豎に割りて疣子にすりつけ其茄子を地中に埋め置く時は茄子の腐る頃には治る。

◎酒の嫌ひになる法は鰻を酒の中に入れて其鰻の死したる後に取り出して飲ますべし、又馬の汗を酒に混ぜて飲ますも奇妙なり。

◎産前産後の心得

凡て婦人は子を生むを以て天賦とす、故に産の前後は餘程注意をせねばならぬ。第一懐妊三ヶ月後は房事避け又墮眠をしてはいけない、而して品行方正にして物に驚かないやうに心掛け又物に跪きたり倒れたりすると難産や又は不具者や白痴の子が出来る。産前に食べて悪い物は、あんず、なし、くわい、かに、すし、にら、んにく、きのこ、ねぎ、しよすが、たで、こんにやく、もち、あゆ、かも、はご

◎災難を豫知する法

不時の災難は如何して来るかと云ふ事は神より外に知ることは出来ぬ、然し化学的心理作用は自己の發念せざる事を知覺するものである、之れに依ると先づ毎朝又は時々之を試みて護身の用とするがよい

からし類と油と魚類はいけない、又妊娠中に玉子と乾魚を食ひ合はすれば子供にクサが出来ます、そして産後七十五日間は、身体が元に復さないから過度の労働をしたり食物の注意もせず房事を行ふ時は取り返しの付かぬ事になり貴重生命を失ひますから分娩後七日七夜は靜かに臥し三週間後より少々働く位は差支はありません、然し針仕事はよくない。産後に食して吉い物は鯉、長芋、葱、蟹、飛魚、かます、きす、あわび、玉子、はも、鯛其仕消化やすき物又平生好むものは少々は差支がない。

第一左の手を以て顎の下の顎の兩側大動脈の所を拇指と人指とで押へればドキ／＼と脈が打ツ、之れを斯うして押へ次に右手の中指と紅指とを以て左手の手腕の動脈を押ゆれば脈を感ずる、斯くして左手の指に感ずる顎の脈と右手の指に感ずる左腕の脈と相一致してドキ／＼と同じ様に響く時は決して災

難はないのである、若し相一致しないで頸の脈が小さいか或は腕の脈が小さい事がある時は必ず災難がありますから万々注意して居なくてはならぬ、又

脈の波動即ちドキ／＼するのが同じであるか頸の脈が早い或は腕の脈が早くて即ち頸腕の脈に遅い速いがある時は災難があると思つてお氣を附けなさい。

服忌令

父	養父	嫡母	繼父	夫	妻	嫡子	次子	繼子	夫の父
母	母	母	母	母	母	長男	男	女	母
忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日	忌服三十三日

父伯叔父母	方伯叔父母	曾祖父	高祖	伯叔父母	兄弟姉妹	異父母兄弟	嫡孫末孫	曾孫玄孫	從父兄弟姉妹	甥姪
忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日	忌服九日

◎生れ月による男女の性格

男女の相性につき多年の経験から飯納して考へて見るに男女の生れ月とその容貌性格とは余程密接な關係がある、一人の性格は天性と生活の歴史即ち境遇とに依つて形づくられるものであるから仮令生れ月が同じでも天性と境遇とによつて人の性格は夫々違ふ譯ですけれども生れ月が同じければ母胎に宿つた時と生れ落ちた時とは同様な自然界の刺戟を心理上及び生理上に受けるのですから、幾分か共通の点がある筈です、此意味で生れ月と云ふ事もその性格を知らうとする場合多少の参考になる譯であります、一休男女が相寄つて平和に圓滿に暮らして行くには双方が全然相反した性格でもいけないし又全然相同じくても困る、つまり一方にない處を他の一方が補ふと云ふ風に相互に助け合ふ様な程度に相違して居なくてはなりません、世に似たもの夫婦と云

ふのがありますけれども之れは餘り結構な夫婦ではないと思ひます、何となれば相互に飲陥を補ひ合ふ事が出来ず却つて飲陥を助長する事になり決して面白い結果は得られないからであります。

◎生れ月と男女の相性

一月生	二月生	三月生	四月生	五月生	六月生	七月生
一月の男	二月の男	三月の男	四月の男	五月の男	六月の男	七月の男
十月の女	三月の女	五月の女	四月の女	一月の女	七月の女	六月の女

八月生

八月の女

八月の女

九月生

九月の女

九月の女

十月生

十月の女

十月の女

十一月生

十一月の女

十一月の女

十二月生

十二月の女

十二月の女

仮りに生れ月によつて男女の相性を定めて見ると
白の様な結果になります、若し人の性格が生れ月の
みによつて定まるものならば以上の組合せの男女が
結婚したならば理想的の家庭を作る事が出来るであ
りませう。

(一月生の男) 華美を好み豪者を喜び金持ならば身
代を磨り減し或は紙子姿のギリ／＼結着まで落ち易
い、愛嬌あつて浮れ易く人に馬鹿にされながらも無
くてならぬものにされ一生洋食ふと着るには困ら

ない、そして威嚴拔の美男子が多く婦人の玩弄に適
する。

女は十中の八九までは賑かな美人である、躰をよ
くせねばお轉婆の尻軽となつて親の顔に泥を塗やう
な事がある、氣位が高くて青春期を過し一旦氣が付
いて身を固めやうとする時には貴ひ手がないと云ふ
様な例が多い、一般に此の月の生れは男女とも酒を
好み歌舞音曲に器用なのが常である、之れは人の心
の浮き立ツ四月の花時に孕まれて世間が新玉の年の
始めを目出度がつて騒いでゐる時に生れ落ちるから天
然と人事と父母の心情との感化によつて前述の様な
傾向を帯るのである。

(二月生の男) 引込思案にして物事慎み深く至つて
眞面目に頼母しげに見え老人の氣に入り易くてよく
娘の聲になど望まれる、然し貰つて見れば案外の
惰者で無精でグズで胼甲斐なしで寝て食ふ事ばかり
考へ其癖怒ツばくてグズ／＼と煮え切らぬ理屈をこ

ねる、容貌か美男と云ふまででなくとも優男と云は
れるもの多く、よく厭世觀を起して一人心中なごす
るのは此月に生れた男の特徴である、同じく女、娘
としても妻としても只だシホらしく柔和く容貌も夫
に相應して大勢の中では人目につかぬけれどもよく
見ると趣が深い、或る者は見向きもしないが或者に
は非常に慕はれると云ふ風である、之は湯の様な風
が吹いて体はだるく氣は重く萬事が物うくて堪らぬ
五月に孕まれ、身を切を様な寒風が吹き荒れ体も心
も縮まる二月の而かも浮かれ廻つた正月の反動で
父母の心の沈み勝ちな時に生れるからである。

(三月生の男) 血色よく身体の發育も立派で氣分が
快活で多能であるが兎角心も定まらずして氣が移り
易く表面は強味があるけれども底は半熟の卵のやう
で大事な場合に臨むと案外腰が弱く見苦しい態をす
る事がある、野心多く慾望熾なれど其割合に成功の
遅いのは之が爲めである、同じく女、眞の美人は此

月に生れた者が多い、空想に富み氣位高く男など傍
へも寄つてぬ様に見へて其實心は案に相違して脆い
のが常、併し世間には皮層しか見へない者が多いの
で何時しか花の色徒らに移りてあたらしい美人に小町の
囁を懐かしめるのである、幸に早く人の妻となつた
ならば良人を貧に陥らしむるやうの事に有り勝なれ
ど其外には餘り婦徳に於ては欠けるやうな事はな
らう、此は蒸し暑く雨の多い六月に孕まれて春はこ
れからと云ふ氣に張のある時に生れるからである。

(四月生の男) 馬鹿者多く心も姿も共に締りないけ
らども稀には絢爛人目をくらます様な大天才の現は
れる事がある、又女は、流行を逐ふて花柳界の風を
模する事を好み物見遊山と顔のよい異性を好み尙の
主張もなく唯だ空々漢々と生を送り其癖贅澤である
と云ふのだから喧しい姑のある家へは行かれまい、
之は晝は眠むく夜は寝られぬ七月の暑さ盛りに孕ま
れて何となく氣の浮き立ツ花時に生れるからであら

(五月生の男) 沈鬱にして底に猛烈の氣を包んでゐる者が多く、稍もすれば大酒にして飲まぬ時は猫の如く柔しいが酔へば虎の如く荒れるのである、容貌は鈍くして眼るが如く疲れたやうな聲で物を云ふ、詩人や文學者や革命家などは即ち此性格で一旦激昂した時は平生の遲鈍沈鬱とは打つて變つて猛烈無比何者も之に當る事は出来ないと云ふやうになる、つまり一種の狂的精神を持つて居るからである、同じく女は、肥え太つて白豚の如く人に教へられた通りに挨拶すること、數限りもなく子を生むことのみを知つて其他の事は我關せず焉と濟すと云ふ風のものが多い、之は八月の炎天に孕まれて体のだるく氣の重くろしい時に生れるから碌なもの出来ないと譯である。

(六月生の男) 見るから惰者らしく無頓着らしく着物の着様もだらしなく一向歐領を得ぬ事はかり云ふ

の災難を受ける事がある、女は容貌豊艶にして銳氣外に現はれてゐる、自ら信じて事を爲したり、稍もすれば出舌張くせがある、夫れ故人に誤解されて恐ろしき女として取扱はれる様な事もあるが底には何の毒もなく案外無邪氣で見かけに奇らぬ臆病者が多い、去れば仮令騙婦とは云はれるかも知れぬが毒婦とか悪婦と云ふ譯には行かない、之れは實のれる秋の十月に孕まれて梅雨晴の烈しく照りつける酷日の下に生れたからである。

(八月生の男) 面に豪氣ありて裏に柔情を包んでゐる、世事に熱中しながらも底に潜んでゐる厭世觀はやむ時がない、商人ならば算盤玉を弾きながら發句を考へると云ふ風だし相撲取ならば他に申分がないが足が少々あぶない、丈夫に見へても見かけ程には頼もしからぬのが多い、容貌は尋常にしてよくも悪くもない、女は人の妻として先づ其任務には堪ゆる方である、泣言を云ひ擧面をしながらも自分の爲す

こと、云つても捉へどころない人に嘲罵されても唯だニヤ／＼笑つてばかり居ると云ふのが其平生であるが一旦眞面目になると一心不亂にやり遂げぬうち如何なる障害が起つても挫折せぬ俗物からは馬鹿扱ひにされるケレども其實は馬鹿でないのである、名人肌の男が多い、女子は、男の様な容貌をそなへ洒落を云ふ事が甘く大口を利く事を好んでゐるが其癖心は割台に細かく損得の勘定に明かであるから待合か料理屋の女將などには適當である、之は新涼肌やうな空氣の中に生れるからである。

(七月生の男) 思ひ切つて男らしく嚴めしき容貌をしてゐて心も快活豪邁であるけれども而も粗放に流れず實質固く締つて物に當る事強く鋭く物を壓する事が重く従つて人を畏服せしめ人に信任せられるけれども其の弊は片意地にして因業に傾き人を恨み人を憎むと共に人にも恨まれ悪まれて夫が爲めに思は

べき事は爲し守るべき事は守つて家事育児に孜孜として倦まぬのが常である、容貌は餘まり悪くもないが愛嬌には乏しい、之は野山が霜葉に装はれながら見る／＼彩色を現する十一月に孕まれ炎天の底に立つ秋の風吹きそめ何となく蕭條の氣の天地に満ちた月に生れるからである。

(九月生の男) 容貌俊爽にして多血多感俠骨霸期に富み豪傑の風格がある、けれども修養其道を得ない時は徒らに張子の虎の様な看板的豪傑となつて一時はワイ／＼連に昇ぎ上ぎられる、けれども間もなく打棄てられ踏潰され世の物嗤の種となる、女は常に嬉しげに且ツ忙しげに見へて世話すきに口數多くそゝつかしい者が多い容貌は餘り美しくはないけれども愛嬌があつて多くの人に持難される、好んで人の縁談の取持をするけれども人は我が爲めに嫁入口を探しては呉れず偶々其問題が持上つても『あれか』と云つて笑ひ消されるが常で得なやうな損な性分

ある、之は新年を前に控へて押詰つた十二月に孕まれ秋高く馬肥ゆる月に生れたからである。

(十月生の男)人の頭となるべき資格を備へてゐる。氣と智慧を具へ居て小兒のやうに無邪氣なりと見ても底には中々食への所があり、種々の複雑な性質を帯びてゐて万般の事物に應ずる事が出来る、人生の感と觀じて時々突飛な行ひをなし物を打壞してリ婚がる風がある、其の爲に不利を招く事があるけれども毫も悔ゆる色なく人から頭に推されても煩はしさを厭ふて之を避けると云ふ風變りである、容貌は誠實と潔白を表して美しくはないが人を引き付ける力を持つて居る、殊に其の眼は鏡面のやうに明かで一毫も蔽はず心に思ふ所を映し出す、又女子は端正にして豊艶なる顔をしてゐて愛嬌と威嚴とを二ツながら持つてゐる、娘としては父母の家の光彩となり、妻としては其家庭を王國の如く莊嚴ならしめる、之は和樂多く希望に充ちた正月に孕まれ米穀

充實する十月に生れ天然と人事とが共に其子を祝福するからである。

(十一月生の男)實實にして思慮周密容貌は愚かなるやうであるが、數理に通じ經濟に明かて工夫とか發明とかに通じてゐる、妻を迎へるにも其顔や姿を取らずして貞淑にして虚飾なきを選ぶ、外貌瓦の如くにして實質金のやうな多くの子をまうけ一家益々繁昌する律義者の子澤山とは之である、けれども頑迷固陋にして人生の眞味を解し得ざるものも多い女子は貞淑にして平素不平なく非望を起さず貧しくてもコボさず富んでも鼻にかけぬ始終一日の如く家事に精を出して倦まぬ、容貌は多く醜くして手足が下女のやうに太く荒い、之は正月は既に過ぎ長閑なる三四月にはまだ間があり唯だ寒氣と勞作とのみある二月に孕まれて收穫既に終り何もなき野山を木枯の吹き荒ぶ十一月に生れ腹の中で萌へ出る時より枯れる迄の一期を経過したからである。

(十二月生の男)活達にして能く働き能く費す容貌は凛として男らしく笑顔に云ふに云はれぬ美しさ愛嬌とがある、然し能く策し能く行ふ割合に異算が多く目論見違ひの事が度々で失敗を重ね氣の毒なる場合が多い、女子は瘦すぎの清楚なる別嬪多く氣性者にて大抵の鳥夫は尻にしかれるであらう、家政を

執る事が拙く目に見えぬ失費のみ重なつて之を女男に持つ男は厄介此上ない、其癖娘のうちにはあれが丸髷を結つて世帯を切り廻す様子が見たいなどと云はれるのが常である、之は三月の春や、樂しからんとする時孕まれ年末押し詰つて市の賑ふ時に生れるからである。

◎商賣始めを忌む日

子年の人は卯酉の日。 丑年の人は辰戌の日。
寅年の人は己亥の日。 卯年の人は午亥の日。
辰年の人は未丑の日。 巳年の人は申寅の日。
午年の人は酉卯の日。 未年の人は戌未の日。
申年の人は亥己の日。 酉年の人は子己の日。
戌年の人は丑午の日。 亥年の人は寅申の日。
右の日は開業開店等凡て商賣始めに凶日であつて損失多し故に毎月此日を忌むべし。

◎種蒔の吉凶

正五九月は寅、申日。 二六十月は亥、己日。
三七十一月は申寅日。 四八十二月は巳日。
右を天福日と云ふて種まきに大吉日なり。
正四七十月は子の日。 二五八十一月は午の日。
三六九十二月は酉の日。
右を不熟日と云ふて種まきに大凶日なり。

◎旅行の方位と吉凶日

子の日

東へ行けば財を得る。
西へ行けば酒宴の饗應を受く。
南へ行けばよし。
北へ行けば盗難に逢ふ。

丑の日

東へ行けば利益を受く。
西へ行けば大によし。
南へ行けば災難を受く。
北へ行けば病氣にかゝる。

寅の日

東へ行けば利益を得る。
西へ行けば思ふ事叶ふ。
南へ行けば災に逢ふ。
北へ行けば人に勸迎せらる。

卯の日

東へ行けば大によし。
西へ行けば女難あり。
南へ行けば寶を得る。
北へ行けば喜び事あり。

辰の日

東へ行けば病事あり。
西へ行けば人より敬まはる。
南へ行けば思はぬ利益あり。
北へ行けばよし。

巳の日

東へ行けば病難あり。
西へ行けば口舌争論あり。
南へ行けば盗難紛失あり。
北へ行けば目的十分達せず。

午の日

東へ行けば災難あり。
西へ行けば火難水難を慎むべし。
南へ行けば病難あり。
北へ行けば大にわるし。

未の日

東へ行けば病にかゝる。
西へ行けば喧嘩口論をする。
南へ行けば吉事あり。
北へ行けば金銭の利益あり。

申の日

東へ行けば病氣あり。
西へ行けば女の爲めに幸ひを得。
南へ行けば災ひあり。
北へ行けば利益あり。

酉の日

東へ行けば驚くことあり。
西へ行けば口舌事あり。
南へ行けば幸ひあり。
北へ行けば病氣にかゝる。

戌の日

東へ行けば寶を得る。
西へ行けば心配事多し。
南へ行けば病ひあり。
北へ行けば幸福多し。

亥の日

東へ行けば喜び事あり。
西へ行けば思ふ事叶ふ。
南へ行けば財を得る。
北へ行けば意外の利益を得る。

◎旅立の吉日

正月 寅、申、巳、丑。 二月 亥、巳、午、寅。
三月 寅、巳、未、丑。 四月 寅、辰、巳。
五月 寅、卯、酉、巳。 六月 寅、巳、午、戌。
七月 亥、未、巳、申。 八月 寅、亥、申、子。
九月 巳、酉、卯、丑。 十月 子、寅、戌、亥。
十一月 卯、巳、申、亥。 十二月 子、寅、卯、亥。
右の日旅行すれば災難なく無事に歸宅せらるゝと云ふ吉日である。

◎遠方に行くを忌む日

正四七十の月は酉の日。 二五八十一月は巳の日。
三六九十二月は丑の日。
此日遠方へ旅立すれば歸らずと云ふ大凶日である。

昭和十年五月廿日印刷
昭和十年五月廿五日發行

定價金五拾錢

不許
複製

著作者

板本進一郎

印發行
者兼

大阪住吉區天王寺町三三九六
田村政次郎

印刷所

大阪住吉區天王寺町三三九六
板本印刷工場

大阪市浪速區元町二丁目一〇六

發行所

合資

板

本

書

店

電話船場一六三四番
振替大阪三四八二番

368

372

終

